

# テレビジョン放送における手話通訳実践に役立つ 参考例集

令和7年3月

「テレビジョン放送における手話通訳実践に役立つ参考例集」作成委員会



## まえがき

日本でテレビジョン放送に手話通訳が初めて挿入されたのは、昭和 49（1974）年テレビ静岡の「ワイドイン静岡」という番組でした。当時の関係者にうかがうと、放映後に「あれはなんだ」「邪魔だ」等々視聴者から大きな反響があったそうです。それから 51 年が経過し、国民の手話や手話通訳に対する理解が広がり、テレビジョン放送の画面に手話通訳者の映像が入ることも受け入れられるようになってきました。

平成 18（2006）年、国連で障害者権利条約が採択され、それを批准した日本政府は、障害者基本法の改正、障害者差別解消法の制定など、障害のある人もない人も等しくテレビジョン放送から情報を取得できるための努力がなされてきました。きこえない人、きき取りにくい人のための字幕放送や手話放送、見えない人、見えにくい人のための解説放送などです。

しかし、手話放送は字幕放送等と比べ、遅々として進んでいないのが現状です。その原因の一つとして、テレビジョン放送における手話通訳を担える手話通訳者が少ない、都市部に比べ地方で手話通訳者の確保が難しい等地域格差が指摘されています。それらを解消するために、総務省では平成 30（2018）年度から「テレビジョン放送における手話通訳育成に関する調査研究」事業を開始し、テレビジョン放送における手話通訳を担える手話通訳者の育成に努めてきました。

当事業の研修会では、受講者は 3 分程度のテレビジョン放送等の映像に受講者自身で手話通訳を付けた映像を作成し、この映像を講師陣がどうすればもっと見やすくなるかという視点から評価、アドバイスをするという方法で進められています。受講者はニュース性の高い映像と文化的要素の高い映像から、受講者自身が挑戦したいものを選んで作成します。

この参考例集は、受講者による手話通訳の映像を見ての講師の講評をもとに整理したものであり、日常的に映像を見る立場のきこえない講師、手話通訳を担当するきこえる講師によって評価も違いますし、きこえない講師の間でも評価が異なることもあります。つまり、見やすさは、見る人の年齢や社会経験等さまざまな要因で異なるということも理解してお読みいただきたいと思います。

テレビジョン放送は、映像による視覚情報とアナウンサーや映像に登場する人物による音声情報が同時に提供されます。テレビジョン放送における手話通訳の基本は、この膨大な情報をテレビを見ているきこえない、きき取りにくい人々にどのように伝えるかということ、そして、放送されている情報の意図を的確につかみ、まとめ、見ている人がわかる手話通訳、見ている人に伝わる手話通訳ができるということです。そのためには、テレビジョン放送等の映像の活用や今誰が話しているのか話者の明確化等、テレビジョン放送における手話通訳に必要な知識や技術が重要になるのです。書籍用に書き下ろしたものでないので読みづらい部分もあるかと思いますが、皆様の今後のテレビジョン放送における手話通訳実践に少しでもお役に立つことを願っています。

令和 7（2025）年 3 月

「テレビジョン放送における手話通訳実践に役立つ参考例集」作成委員会

## 目 次

|          |    |
|----------|----|
| はじめに     | 3  |
| 第1章 分類一覧 | 5  |
| 第2章 表記一覧 | 11 |
| 第3章 参考例集 | 12 |
| 参考文献     | 94 |

# はじめに

## 1. 目的

平成30年度から令和5年度までの「テレビジョン放送における手話通訳育成に関する調査研究」で実施した研修会の実技において、講師から指摘のあった表現技術の具体的留意点についてとりまとめ、「テレビジョン放送における手話通訳実践に役立つ参考例集」（以下、「本参考例集」という。）を作成し公開することにより、テレビジョン放送における手話通訳者の育成を促進することを目的とする。

### （※）実技の実施概要

検討委員会にてカリキュラムを検討し、示されたテーマに沿ったテレビジョン放送等の映像に、受講者が手話通訳を付け、講師が講評を行う形式で実施。

#### ・検討委員会委員（敬称略）

- 小出 新一 社会福祉法人全国手話研修センター常務理事  
全国手話研修センター所長  
一般社団法人全国手話通訳問題研究会参与
- 近藤 幸一 一般社団法人全国手話通訳問題研究会副会長  
社会福祉法人全国手話研修センター理事  
社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会理事兼事業本部長
- 中西久美子 一般財団法人全日本ろうあ連盟副理事長  
特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会理事長
- 柳 喜代子 認定 NPO 法人障害者放送通信機構「目で聴くテレビ」ディレクター  
手話通訳士

#### ・映像のテーマ

- 平成30年度 ニュース番組、ローカル番組
- 令和元年度 ニュース番組、ローカル番組
- 令和2年度 ローカルニュース番組、全国ニュース番組、新型コロナウイルス首長会見、  
その他教養番組等
- 令和3年度 ローカルニュース番組、全国ニュース番組、新型コロナウイルス首長会見、  
その他教養番組等、情報番組（新型コロナウイルス関連、文化関連）
- 令和4年度 情報番組（新型コロナウイルス関連、文化関連）
- 令和5年度 情報番組（国際紛争関連、文化関連）

#### ・講師（敬称略）

- 中西久美子 一般財団法人全日本ろうあ連盟副理事長、  
特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会理事長
- 江原こう平 国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科専任教員
- 柳 喜代子 認定 NPO 法人障害者放送通信機構「目で聴くテレビ」ディレクター  
手話通訳士
- 重田 千輝 認定 NPO 法人障害者放送通信機構「目で聴くテレビ」ディレクター・キャスター

社会福祉法人全国手話研修センター手話言語研究所事務局長  
高橋 益代 社会福祉法人千葉県聴覚障害者協会事務局長 ※令和3年度1回目を担当

## 2. 作成委員会委員（敬称略）

小出 新一 社会福祉法人全国手話研修センター常務理事  
全国手話研修センター所長  
一般社団法人全国手話通訳問題研究会参与  
近藤 幸一 一般社団法人全国手話通訳問題研究会副会長  
社会福祉法人全国手話研修センター理事  
社会福祉法人京都聴覚言語障害者福祉協会理事兼事業本部長  
中西久美子 一般財団法人全日本ろうあ連盟副理事長  
滋賀県立聴覚障害者センター所長  
特定非営利活動法人全国聴覚障害者情報提供施設協議会理事長  
江原こう平 国立障害者リハビリテーションセンター学院手話通訳学科専任教官  
全国手話通訳問題研究会東京支部副運営委員長  
一般社団法人全国手話通訳問題研究会事務局付事務局員  
重田 千輝 認定 NP0 法人障害者放送通信機構「目で聴くテレビ」ディレクター・キャスター  
社会福祉法人全国手話研修センター手話言語研究所事務局長  
柳 喜代子 認定 NP0 法人障害者放送通信機構「目で聴くテレビ」ディレクター  
手話通訳士

## 3. 事務局

株式会社アステム

## 第1章 分類一覧

実技において講師から指摘のあったテレビジョン放送における手話通訳の表現技術の具体的留意点を、特徴ごとに集約・整理し、下記の項目に分類しとりまとめた。

### 1. 手話通訳（映像通訳）について

- (1) 伝わりやすい通訳
- (2) 日本語や話者の意図や意味を伝える通訳
- (3) 翻訳の等価性
- (4) 映像通訳で想定する対象者
- (5) ライブ配信（生放送）・事後収録の考え方
- (6) 手話の基本文法（8文法）と手話通訳技術の7ポイント

### 2. 通訳環境の整備

- (1) 背景
- (2) カメラの位置
- (3) 立ち位置
  - ①話者と通訳者を2ショットで撮影する場合
  - ②話者と通訳者を別のカメラで撮影し合成する場合、または、映像と手話通訳映像を合成する場合
- (4) 映像の尺
- (5) カメラマンとの調整
- (6) 話者の話す速度
- (7) 音響
- (8) 照明
- (9) 返しモニター

### 3. 画面全体での情報保障

- (1) 字幕
- (2) ワイプ

### 4. 事前準備（前日まで）

- (1) 基本的な準備方法
- (2) 提供された原稿をもとに行う準備
- (3) 事前に本編映像の提供がある場合
- (4) 知識の習得
- (5) カメラのレンズ付近に貼る表示の準備
- (6) 事前練習

### 5. 事前準備（直前）

- (1) 佇まい・立ち方
- (2) 姿勢・脇
- (3) 癖

- (4) ベースの表情
- (5) 身だしなみ
  - ①服装
  - ②眼鏡
  - ③前髪
- (6) ホームポジション
- (7) 表現の位置
- (8) 表現の大きさ
- (9) 表現の速度
- (10) 撮影直前のチェック

## 6. 映像の活用

- (1) 手指を活用した映像の指し示し方
  - ①映像全体を指し示すとき
  - ②映像の一部を指し示すとき
- (2) 視線を活用した映像の指し示し方
- (3) 映像と手話の活用
- (4) テロップの活用
- (5) 難解用語が使用される場合
- (6) 映像を見る時間の提供

## 7. 映像との整合性

- (1) 左右軸
- (2) 位置関係
- (3) 図表
  - ①表
  - ②図
- (4) テロップ
- (5) 場面転換

## 8. 単語の表現

- (1) 語彙の選択
- (2) 新しい手話
- (3) 標準手話・地方手話
- (4) 否定形から肯定形への言い換え
- (5) 年齢による使い分け
- (6) 動詞
  - ①敬語
- (7) 名詞
  - ①固有名詞
    - ア 表し方
    - イ 人名



- ウ 地名
- エ 法律名
- オ 繰り返し話題に出る固有名詞の省略方法
- ②指文字
  - ア 使用基準
  - イ 表現の位置
  - ウ 表現の向き
  - エ 表現の速度
- ③数字
  - ア 表現の向き
  - イ 表現の速度
  - ウ 1～2桁の場合
  - エ 複数桁の場合
- ④アルファベット
  - ア 国際手話の指文字・日本式アルファベット指文字・空書
  - イ 読み方が難しい英語名の単語
- ⑤外来語
- ⑥単位
- ⑦代名詞
- ⑧上位語と下位語の活用
  - ア 固有名詞の前に上位語を表す手法
  - イ 数字の前に助数詞を表す手法
  - ウ 日付の前に時制を表す手法
- (8) 形容詞・副詞
- (9) 手話の音韻
  - ①手の動き
  - ②手の位置
  - ③手の形
- (10) 無標手型・有標手型
- (11) 具体的表現を意識した翻訳（写像性）
- (12) 映像通訳でより見やすさを検討する必要がある手話単語
- (13) 見間違いやすい手話単語
- (14) 読み方がわかりにくい日本語単語
- 9. 文の表現
  - (1) 翻訳の考え方
  - (2) 語順の入れ替え
    - ①手話に適した語順
    - ②複文から単文へ
- 10. 文法

- (1) 「間（ま）」の挿入
- (2) うなずきの挿入
  - ①文頭・文末
  - ②接続詞
  - ③並列表現
- (3) 文末処理
- (4) 首振りの挿入（否定）
- (5) 繰り返し表現
  - ①同じ語彙の繰り返し
  - ②別の語彙の追加
- (6) 空間活用
  - ①身体からの距離
  - ②位置関係の表し方
  - ③左右空間の有効活用
  - ④地図の表現
- (7) 主語の明確化
  - ①指さしの活用
  - ②縮小型の手話の活用
  - ③RS（身体の向きを変える方法）
  - ④RS（視線・目線を使う方法）
  - ⑤RS（動詞の主語になりきる方法）
  - ⑥RS（その他）
- (8) 話者の明確化
  - ①RS の活用
  - ②うなずきの活用
  - ③映像を手のひらで指し示す方法の活用
  - ④質疑応答の場面
- (9) 言い換え
- (10) 具体的表現を意識した翻訳
  - ①時の経過に合わせた具体的表現
  - ②写像性（文レベル）
  - ③指示語の場合
  - ④問いかけの場合
  - ⑤翻訳に注意する日本語リスト
- (11) A/よい/B構文
- (12) A not B構文
- (13) サンドイッチ構文
- (14) Wh 分裂文
- (15) モダリティ・ニュアンス

- (16) 文末コメントの活用
- (17) フィラーの翻訳方法
- (18) 日本語の方言の翻訳方法
- (19) 話者が外国語で話すとき
- (20) スリム化
  - ①翻訳のコツ
  - ②うなずきの代用
  - ③<時>の省略・うなずきの代用
  - ④接続詞の省略／うなずき・首振りの代用
  - ⑤指さしの代用
  - ⑥手話の強弱・表情の代用
  - ⑦映像の活用
  - ⑧両手の活用
  - ⑨ノイズの省略
  - ⑩繰り返されるときの省略
  - ⑪省略できる手話単語
  - ⑫省略できない手話単語
  - ⑬要約する場合の取捨選択方法
  - ⑭その他

## 11. 文法 (NM)

- (1) 表情
- (2) 口型
  - ①日本語通りに表すとき
  - ②音声に合わせてとき
  - ③手話として適した口型
  - ④5W1H・助数詞
  - ⑤訓読み
  - ⑥日本語単語の例
  - ⑦手話単語の例
- (3) 目線・視線
  - ①カメラ目線
  - ②距離感・大きさを示すとき
  - ③対象物を見るとき
  - ④話者の明確化を行うとき
  - ⑤考える姿を示すとき
  - ⑥その他
- (4) 眉
- (5) 目
- (6) 身体の傾き

## 12. トレーニング

- (1) イントラリンガル
- (2) サマリー
- (3) 体幹
- (4) 表情
- (5) 手のストレッチ
- (6) その他

## 13. その他

- (1) お辞儀
- (2) 話者の話し声以外の音声情報
- (3) 話者の声量の情報
- (4) 聞き溜め
- (5) 音声からの脱却
- (6) 意識と誤訳との境界線
- (7) 場面に合った表現
  - ①エンタメ
  - ②知事会見
- (8) 心構え

## 14. Q&A

## 第2章 表記一覧

本参考例集では、手話や日本語、テレビジョン放送に関する用語等について、下記の通り表記する。

| 本活用集における表記      | 説明                                                                |
|-----------------|-------------------------------------------------------------------|
| 「学校で学ぶ」         | 日本語で、「学校で学ぶ」と話すとき                                                 |
| <学校/PT3（学校）/学ぶ> | 手話で、「学校で学ぶ」と表すとき                                                  |
| 手話              | 手話言語、手話                                                           |
| 本編映像            | 映像、元の映像、動画、課題                                                     |
| 映像通訳            | テレビジョン放送等の映像に手話通訳をつける                                             |
| RS              | ロールシフト、レファレンシャルシフト<br>話者が「現在の自分」以外の人物の考えや行動を引用して伝える表現             |
| PT1、PT2、PT3     | 指さし（ポインティング）の略称で、PT1は私、PT2はあなた、PT3は第三者等                           |
| （右手）、（左手）       | 利き手を（右手）とし、非利き手を（左手）とする                                           |
| 表す              | （手話を）表出する、表現する、表す                                                 |
| 例）<力><ソ>        | 指文字の表し方                                                           |
| NM              | NMM（non-manual markers）、NM（non-manual）<br>手や指以外の体の部分を用いる表現（非手指表現） |
| 例）手型「コ」         | 手型の表し方                                                            |
| 〇〇、□□など         | 課題内の人名や固有名詞等を伏せて表す場合                                              |
| 話者              | 話し手、話者                                                            |
| 映像を手のひらで指し示す    | 映像を手のひらで指し示すとき                                                    |
| PT3（映像）         | 映像を人差し指で指すとき                                                      |
| （うなずき）          | うなずき                                                              |
| （首振り）           | 首振り                                                               |
| 日本式アルファベット指文字   | 日本式アルファベットの指文字                                                    |
| 国際手話の指文字        | 国際指文字、国際手話の指文字                                                    |
| 指さし             | 指さしを使って表すとき                                                       |
| ホームポジション        | 待機ポーズ、ホームポジション、待ちのポーズ                                             |
| 例）口型[pe]        | 口型                                                                |
| 例）[驚く][大変]      | 感情表現                                                              |
| 字幕              | クローズドキャプション、視聴者側で表示/非表示の切り替えができるもの                                |
| テロップ            | 画面上に映し出される文字情報                                                    |
| 寄り              | 撮影対象の一部をアップで撮影すること                                                |
| 引き              | 撮影対象の全体が入るように撮影すること                                               |

## 第3章 参考例集

### 1. 手話通訳（映像通訳）について

#### （1）伝わりやすい通訳

- ・ きこえない人たちにどう伝えるかではなく、どう伝わるかを考える。理解してもらうのではなく「正しく伝わること」が大切。「映像通訳を通して情報を得ることで、意識を持ち、行動できるようにする力が育つ。そういう意味で、発信された情報を的確に伝えることが大切」ただ、通訳をして終わりではなく、視聴者にとってどのように役に立ち、どのようなことが大切なのかを考える。
- ・ 日本語の字面や、きこえてきた内容だけを表現するのではなく、その背景や話者やテレビ制作側の意図を含め、手話をどのように組み立てていくのかを考えることが大切。
- ・ 対象者を意識して通訳も伝わりやすい表現を心がける。ろう者がその話を理解し、次に何をすべきか、どんな行動をとるかがわかる通訳ができることが大事。

#### （2）日本語や話者の意図や意味を伝える通訳

- ・ 「〇〇小学校にやってきました」とリポーターが現地にいる時のコメントの翻訳について。<〇〇小学校/来た>と「現地に来た」という事実を伝えるだけでなく、<こども/どうしている？>と、つまり、何を伝えたいのか、現地に来た本来の意図を伝えられる翻訳を考える。そうすることで、これから映る内容を視聴者が想像できる。
- ・ 通訳は「つまりどういう意味？」という部分を意識し、手話として伝わりやすい形に翻訳する。  
例）「総合的に判断」は総合的に何を判断するのか下位概念や、理由なども付け加えるとわかりやすい。

また、「医療機関 ではない」は、つまり何のことを指すのか。<病院/医療/専門/ではない>など、具体的な表現を少し足すことができるとわかりやすい表現になる。下位概念や、具体的な方法や手段、動作や行動、言いたいことや伝えたいことは何かなど、日本語で形式的に文や話（テキスト）には出てこない。また、「医療機関ではない」という日本語をただ単に<医療/機関/違う>と訳すのではなく、他に分かりやすい言い換えがないか、検討するとよい。手話の用途として必要な部分、ある方が分かりやすい部分、意味として明確化する部分などを伝え、伝わる通訳になる。

#### （3）翻訳の等価性

- ・ 「身体のだるさ」と「倦怠感」の表現をどのように分けるか。意味が異なるため、同じ言葉と捉えない。通訳の等価性や、手話そのものをきこえない人に伝えることが大切であるため、適切な表現を考えてほしい。

#### （4）映像通訳で想定する対象者

- ・ “等価”とは何か考える必要がある。日本語としての意味と、話者が伝えたい意図との違いがある。視聴者の中には、「字幕で日本語の意味を捉えられるため、（手話を見てわからないときは）字幕を見ればよい」と考える人がいれば、「手話でないと意味が汲み取れない内容は手話でその

意味をきちんと通訳者が出す必要がある」と考える人もいる。通訳者としてそれを意識して表さないと、「言っていることはわかるけれど何を言いたいのかが伝えられない通訳」になってしまう。話者の意図を伝えることができないと、「コミュニケーションの不一致」で終わってしまう。また、視聴者の中には、新聞やインターネットによって文字情報を拾うことができない人もいる可能性があることを意識することが必要であると考えられる。話の口調と意図の2つの要素を含める必要がある。淡々と話しているが、強い意味合いをもつこともあるため、手話通訳者がどのようにキャッチするかが関係する。淡々と話しながらも、批判をしているのであれば、その批判の強さは手話や NM に現れる。逆に、淡々と表情も手話の強さも意識せずニュートラルな状態で表すと、批判している内容であっても、強く批判しているのか弱く批判しているのかわかりにくい表現になってしまう。つまり、黒子のような形式的な通訳ではなく、文意が伝わる通訳をしていかなければならない。通訳者の捉えた内容になってしまう部分もあるが、捉えた部分は表現をしていくということが必要である。

- ・現在、テレビ放送の情報保障は、字幕付加が先進しており、手話付加は途上である。そのため、字幕ではわからない人のために手話通訳を付けるという考え方がある。ろう者の中で、「字幕を見てもわからないため、手話で意味を理解する」という意見はとても多い。ただ、字幕も付いていない場合は、耳のきこえにくい人や手話を覚えただけの人も対象者として含まれることになるため、誰を対象に考えたらよいか、非常に難しい。きこえない人の中でも考え方は多様であるため、統一できるものではない。考え方を整理していく必要がある。
- ・「瞬時に見て、話者の意図が視覚的にわかる通訳」、「見ていて疲れずに見ることができる通訳」を求めているが、ろう者によって求める内容は異なる。日本語通りに通訳してほしい人や、「手話で、要約してわかればよい」という人もいるため、一概には言えない。ただ、字幕と照らし合わせて見ることも難しいため、必要に応じて表情や身体への向きも意識して、ある程度、見てわかる技術を身につけてほしい。
- ・字幕は最近増えているため、「字幕を見ればわかる人」というよりも、「手話を見て手話で情報を知りたいと思っている人」に対して通訳することが必要。ある程度の学習・生活能力がある人だけでなく、幅広い層を意識するとよい。
- ・社会経験が多い人々だけではなく、どちらかと言うと、一般的なろう者を思い浮かべるよう心がけている。
- ・（ろう者である）自分だけでなく、一般的に多くの人ができる手話表現を心がけている。
- ・日本に滞在するろうの外国人から、「（テレビを見るとき、）日本語字幕は読めないが、手話通訳は、表情や手話の強弱を見て、その意味を想像することができた」と話をきいたことがある。これは地震が起きたときなど、緊急時にろうの外国人の助けとなるため、ろうの外国人も見ている可能性があることを意識するとよい。

#### （5）ライブ配信（生放送）・事後収録の考え方

- ・ライブ配信の場合は、同時通訳となるが、事後配信の場合は、手話通訳は同時通訳の映像を再利用するのではなく、再収録できるよう、障害者団体とともに責任者に対して交渉する方がよい。
- ・同時通訳と事後収録では、どうしても同時通訳の方が精度は落ちてしまう。同時通訳した後、事後配信は同時通訳の映像を使用せず、後日、手話通訳のみ再収録しているところもある。これが

きこえない人にとっては理想ではあるが、予算や手話通訳者の人数など、さまざまな条件を踏まえて検討する必要がある。

## (6) 手話の基本文法（8文法）と手話通訳技術の7ポイント

### 手話の基本文法(8文法)と手話通訳技術の7ポイント

| 手話の基本文法                                                            | 手話通訳技術の7ポイント                                     |                                                  |
|--------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 現在日本の聴覚障害者が日常生活において一般的に使用している手話の共通的な主な特徴 「手話奉仕員及び手話通訳者の学習指導要領」より   | 手話通訳技術(表現技術)におけるチェックポイントを7つにまとめたもの               |                                                  |
| 1. 具体的表現技術<br>①形・動作・状況、②意味・内容の一致                                   | 1. 豊かな語彙とその選択<br>文脈や状況に応じて、手話や日本語の選択が的確に行なわれているか | 6. 写像的表現<br>表現すべき事柄があたかも実際の事物や動作であるかのように表現されているか |
| 2. 置き換え表現技術<br>音声言語の意味・内容にあった表現                                    | (1. 豊かな語彙とその選択)                                  |                                                  |
| 3. 手や顔・身体表情<br>手、顔、体の表情及び手話の強弱、速度の変化                               | 2. 表情<br>顔の表現が手話表現として適切に表されているか                  |                                                  |
| 4. 格の決定<br>①2人での位置関係、②3人以上での位置関係、<br>③指差し、④上体移動、⑤位置・方向・指差し・上体移動の駆使 | 3. 主語の明確化<br>上体の移動、指差し、視線の変化等によって主語を明確にしているか     |                                                  |
| 5. 空間の活用<br>①前後・左右・上下、②組み合わせ(時の経過・人間関係)、③代理的活用(指差し・視線の活用)          | 5. 時間空間の活用<br>時間の流れ、場所の変化など空間を使用して適切に表現されているか    |                                                  |
| 6. 同時表現(両手の活用)                                                     | 7. 同時的表現<br>手指や表現、身体表現などによっていくつかの事柄が同時に表現されているか  |                                                  |
| 7. 指の代理的表現                                                         | 4. 代名詞化<br>手指や空間を代名詞として有効に使用しているか                |                                                  |
| 8. 繰り返し表現(複数、話の強調、連続性)                                             |                                                  |                                                  |

- ・手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう 手話で話そう」に掲載している。

「手話の基本文法」は、現在、日本の聴覚障害者が日常生活において一般的に使用している手話の共通的な主な特徴として、「手話奉仕員及び手話通訳者の学習指導要領」で定められている。

「手話通訳技術の7ポイント」は、通訳技術におけるチェックポイントとなっていて、手話の基本文法に当てはめると上記のような図になる。「6. 写像的表現」は、全体をフルに活用するものとする。これを理解し、使いこなせなければ、映像の通訳でもよい通訳ができない。これは通常の通訳現場も同様。手話言語学として整理されたものを新しい知識として学びながら、このようなベースとなる基本を振り返っていくことも大事。

## 2. 通訳環境の整備

- ・(通訳環境は、)通訳者の責任ではなく、きこえない人、皆の意見として出して改善していくことが大切である。通訳者も安心して通訳できる環境整備が必要となる。
- ・映像の明るさ、背景、ワイプの大きさなど、通訳の撮影環境の整備はテレビ局や映像制作側との交渉になるが、障害者団体と連携しながら伝えていくことが大事。
- ・ワイプの大きさや音声環境、返しモニターの設置、手話通訳の背景、字幕など、映像制作者と話ができる環境を作っていくことが大切。知事会見の場合は他の都道府県や、テレビ放送の場合は他社のよい事例を提案し、よりよい映像を作っていくために意見を引き出していくこと、制作者とのよい関係を構築することも大事。



### (1) 背景

- ・都道府県知事の会見では、背景が格子柄のバックパネルを使用していることが多い。指文字が背景の柄に重なって見にくいこともある。パーテーションを置くなど、工夫している地域もある。
- ・背景紙が濃いグレーで見にくいため、障害者団体とともに、見やすい色について意見交換し、放送局等に交渉してはどうか。
- ・見やすい背景色について、障害者団体と相談しながら提案できるとよい。薄いグレー、水色等が見やすいと言われることも多い。
- ・濃い緑や濃い青の背景紙は、撮影した映像を別の映像と合成する「クロマキー合成」のために使用するものであるため、その色をそのまま背景として使用するものではない。見やすい色については制作者等と相談を。

### (2) カメラの位置

- ・記者会見の際、会場にカメラが多数あり、どのカメラに視線を向ければよいか困るときは、手話収録用として使用するカメラを担当者と事前に確認しておくことが大切。
- ・カメラ位置が低く、下から撮影する場合、手と顔が重なって見えてしまうため、調整できる場合は放送局等と、カメラの高さを調整してもらえるように交渉を。

### (3) 立ち位置

#### ①話者と通訳者を2ショット（※）で撮影する場合

（※）2ショット…1台のカメラで2人を同時に撮影すること。

- ・話者が椅子に座っているが、その隣に手話通訳者が立っているため、高さが違い、違和感がある。話者と同じ高さで通訳できるように放送局や主催者との調整を。難しければ派遣元等と相談を。

#### ②話者と通訳者を別のカメラで撮影し合成する場合、または、映像と手話通訳映像を合成する場合

- ・昭和40年代後半に初めてテレビに手話付加を行われ、映像の右下に手話を付加する形が一般的となったが、映像の左側に手話を付加する方が見やすいという考えもある。手話付加は映像に対してどの位置がよいか、ろう者の意見も聞き、検討するとよい。
- ・手話通訳映像をワイプで合成する場合、映像の上に重なってしまうため、放送局と調整し、ワイプが重なる部分に大事な映像が入らないように撮影してもらうこともある。

### (4) 映像の尺

- ・（受講生より）映像の終了直前まで話者が話している場合、手話は数秒遅れて表すため、表現の途中で切れてしまう場合があるが、どのようにしたらよいか。
  - （講師より）手話通訳は、1秒以上遅れてしまうため、映像が終わった後、少なくとも数秒残してほしい旨放送局に伝えるとよい。
  - （講師より）手話通訳の映像は、2、3秒の余裕を持たせて撮影するようにしていたとしても、訳出する内容や手話通訳者によってどのくらいのタイムラグがあって終わるのか、異なる。収録の終わりの時間を意識するとともに自分が何秒程度の遅れで表し終わる傾向があるのか、注

意しておいた方がよい。

(5) カメラマンとの調整

- ・カメラマンに、「カメラ目線で」と言われたとき、手話には文法としての「視線」があることを説明する必要がある。

(6) 話者の話す速度

- ・外来語が多く、表現が速いためわかりにくい。もし、同時収録で話者との調整ができる場合は、外来語はできるだけゆっくりと話してもらえるように事前にお願いとよい。

(7) 音響

- ・＜方法＞のときの手の甲をたたく音が話者のマイクに入っているが、話者の隣に立つときなど、マイクが音を拾ってしまうため、注意する必要がある。
- ・（受講生より）話者の声がきこえにくいときは省いてよいのか。  
→（講師より）記者会見等で同時収録の場合、記者の回答時に手元にマイクがないため、大勢の記者のパソコンのタイピング音が入ってしまい、記者の音がきこえにくいことがあるが、記者の一人ひとりにマイクを設置したり、前に来てもらってオンマイクで話してもらったりするなど、主催者に相談し、調整を図ることもできる。手話通訳者の主張ばかり言いすぎると担当者の理解を得られず、逆効果になってしまう場合もあり、「記者会見の部分は通訳不要だ」と言われてしまう可能性もある。調整が必要だが、担当者に理解してもらうよう可能な限り、通訳の環境整備に努めることはできる。きこえにくい場合は何もしないのではなく、きこえないということを伝える、何か話をしているという状況を伝える、このような内容を言っているなど、きこえない状況に応じて対応できる場合もあるのではないかな。

(8) 照明

- ・話者には照明が当たっているが、手話通訳者には照明が当たっていない。照明が暗い場合は、放送局や主催者等、調整を図った方がよい。

(9) 返しモニター（※）

（※）返しモニター…手話通訳収録時、映像、または、カメラに映る手話通訳者の映像を手話通訳者自身に見えるように設置するモニターのこと。

- ・返しモニターは、聞こえにくかった時の確認など（テロップなどの確認）のときだけ補助的に見るようにし、返しモニターを見続けるとカメラ目線ではなくなってしまうため、そうならないように気をつける。

### 3. 画面全体での情報保障

(1) 字幕

- ・（受講生より）手話通訳収録時、小さな音声で通訳をしにくかったため、通訳を省略したが、収録後に付加された字幕では、その音声拾われて表示されてしまったため、視聴者に「なぜ省略

したのか」と言われてしまった。

→（講師より）字幕と手話通訳は連携しながら制作する必要がある。ろう者にも知ってもらい、障害者団体として放送局に交渉しに行ってもらってはどうか。

→（講師より）放送局も時間に迫って作業を行っているため、字幕付加作業や手話通訳収録をほぼ同時進行で行うこともあると考えられる。現実的に厳しい面はあると思うが、視聴者に関心を持ってもらえるのは有難いことであるため、ぜひ、テレビ番組制作の実態も説明してはどうか。

- ・映像の字幕の色が白1色のみだが、「話者によって色を変えていただくと、きこえない人にとってわかりやすい」ということを、ろう者と相談しながら制作側に意見を出してもよい。きこえる人は声色で“今、アナウンサーが話している”ということがわかるが、きこえない人にとっては、アナウンサーが話しているのか、ただ動いているだけなのか、視覚情報だけではわからない。字幕の色を変えることができると有効かと思う。

## （2）ワイプ

- ・ワイプが小さく、ろう者にとって手話が見にくい。障害者団体とともに、放送局や主催者等との交渉を。

# 4. 事前準備（前日まで）

## （1）基本的な準備方法

- ・原稿を渡されるタイミングにもよるが、前日までに渡される場合は、インターネットで意味を調べるなど、情報収集ができるが、当日本番直前に渡されるような場合は、すぐに手話の表現を検討するのではなく、まず、原稿を最後まで読み、日本語で何を伝えたいかを確かめることが重要。その次に、手話への翻訳や、映像の活用部分について検討する。そのような手順で行わないと、日本語の単語を手話にどう置き換えるかということで終わってしまい、当研修で学んだ翻訳方法などについても、活かすことができないと思う。

（他の講師より）原稿をもらった後、まず日本語の状態的文章を入れ替え、再構成する。その後、手話で伝わりやすい、表しやすい語順を考える。また、長い名称で指文字での表現がわかりにくい、表しにくいとき、省略して冒頭の2、3文字を指文字で表すだけでなく、指文字2、3文字＋手話で表すとわかりやすい。たとえば、「オミクロン株」を<オ/ミ/コロナ>と表すなど。

## （2）提供された原稿をもとに行う準備

- ・事前に受け取った原稿をどう翻訳するかを考えることがテレビ通訳の勝負になる。
- ・そのまま日本語の語順通りに通訳するのではなく、手話に適した語順を入れ替えてから翻訳するとよい。
- ・「被災地で何か支援ができないか、という思いがこもった言葉でした」の意図は何か。事前に原稿がある時には番組制作サイドに意味を確認することも必要。
- ・リポーターが、「今日は、〇〇さんと〇〇さんと一緒にお話を進めていきます」と話すとき、日本語の語順通りに訳している。事前に原稿をもらって手話表現を考えていたとしても、実際に通訳してみると身についた癖が出ることや、パニックになって顔に動揺が出てしまうことがある。

その対策として、1つの手話表現で表すのではなく、映像用（テレビ用）・他の現場用など、複数の手話表現を覚えて使い分けることが大切。

（他の講師より）事前に原稿が提供されるのはよい環境だが、あまり準備しすぎてしまうと、イメージしていたものと違うとき顔に動揺がでてしまうため注意する必要がある。「この文にはこの手話」と考えすぎるのはよくないため、イメージ程度にしておくといよい。

### （３）事前に本編映像の提供がある場合

- ・まず、本編映像を見るとよい。流れ、場面の状況をつかむために、まず映像を見ることが非常に重要。写像性の高い手話表現を検討するために、映像を見ておくことで具体的な表現を表すことができる。
- ・映像に対して音声が遅れている場合、映像に合わせて手話を表す方がよい。映像の流れをつかんだ上でイメージを膨らませる。音声も聞いた上で、映像に対して遅れているのか、速いのかを見極めた上で、手話を組み立てるとよい。音声だけでなく、映像も使用する練習が効果的である。

### （４）知識の習得

- ・事前準備は、意味や関連情報を調べることが大事である。
- ・テレビによく出てくる言い回しや単語は普段から意味や表現を考えておくこと。  
例）「一里塚」
- ・単語レベルの「法案」「タイトル」などは、語順を入れ替えず、聞いた通り正しく表現する。
- ・固有名詞（政治家や法律名等）は普段から新聞ニュース等で知識を持っておく。  
政治に関心が薄い、知らなかった、勉強不足、という言い訳は許されない。通訳者は一般の人の5倍の情報量を持ってほしい。

### （５）カメラのレンズ付近に貼る表示の準備

- ・映像と手話表現時の左右は逆になることを覚えておく。事前に準備できる場合は、カメラの下に左右の位置を書いた紙（東と西を逆転させた日本地図など）を用意しておくなど、工夫するとよい。
- ・本編映像内における、「先月」「今月」「来月」が具体的に何月になるか、考えずにすぐ表すことができるように、「先月＝〇月」「今月＝〇月」「来月＝〇月」と書いた表示をカメラ下に貼るなど、工夫するとよい。

### （６）事前練習

- ・繰り返し何度も練習すると、手話表現が変わる度に不安になるため2回だけがよい。手話の練習ではなく、頭の中で組み合わせて考える訓練を積み重ねてほしい。
- ・1回目収録後、音声を消して映像を確認し、2回目に挑戦する形で練習してみてもどうか。練習は2回までにおさえるとよい。自信を持って表現できるのは2回まで。
- ・初見で聞き取り通訳し、それを評価してもらい、表現を修正するという方法が効果的である。

## 5. 事前準備（直前）

### （１）佇まい・立ち方

- ・身体が揺れないように、軽く足を開いて立つ。舞台通訳とは異なり、テレビ通訳は上半身のみが映る場合も多い。
- ・身体が左右に揺れている。
- ・身体が後ろに下がっている（反っている）ことで、マイナスのイメージに見えるため注意する。

### （２）姿勢・脇

- ・鏡で見る自分は見慣れているため、身体の傾きなどに気付きにくい。左右逆転し客観的に見ることが出来る映像を見ることで確認し、意識して気を付けるようにするとよい。
- ・肩が片方下がってしまう場合、両足を開いて立ち、下がる肩と同じ側の足を3cmくらい前にして立つと、高さが揃って見える。また、肩の揺れも減らすことができ、安定して立つことができる。
- ・ベースとしては、脇は締めすぎず、腕と胴体の間から少し背景が見える程度に余裕を持つ体制を基本としながら、引きで撮影する場合は大きな手話に見えるよう、脇にさらに余裕を持たせるなど、工夫するとよい。
- ・頭が傾き、右肩が下がっている。
- ・体幹がぶれている。対面の通訳では気にならないが、映像では目立つため、モニターや録画で自分の姿勢をチェックする。
- ・左肩が下がっている。カメラに映る部分が上半身のみであれば、左右の足の位置を前後にするなど、工夫することもできる。
- ・肩が左右水平になっているか、身体がぶれていないかどうか、確認を。
- ・体幹がまっすぐでなく、S字に湾曲して、バネのような動きをしているので注意する必要がある。
- ・左肩を前に出して斜めの角度で表現しているが、基本的に正面を向いて通訳する。
- ・だんだん右に引っ張られ、右に傾いているため、見ていて落ち着かない。
- ・利き手のみの手話表現で、非利き手がブラブラしている。ホームポジションに置くように。

### （３）癖

- ・普段の通訳では気にならないが、映像通訳では手話の癖が強調されやすいため、うなずきや身体の傾き、オーバーな動きなど、継続して見ると疲れてしまうようなノイズや癖を把握し、意識することが大事である。左右対称の表現などは特に気を付ける。癖は鏡を見てもわからないため、撮影された映像を見て振り返るとよい。
- ・収録時、返しモニターがある場合は、画面上での自分を確認し、収録前に自分の映像を確認するとよい。また、返しモニターがない場合は放送局等をお願いし、用意してもらう方法もある。
- ・身体が右に傾く癖がある。＜〇〇（国名）＞と右に表すとき、身体が傾いているとその国側の人に見える。
- ・文末に首を横に傾げる癖がある。つまらない、または、否定している印象を与える可能性がある。
- ・RSではない場面で、顔を左右に振っている。癖なのか、気になってしまう。
- ・単語の前に首振りが入ってしまっているが、首振りを入れて次に続けると、「首振りの後に否定が来るのでは」とろう者が受け取ってしまうため、不要な首振りは入れない。また、入れる場合

はどのような意味をなすのか、検討する必要がある。

- ・頬を膨らませたりへこませたりする動きが多い。意味のない頬の動きはしない。
- ・視線が落ち着かない場合、ろう者としては見ている方も落ち着かないため注意する必要がある。
- ・視線が左斜め上を見ている。考えながら通訳していることがわかってしまうため、注意する必要がある。
- ・（考えているときに）目を閉じる癖があるため、直す必要がある。
- ・常にカメラから視線を外して斜め下を見ているが、意味を含むのか。常に下を向いていると、自分の世界に入っているように見える。カメラの向こう側のろう者に伝える気持ちで、「カメラ視線」に慣れることが大事である。
- ・眉の表現（強調）が多すぎるため、気になってしまう。
- ・手話表現が速いというより強い。長く見ていると疲れるので、もう少し力を抜く。
- ・全体的に手話が強すぎてリラックスして見ることができない。
- ・表現が雑になったり速すぎたりしているため、視聴者を意識してほしい。
- ・右手と左手の表現の強さが異なる。バランスが悪い。意識して左手に力を入れるように。右手（利き手）が強く、左手に力が入っていないのでバランスよく。
- ・速い・遅い・強い・弱いメリハリをつける。＜ここ＞＜場所＞などに、力が入りすぎているため、力を抜いて表現する必要があるが、メリハリはつける。
- ・「成立」「棄権」「否決」の表現が弱いため、はっきりと表現するとよい。
- ・手話単語の表現をするとき、上にはねる癖がある。癖を見直すとよい。
- ・動詞を無意味に何度も繰り返して表現するとうるさくなるため、1回でよい。
- ・手話に切れ目がなく、安心して見ることができない。
- ・文末が速くなる癖があるため、最後まで安定して表現する。
- ・意味を持たせないところで、手話の強弱、目を閉じる、口が開いている。たとえば、＜年度/末＞で＜末＞の手型がとても強く動いている。意味のない強弱、NMは付けない方がよい。何か意味があるのかと迷わせてしまう。

#### （４）ベースの表情

- ・自分の顔は、客観的にどのように見られているのか。明るい表情、あるいは、暗い表情に見えるのか。口角が上がっているか、下がっているか。顎が上がっていると映像では偉そうな態度に見えるが、逆に、顎が下がり気味になっていないかなど、カメラの角度に対する自分の映り方を確認する。話題の内容に合わせて表情を変えるよう、意識することも大切である。
- ・「真面目顔」「明るい顔」など自分のベースの顔を把握することが大事。
- ・前髪のせい、ベースの表情が暗い。
- ・ベースの表情が明るい場合は、暗い話題では意識して暗い表情に変える。
- ・表情を作らずに顔を撮影し、ベースの表情を自覚することも必要である。その上で、ベースの表情を３種類程度持ち、表情を作ることができるようにする。話題に合わせて使い分けるとよい。

## (5) 身だしなみ

### ①服装

- ・服、髪、メガネは撮影前に必ずチェックしてほしい。
- ・アメリカやヨーロッパの通訳者は、赤色やピンク色の服の着用も一般的となっている。マニキュアやネックレスもつけている。明るめの色も含め、2、3種類の服装を準備し、その内容や背景に合わせて選択するとよい。試してみて、ろう者の意見を聴いてみるとよい。
- ・男性は、テレビ放送における通訳ではアナウンサー、知事会見における通訳では知事に服装を合わせる人が多い。ネクタイをつけるかどうかの調整のみで、基本的にはスーツ着用が多い。
- ・ネクタイが曲がっていないか、ジャケットのフラップがきちんと出ているかなど、気をつける。

### ②眼鏡

- ・眼鏡をつけている場合、照明の反射が映ってしまう可能性があるため、責任者等と調整することが大切である。
- ・メガネが時々ライトで光ってしまっていた。一般的にスタジオへ行くとライトが当たることが多いため、反射も多くなる。対策として、反射しにくいメガネに替える、メガネを外す方法もある。
- ・眼鏡をいくつか持っておくとよい。眼鏡をかけることによって NM が見づらくなることもあるため、何種類か持っておくと、かけ替えるなど工夫することができる。

### ③前髪

- ・前髪が落ちるのは望ましくないため、ピンで留めるか、スプレーで固める。また、気になっても通訳中には極力髪の毛は触らない。
- ・前髪が眉にかかっていると NM が見えないため、前髪をあげるなど工夫する方がよい。
- ・眉が見えるとよい。髪型、顔周り、服装の身だしなみにも気を付ける。
- ・前髪で眉が隠れているため、眉を使った文法がわかりにくい。見えるように工夫する、または、より目の開閉に心がける。

## (6) ホームポジション

- ・ホームポジションは、おへそあたりで手を重ねる形が一般的である。おへそより上で手を握っていると、意味があるのではないかという印象を与えてしまう。また、文中では、ホームポジションには戻りすぎず、手話表現の終わった位置で動きを止め、次の手話の表現を始めるようにする。
- ・ホームポジションは、リラックスした姿勢で手を添えるとよい。
- ・ビジネスマナーでは、手を重ねるとき、左手を上添えるよう学ぶことが多い。刀を出すときに使う利き手である右手を守る意味も込められているようである。
- ・ホームポジションについて、ろう者の中には通訳者のホームポジションに違和感があるという声もある。両手をギュッと握って胸の前は好ましくない。両手を軽く重ねてお腹の前がよい。
- ・片手をお腹においたまま<思う>を表すのは違和感を覚える。また、ホームポジションが多すぎるのは望ましくない。
- ・ホームポジションは文の終わりを示すため、読点の後に「間」があるときは、前の手話の終点で動きをとめ、そこから次の手話に移るようにする方が見やすく、わかりやすい。句点で、ホーム

ポジションに戻る。

- ・ 1文ごとにホームポジションの位置に手を戻さない。ある程度まとまった文章が終わってから、ホームポジションに戻す。
- ・ ホームポジションに戻ってしまうと、通訳者が理解できていないのか、話者が黙っているのかわからないため、手の動きの終点で止めて聞き溜めし、次の手話を繰り出すことで、次の手話を表すというサインになる。通訳は理解した以上のことを表すことができないため、理解していないことは起点言語である日本語に近い表現になってしまう。そのため、理解する前に表すよりも、解釈できるまで待ってから次の表現をすることが必要になる。
- ・ ホームポジションが多いのはよくないが、常に手が動いているのもろう者として見ていてとても苦しい。文末に少しなずきを入れると、わかりやすい表現になる。
- ・ 聞き溜めをしている間、ホームポジションに戻って静止してしまうと、見ているろう者は不安になってしまうため、<今/話/何>と表してから聞き溜めをするなど、次の手話へのつなぎ方の工夫が必要である。

#### (7) 表現の位置

- ・ ろう者は口型も見ているため、口が隠れる位置での手話表現はしないように気をつける。
- ・ 日付の表現など、表現の位置が高い場合、顔が隠れてしまうため、顔の前では表現しない方がよい。
- ・ 小柄な場合、腕が上がってしまうことが多いため、顔が手に隠れてしまい、表情や口型が見えない。指文字は右肩の前（口の横）、数字は胸の前で表すなど、顔に重ならないように工夫をするとうい。
- ・ 身体を中心より左寄りで表現しているが、自分では気付くことができないため、映像を見て確認するとよい。

#### (8) 表現の大きさ

- ・ 身体が大きいせいか手話が小さいため、大きく表現するとよい。
- ・ 手話表現が大きい。コンパクトに表すと、話者の話す速度にもついていくことができる。
- ・ 日常会話とは異なるアナウンサーの話し方をイメージした表現を意識するとよい。舞台では大きめに表現することが望ましいが、映像通訳では、撮影範囲内に収まる表現を使うように心がけるなど、表し分けられるとうい。
- ・ <年末年始/間>と表すとき、<間>の幅を肩幅いっぱいにとってしまうと、その後に、それ以前や以降の話が出てきたとき、位置をつくるのが難しいため、その後のことも踏まえて適切な表現の幅を作る必要がある。
- ・ 手話の表現が大きく見える。特に、映像の手話通訳は、手話の見え方に気を付ける。肘をカメラ側に出すと手話の表現が大きく見えるため、肘を脇の下あたりにおくと、自然と手話の表現が比較的大きく見えないようになる。

#### (9) 表現の速度

- ・ 手話が速い。自分の感覚と客観的な感覚は異なるため、映像を見て確認するとよい。



- ・話者の話し方が速いとき、同様に速く表すと、慌ただしく、視聴者にもややこしく感じさせる。省略できる部分は省略し、指さしをするなど工夫が必要である。
- ・手話が滑らかで速い。映像通訳（特に、インターネットにおける配信の映像）では、残像が残る場合があるため、落ち着いてはっきりと表現する方がよい。
- ・「両陛下のご挨拶」の表現スピード、リズム速くて軽く見える。厳かな雰囲気も作るとよい。
- ・ろう者は目で見て情報を得る。強調すべき部分は少し長めに表し、視聴者が見落とさないように気をつける。
- ・強調したい内容がある場合、手話をゆっくりと表すとよい。たとえば、<多い>を表すときなど。
- ・<安心>をゆったりした動きで表すと、安心感が出る。

#### (10) 撮影直前のチェック

- ・撮影直前にカメラの前に立つ時、角度に気をつけた方がよい手話（<努力><制限>など、前後に重なる表現）や、両手を使う手話、撮影範囲からはみ出る可能性がある手話や、動きが速く見づらくなってしまうかどうかなど、一度表して返しモニターで確認しておき、本番に入るとよい。撮影前の自分のチェックポイントを挙げておくとうい。

## 6. 映像の活用

- ・映像の情報を指し示して、活用する必要がある。
- ・映像・文字をどのように活かすのか。最低限伝えなければならないことをどのように効果的に伝えるのか、常に意識してほしい。

#### (1) 手指を活用した映像の指し示し方

①映像全体を指し示すとき…手のひらで指し示す。

②映像の一部を指し示すとき…PT3（映像）で指し示す。

- ・カメラの撮影範囲から手が切れないように注意する。映像の反対側の手で指し示すと、撮影範囲からはみ出ることを防ぐことができる。
- ・下記左画像のように、映像側の手を使うと上下幅の可動範囲が少ないため、下記右画像のように映像と反対側の手を使用すると上下の可動範囲が広がる。



- ・（基本的には、映像は片手で指し示す方法が一般的だが、）映像を両手のひらで指し示す方法もある。楽しい話題では、このような方法も活用できる。
- ・意図がなければ、手品のように（両手で）パツと表すのは不適切。場面や状況に応じて指し示し方を工夫する。

## （２）視線を活用した映像の指し示し方

- ・視線も活用し、映像を見ることで視線の誘導ができる。
- ・「かわいいですね」というコメントの際、通訳自身が映像を見るか、手のひらで指し示すなど映像を活用するとよい。

## （３）映像と手話の活用

- ・たとえば、「〇〇病院で支援した」は、<PT3（映像）/支援/終わり>だけでは意味が伝わらないため、<PT3（映像）/PT1/支援/行く>または<PT1/支援/終わり/ PT3（映像）>というように、映像と手話を活用するとよい。

## （４）テロップの活用

- ・郵便番号や電話番号等、テロップで表示されている場合、映像を見る方が効果的と判断した場合は画面を指し示し、視線の誘導を行った方がよい。

## （５）難解用語が使用される場合

- ・「血中酸素飽和度」という用語が出たとき、手話で細かに説明していると、その時間、ろう者が手話通訳を見ないといけない状況になってしまうが、パルスオキシメーターを使用している映像を手のひらで指し示すのもよい。

## （６）映像を見る時間の提供

- ・映像内の状況について話しているときや、テロップの文字が出ているときは、手話だけでなく、映像を指し示し、見る時間を与えることも大事。手話通訳が必要な部分と映像を見てもらう必要がある部分の判断が必要。
- ・頻繁に映像を指し示すと、視聴者側が映像と手話への視線の移動が忙しくなるため、冒頭で映像を指し示して手話を表す、または、手話を表してから映像を見せるなど、映像を指し示すタイミングを検討する必要がある。
- ・「失礼します」と言いながら入室する場面で、部屋にいる２名に対して、リポーター１名が同う映像内の様子を、下記画像のように、<（左手）２人（右手）１人/会う>と手話で表していた。この状況は映像を見ればわかる内容であるため、この表現は不要。



- ・「電子図書館」を<電気/本/建物>と表しているが、手話のみを見るとよくわからないが、映像に建物と「電子図書館」の文字が表示されているため、視線を誘導するとよい。たとえば、<スマホ/本/建物>と表し、映像へ視線誘導することで、固有名詞を伝えることができる。

- ・映像を見せるために手のひらで映像を指し示すときは、見せるための間を持たせることが望ましい。
- ・手話通訳者が画面と乖離して、はっきりと浮き出ているように見える。手話の大きさだけの問題ではなく、映像を見てほしい場面は手話通訳を控えめにするなど、バランスをとることが大切。
- ・「こちらでは」と現在地を示す時、映像に視線を誘導するため、一度映像を指し示すとわかりやすい。

## 7. 映像との整合性

### (1) 左右軸

- ・期間は映像のグラフ（左が過去→右が現在）と同様になるように、通訳は（自分から見て）右から左へ表すと見やすい。
- ・映像で表示されている人や物の位置を手話で表す場合、その映像内の位置や向きに合わせて表すとよい。たとえば、表彰している様子が映っている場合、表彰の向きを合わせるなど。

### (2) 位置関係

- ・1つの画面上でさまざまな位置に映像が表示される場合、出現した映像の位置に合わせて手話表現の位置を変えるとよい。
- ・映像の途中で話者の立ち位置が入れ替わっていたが、RSでは入れ替わっておらず、映像の立ち位置と反対になっていた。映像と手話の向きが合っていると見やすくなるため、注意してほしい。
- ・映像内で、2名の人が近付いて立っているが、手話は離れた場所に2名をつくって表しているため、映像との整合性を図り、表す。
- ・映像の中の「人」を表すとき、映像と反対側の手を使用しているが、映像に近い側の手を使って、空間の位置を作る方が自然に見える。

### (3) 図表

#### ①表

- ・グラフや複数の段階や項目を示す際の表現について、縦書き/横書きや、レベルの高さを左右上下どのように設定するか、映像内のグラフや表等との整合性をもって表す。また、映像に表が表示される場合は、表を見る時間をつくることも大事。もし、映像で表が表示される前に、手話で表さざるを得ず、後から表示された表の項目の順番が先に表した手話の順番と逆だった場合は、「映像の表とは逆である」ということを補足してもよい。
- ・映像に表が表示されているため、左手の手指を活用し、表に見立てて一番下を右手で指し示す方法で表すと、映像と手話がつながり、わかりやすい。
- ・「避難情報」について、映像内の表では、下から「避難準備」「避難勧告」「避難指示」と表示されているが、手話は上下逆に表している。また、映像に文字が表示されているため、都度、＜避難＞の手話は表す必要はない。

## ②図

- ・地図などが表示される場合は、映像を指し示してから手話を表すとよい。
- ・「市内全域」について、<内>は指を下に向けて水平に回すと、映像では見にくい。映像に地図が表示されているため、<市/掌を地面と垂直の角度で立てて前に向け丸く動かす>の表現の方がよい。
- ・気象情報のニュースの際、日本地図を水平に表すとわかりにくい。映像と同様、地面と垂直な面で表すとよい。日本地図だけでなく、世界地図を表すときも注意する方がよい。
- ・自分から見た方向で表すと画面上では左右（東西）が逆になるため、左上が北海道、右下が九州になるようにすると画面の地図と一致する。
- ・映像にグラフが表示されるときは、映像内の表示に合わせて、自分から見て右から左に増減するように表すとよい。そのため、<グラフ>の表現も通常通りではなく、右手が<L>、左手が折れ線グラフの動きで表す方がよい。

## （４）テロップ

- ・「〇〇（地名）への心残りもあるとした上で、こう締めくくりました。…」を<〇〇（地名）/行く/経験/持ってくる/説明/誰/名前/□□/女性>と「〇〇（地名）への心残りもある」を省略して表している。映像のテロップでは、“〇〇（地名）への心残りもある”と表示されているものの、手話表現がないと違和感を覚える。字幕・テロップと手話を照らし合わせるろう者もいるため、字幕やテロップとの整合性も検討するとよい。

## （５）場面転換

- ・映像がまだ切り替わっていないが、音声のみ切り替わったとき、次の話者の名前を表すことで今通訳している内容が何か、わかりやすかった。たとえば、病院のシーンから医者コメントに切り替わる際、<医者/話す>と表す。
- ・ナレーションから国会の議場でのやり取りへと場面が変わる時、一度映像を指し示してから手話を表す方が、議場の様子を通訳していることがわかりやすい。

# 8. 単語の表現

## （１）語彙の選択

- ・「赤ちゃん」  
<赤ちゃん>を両手で手を振る単語で表しているが、文脈としては、「早産で産まれた赤ちゃん」であるため、両手で手を振る<赤ちゃん>の表現は不適當。<出産/赤ちゃん（抱える）>の方が適している。

- ・<多い>

「赤ちゃんが多い」の<多い>の手話はどれが適切か、文脈に合わせて考える。

<多いA>対象が並んでいる。



<多いB>たまたま増えた。



<多いC>対象が並んでいる。



- ・「後悔しないように」

<後悔/しない>と表しているが、「後悔がない」という意図に捉えられてしまう。<後悔>の手話単語があるが、「後悔しないように」の意味を伝える時に適切な表現となるか、検討が必要。

例) <気になる>。または、気がかりな方向に向かって引っ張られるように<気になる>と表す。

- ・「先が見えない」

<(目が)見えない>や<展望/見えない>と表しているが、意味をとらえて表す。<想像/できない>など。<(目が)見えない>では意味が伝わらない。

- ・映像で、扉を片手で開けながら「失礼します」と部屋に入室する様子を、口型「しつれいします」で<ドアを開ける>や<扉が開く(両手)>と表しているが、適切な表現か。

- ・「数々のイベントなどで紹介してきました」

<数/たくさん/イベント/紹介/あげる>と表している。「お土産を渡す」と捉えてしまうため、他の表現を検討するとよい。

- ・「宿泊療養施設」

<ホテル>と表している。ホテルに間違いはないが、この翻訳が正しいのか。「全てのホテルに宿泊できる」と誤解される可能性があるため、<指定/ホテル>とする方がよいかもしれない。翻訳はよいが、正しい情報を伝えられているのか考えてみてほしい。

- ・「命を吹き込んでやる」

<命/あげる>と表している。ろう者に伝わる表現の工夫を。命を吹き込むとは、具体的に何をしているのか、動詞を表す。たとえば、口型[mu]で<彫刻を彫る>。

- ・「会議でもなんか止めようがないぐらい」

手型「コ」の<議論>、手型「テ」の<議論>など、映像での見せ方としてどの表現であれば意味と

してふさわしく、見やすいかを考え、自分の語彙の中でいくつか持っておくことが大事。

- ・「～になる」

日本語の特徴的な表現で、「～になる」という言葉をよく使うが、手話では<なる>よりも<する>と表す方がよい。音声に引っ張られないよう注意を。

- ・「日本と比べて〇〇（地名）は5倍の出生率がある」

<5倍/びっくり（目を見開いた表情）>と表していた。<びっくり>は、「すごい」という意味とは異なるため不適切。

- ・<見る>の3種類の使い分け

<見る（二型）>：人や物を見る、景色を見るなど。（意識的に見る）

<見る（メ型）>：山を見る、細かい資料を見る、映像を見るなど。（鑑賞や観察）

<見る（ヒ型）>：（たまたま思いがけず）見かけるなど。

- ・「〇〇市にやってきました」

どのような<来た>の表現がよいか。過去や他の場所から一人称が「来た」場合は、下記画像の表現が好ましい。



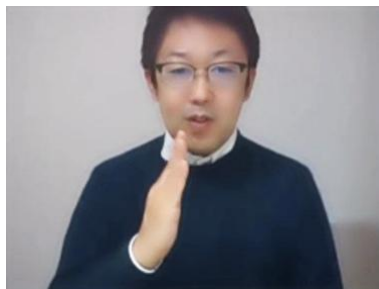
- ・「およそ」

<だいたい>ではなく、<～～/くらい>と表す方がよい。

- ・「ない」

「人に会わない」の<ない>の単語の表現によって、意味が異なる。

会っていない<会う/ない>      意識的に会わない<会う/しない>      会うのではない<会う/ちがう>



- ・「医療機関ではない」

<病院/ない>と表すのではなく、<病院/違う>とする。<ない（手のひらを横に振る）>は意思としての意味になるため「病院はいやだ」という意味になる。

- ・<終わり>の使い分け

全国的に見ると、終わりの表現は主に以下の3つがあるが、<終わりA>が一番多く使用され、

<終わりB>は文中よりも文末に表現することが多い。「終わりです・終了です」という意味での

表現の場合、口型は[pa]にはならない。また、文脈だけでなく、音韻として「（前の手話と続けて）表しやすいか」ということから、＜終わりA＞や＜終わりB＞のどちらを表現するかといった視点も大切。

例）＜仕事/終わりA＞ ＜見る/終わりB＞ ＜する/終わりB＞

＜終わりA＞…出来事が事実として終了した（する）時などに多用される。

＜終わりB＞と比べると含意がない。



＜終わりB＞…発話時を「いま」とした場合、過去の出来事を話す時に多用される。マイナスな意図や意味を含意として捉えられる場合がある。疑問文として＜終わりB＞で質問された場合、＜終わりA＞で回答することが多い。



＜終わりC＞…上記＜終わりA＞や＜終わりB＞よりも使用範囲が狭い。

見た・行ったなど経験したことのフレーズで使用されることがある。



使い分けについて、工夫をしながらろう者の反応も見て分析する必要がある。

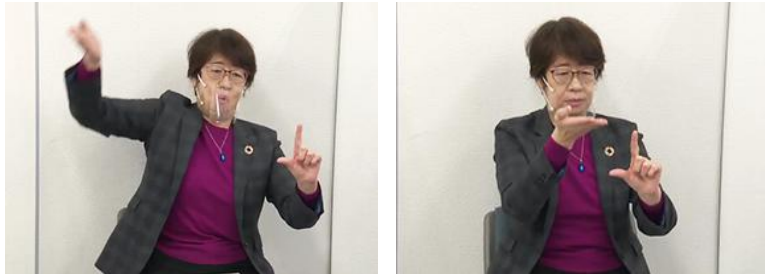
・「気分が悪い」

＜気持ち/悪い＞と表すのではなく、＜気持ち/違和感＞と表す方がよい。



- ・段階を示す手話

下記左画像のように段階があがるごとに半円を描いて指し示すのではなく、下記右画像のようにまっすぐ上にあがっていく方がスマートに見える。



- ・<ステージ4>

「癌」のステージ4は重いことが伝わる表現の工夫が必要である。上ではなく、「ステージ4」となるように表す。

- ・「（避難所を）開設」

<建てる>とすると、建設するように見えるため、<開く>と表現するとよい。

- ・「来る利用者が減っている」

<来る>は人差し指1本だけではイメージが合わないため、両人差し指で交互に<来る>と表す、または、10指で<来る>と表すなど表現を考えてほしい。

- ・「（法律の制定などを）見送る」

<止める>と強く表現すると意味が異なる場合がある。たとえば、<保留する>など。

- ・「現場」

そのまま<現場>と表しているが、この場合の「現場」は意味が異なる。文脈から意味を考えて単語の選択を。

- ・「攻撃」

両手の指先を前に出す<攻撃>では、軍隊が実際攻めているようで、内容に合っていない。内容に合わせた手話の選択を。

- ・「（情報の）食い違い」

<ずれ>と表す場合、意味がわかりにくい。左右を指さし、<違う>と表す方がわかりやすい。

- ・「判断」

<判断>ではなく、<結果/決まる>と表すとわかりやすい。

- ・「方針」

<（方針の内容）/考える/表す>と表すとわかりやすい。

- ・「禁煙」

<タバコ/禁止（親指を前に出す）>と表しているが、<タバコ/お断り>の方が望ましい。

- ・「家」「住まい」「住所」「居住」

意味を考え、丁寧に表現を分けるとよい。

- ・「地域活性化」

<地域/元気/化>、または、<地域/たくさん/化>、または、<地域/伸びる/化>。<地域/積極的>は意味が異なる。



- ・「聞く」  
（受講生より）「ちょっと聞きなじみがありません」など、ろう者はきこえないため、<見る>と変えて表現の方がよいのか。  
→（講師より）ろう者も、<うわさ/聞く>と<聞く>の手話を使うため、気にする必要はない。<聞く>の手話を使用しても、特に違和感はない。また、<珍しい>など、意味をつかんで言い換えてもよい。
- ・「記述式問題の導入」  
<導く>と表していたが、日本語にとらわれず、<始まる>など、意味をつかんで訳すとよい。
- ・「不可能」  
<（ほほをつねる）難しい>と表していたが、この場合は、<（グーの手型の両手を上下に重ね、左右に引く）できない>の方がわかりやすい。文の意味にあった単語の選択を。
- ・<必要>  
手話表現が関東と関西では異なる。関西は引き出しを引くような表現。指先が身体に付く関東の表現の方がわかりやすいと考える。
- ・「90 歳を前に若い人に伝える」  
<伝える>が<後輩>に見える。「伝える」は、右指先の腹と左指先の腹を触れる<引き継ぐ>と表す方がよい。
- ・「煙草のない大会」  
<煙草/ない/大会>はわかりにくいので、<煙草/省く/大会>の方がよい。
- ・「よく訪れていたスーパーです」  
「よく」を<毎日>と表しているが、内容に合っていない。
- ・<〇〇党/△△党/□□党/欠席/欠席/欠席>と表しているが、意味がわかりにくい。<反対>の手話を使うなど、深く意味をつかんで表現の工夫をしてほしい。
- ・「安全な場所」  
<安心/場所>では意味がわからない。<安心/できる/場所>のように補足を。
- ・「（避難所で）もう横になっている人がいます」  
<布団/かける/寝る>と表すとぐっすり寝ているように見える。眠れない様子を表すため、左掌に右2指を寝かして<横になる>の方がよい。
- ・「24 時間、365 日いつでも借りられます」  
<365/日>ではなく、<朝/昼/夜/関係なく>でもよい。
- ・「お金を集める」  
通常の「集金」という意味合いを伝える場合、両手で<金>を正面中央に集める表現でよいが、詐欺などの悪い意味合いを含むときは、<（左手）金/（右手掌上向き）手招き>の表現が欲しい。
- ・「導入の見送り」  
「見送り」を<延期>としているが、「改めて検討しなおす」という意味を含むため、<保留>の方がよい。
- ・「議論を聞く過程であきれた」  
「あきれた」を<つまらない（顔の前で五指を折り曲げ、下にずらす）>と表していたが、<つまらない>（左手をパーにして下に向け、人差し指を出した右手で左手掌をたたく）や、<議論/意

味/ない>や、<議論/中味/空っぽ>などの表現もある。

- ・「日本が世界で一番下」

<最低>と表してもわかりにくい。

- ・「(流木に)命を吹き込んでやる」

「流木」を<部品>と表していた。翻訳をしたかったのだろうが、最後まで「部品」が何のことかわからなかった。翻訳をしようと思っていても、間違った翻訳をした場合は、話の流れがおかしくなってしまう。

- ・「看護師向けのマニュアル」

「向け」を<対象（両手をつけたまま回す）>と表しているが、「ともに」や「会う」という意味に捉えられてしまうため、<看護師/専用/マニュアル>、<看護師/特化/マニュアル>、<看護師/配布/マニュアル>などがわかりやすい。

- ・「塩分」

<塩>ではわかりにくいため工夫を。

- ・「お手洗いを我慢する」

<手洗い/我慢>は、テレビでは通じにくい。「手を洗うのはダメ？」と受け取られる。「お手洗い」は<WC>の方がよい。

- ・「先が見えない」

<見込み/しない（片手を左右に振る）>と表しているが、<しない>は否定の意味であるため、「見込んではいけない」という意味になってしまう。<見込み/無理>の方がよい。

- ・「注目の法律ができた」

「注目」を<珍しい>としているが、意味が異なる。

- ・<言う>

下記画像のように、両手で表しているが、「報告をする」の翻訳として相応しいかどうか、検討する必要がある。



- ・「市民が感染していることがわかりました」

<市民/感染/わかる>と表しているが、<わかる>は「（学んだことを）理解する」という意味合いがあるため、「感染していることがわかりました」には相応しくない。たとえば、<発見>、<確認した>、<報告を受ける/わかる>など、別の表現で検討する必要がある。

- ・「トイレを我慢」

「我慢」を<遠慮>と表しているが、左親指を右掌で押さえる<我慢>の方がわかりやすい。

- ・「活字文化」

<文/文化>ではわかりにくい。<読む/文化>、<書く/文化>など工夫を。

- ・「失礼します」

「失礼します」と言いながら入室する様子を<失礼>と表している。きこえる人は「失礼します」と言うが、ろう者同士の会話ではあまり使わない。ろう者同士の場合は、たとえば、下記画像のように、肩をすぼめて<お願い>と表す。お土産をもらって、きこえる人が「すみません」と言うときは、肩をすぼめて<ありがとう>と表す。きこえない人ときこえる人の言葉の選択が異なるため、身体の傾きなどで表すとよい。



（他の講師より）「失礼します」の翻訳として、<こんにちは>と表すのは等価ではないのではないか。また、状況により異なると思うが、たとえば、会議中に司会が「皆さま、こんにちは。今から会議を始めます」というフレーズを話した時に、「皆さま、こんにちは」の部分は、ろう者と目が合っておらず、通訳を開始するために呼び止めることもある。そのような場合、会議開始時の常套句であり、会議が始まるということを伝えたいという合図であると捉えるのであれば、「皆さま、こんにちは」からすべてを通訳するのではなく、<会議/始める>とだけ翻訳するのも等価かもしれない。

- ・「惹かれる」

<ハマる>と表していたが、「惹かれる」と「ハマる」では意味が異なる。魅力があってみんなに見てもらいたいという心を込めて表現してほしい。

- ・「病床がいっぱい」

<混雑>と表していたが、<混雑>は満員電車のようなイメージがあるため、ベッドが密集している表現を選択する。場面や状況に合わせて適切な語彙を選択してほしい。

- ・「父と母」

<両親>と表していたが、きちんと<父/母>と1つずつ表す方がよい。

（他の講師より）もし<両親>を使う場合、見やすいかどうかという問題が生じる。映像には母親しか映っていないため、しっかり両親であることがわかるように表す。加えて、<両親/PT（親指・小指）>もしくは<両親/二人>と表す。

- ・「紛争」

<戦争>と表していたが、「戦争」という意味ではない。意味をとらえて手話を選択する。「紛争」は、<戦争>より、<揉め事>の方が意味として近い。

- ・「木のぬくもり」

<木/暖かい>と表していたが、「木のぬくもり」といっても、木が燃えていて実際に暖かいわけではない。「ぬくもり」は他の表現を考えた方がよい。たとえば、<木/頬にあてる/匂い（よい香りを感じている表情）>など。



- ・「粒の細かい雨」

<ポツポツと降る雨>に見えたので、<小さい粒>が身体に打ち付けられるように表すとよい。

- ・「災害支援に行ったことは今までに7回あります」

<今/まで>の表現について、下記左画像（A）は、「継続中」、下記右画像（B）は、「現在は終了した内容」について使用するイメージがある。たとえば、（A）は、「創立 50 周年を迎えました」を<50 年/今まで/終わり>とするなど。（B）は、「今まで活動にご協力いただきありがとうございました」を<今まで/活動/協力/ありがとう>とするなど。

（A）



（B）



（他の講師より）「災害支援に行ったことは今までに7回あります」は、今後は災害がいつ起こるかわからず、終わった7回のことを示しているため、前頁（A）を使用する。

（他の講師より）「災害支援に行ったことは今までに7回あります」は、前頁（B）を使用する。話者が今後もいつ災害が起きても支援に行くという気持ちを持っている人であると捉えているため。

手話表現1つをとっても、ろう者の中で意見が分かれることがある。地元のろう者から意見を聴くことが大事。

- ・「赤ちゃんが多い」

下記左画像の<多い>を表しているが、この<多い>はニュアンスとしては合わない。たとえば、<タバコ/多い>、<もめごと/多い>、<おしゃべり/多い>などで使われることが多い。「赤ちゃんが多い」の場合は下記右画像の<多い>などが望ましい。



- ・「外出を控えてください」

<遠慮/お願い>と表しているが、<遠慮>より、<我慢/お願い>の方がろう者に伝わりやすい。

- ・「〇〇市にきました」

左画像のように<来るA>で表すと「他の人が来た」という意味になるため、右画像のように<来るB>と表す。

<来るA>



<来るB>



- ・<素晴らしい>

右画像のように<素晴らしいB（指をひらひらさせる）>で表わすと、表現が過度なため、左画像のように通常の<素晴らしいA>で、シンプルに表現する。または、<素晴らしい（拍手）>など、他の表現にする。

<素晴らしいA>



<素晴らしいB>



<素晴らしいB>の表現が、公的な場に相応しいかどうかに限らず、どのような場面で使われているか、検証する必要がある。たとえば、公的な場とプライベートな場、または、「素晴らしい講演だった」と講演に対しては使用しないが、「素晴らしいマジックだった」とアトラクション的な内容では使用する、など。日本語も、「すごい」を「すんごい」と言ったり、ら抜き言葉を使い分けたりするように、場面にかかわらず使う言葉や、人前で話す言葉など、さまざま

までである。絶対に使用してはいけないと決まっているわけではない。また、映像としてはあまり相応しくない手話もあると考える。

（他の講師より）「程度」に合わせて<素晴らしいA>、<素晴らしいB>を使い分けている。たとえば、<PT3/講演/素晴らしいA>、<戦争/終わり/素晴らしいB>、<盲/ピアノ/素晴らしいB>など。

- ・<非常に>

数字の多さを示すときはあまり使用しない。程度を示すときに使用する。

例) <議論/非常に>

- ・<わかるA（胸をなでおろす）>と<わかるB（胸をたたく）>の使い分け

<わかるA>は、既知の内容について使用する。

（他の講師より）<わかるA>は、ある程度よく知っている、深く知っているときに使用する。<わかるB>は、軽く知っているときに使用する。

例) 「お醤油がなくなったのでコンビニで買ってきて」「わかった！」

<わかるB>は、構文の中で接続詞として使用することもある。

例) <今日/参加/数/少ない/わかるB/会議/中止>など。

（他の講師より）A/わかる/B構文の中での<わかるB>は、使用してよいと思う。また、下記画像の<わかるC>もある。ろう者が使っている手話に敏感になることが大事。



- ・「疑問の声がある」

<疑問/声/声/ある>と表しているが、<疑問/言われる/言われる>など、<声>を別の単語に置き換える方がよい。

- ・人を指し示す際の<男><女><人>の使い分け

性別が明らかにわかる場合や、それを公表している場合は<男>や<女>を使用するが、不明な場合は手話として表現せず、<〇〇/PT3>と空間を指さしする。映像の場合は、<〇〇/PT3（映像）>、<〇〇/手のひらで映像を指し示す>という方法もある。また、固有名詞ではなく、「教官」や「医者」など、一般的な日本語を表す場合は、<教える/男>や<医療/男>を使用するようにすることで、使い分けている。

（他の講師より）「委員長」「会長」など、「長」という意味として使う<男>は、対象者に応じて都度使い分けず、一貫して、<男>を表す。このときの<男>は、「男性」という意味を含まない。

（他の講師より）たとえば、<支援>について。右手は<支える>、左手は<男>で表す手型が一般的だが、この左手も<人>と人差し指で表す方がよいのではないかとこの考え方も普及しつつある。ただ、<長>に「男」の意味を含まないのと同様に、<支援>の手話の<男>はあえて性別を示すわけではないため、<男>を使用する<支援>のままでよいのではないかと考える。

- ・「モチベーションが高い」



<心/高い>と表しているが、意味が伝わらない。表した手話で少なくとも半分以上のろう者に伝えたい意味が伝わるように語彙を選択する。映像の通訳は、視聴者から翻訳の意味を直接確認することができないため。

- ・<～する/必要>の表現が多く、強い表現に見える。

話者の話し方は柔らかい雰囲気のため、<～する/必要>ではなく、文脈に沿った表現をするとうい。

- ・「宣言の効果がある」

<宣言>と<効果>の手の形が似ているため、そのまま表すとわかりにくい。同じ形や似ている形の手話を続けて表す必要があるとき、別の手話を間に入れることではっきりと違う表現であるということを明確にすることができる。たとえば、「冬は寒い」を<冬/気温が下がる/寒い>、「夏は暑い」を<夏/温度が上がる/暑い>、「宣言の効果がある」を<宣言/成功/効果/ある>と表すなど。

- ・「転院する」

左画像のように<変わる>を繰り返すのではなく、右画像のように<施設/転院>と左手を添えて動かすとよい。<変わる>を繰り返し表すと<印刷>のように見える。



## (2) 新しい手話

- ・（受講生より）まだ手話が決まっていない新しい日本語について、どのように表したらよいのか。

→（講師より）意味にあった手話表現、たとえば、「ソーシャルディスタンス」の手話がない場合は、意味を考えて表す、CL、指文字表情などで表すとよい。新しい手話は、手話言語研究員が各ブロックに分かれて新しい手話表現について意見を出し合い、1つの手話表現を決めているため、ぜひ地元のブロックの研究員に、どの日本語の手話を作ってほしいか、意見を出してほしい。年間で決定する新しい手話の数は決まっているため、限りはあるが、ぜひ意見を出してほしい。

- ・（受講生より）新しい手話をどこまで使えばよいのか。

→（講師より）標準手話は、案として提示しているため、必ずしもこれを使う必要はない。また、文脈に合わせて使う手話を変えることも必要。

→（他の講師より）標準手話は提案であって、多くの人が使えば定着し、使えない言葉は死んでいく。使えると思った手話は、指文字と一緒に表すなど、工夫して表す。

- ・「内閣不信任案」を<内閣/疑う/案>と表しているが、「新しい手話」を確認する方がよい。

### (3) 標準手話・地方手話

- ・「西日本豪雨」を<日が沈む/大雨>と表しているが、「夕方に大雨」と読み取れてしまう。「西」は標準手話で表さないと読み取ることができない。京都等では、「西」は片手で<日が沈む>と表す。
- ・党名の表現が通訳者によって異なる。党名は標準手話で統一する方がよい。
- ・（受講生より）地元の手話で表現するべきか。
  - （講師より）ローカル局の番組など、視聴者が地元の人の場合は、地元の手話で表してよいと思う。今回、字幕も表示されていたため、それも併せて理解できた。
  - （講師より）個人的には、ぜひ地元の手話で表してほしい。対象者が地元ではなくても、固有名詞の手話がわからないと別のコミュニティで新たに手話を作って間違った手話が広まってしまうので、地元の手話と指文字で表してほしい。
- ・下記画像の<7回>は北海道地域で使われる手話単語であるが、標準手話の<700>に見える。対象者に合わせた手話表現を選択する。



- ・<数><看護師>の表現について  
<数>を下記左画像のように表していた。九州の手話とのことだが、一般的な<数>とどちらの普及率が高いか、対象者に合わせて選択を。  
<看護師>の手話についても、下記右画像のように表していたが、一般的な表現とどちらがよいか選択を。



- ・<〇回>の表現について  
山口県で使われている<〇回>の手話は、全国版で表すと<〇週間>に見間違えられる可能性があるため、注意が必要。
- ・「勧告」は、<言う>や<報告><勧める>など、通訳者によって表現が異なっていた。命に係わる大切な情報であるため、標準手話の<勧告>を使用してほしい。
- ・全国放送の場合は、地域の手話では他の地域の人には伝わらないこともあるため、できる限り標準手話を使うように。（地域の手話を否定するものではない）



- ・「〇〇県」が静岡の手話の<県>になっていた。ローカル放送の場合は問題ないが、全国放送の場合は<県（指文字）>と表す方がよい。

#### （４）否定形から肯定形への言い換え

- ・「会議でも止めようがないくらい（盛り上がっている）」  
 <会議/止める/無理/くらい>と表していたが、意味を捉えて手話を選択する。<会議（継続）/続く>など。否定形を肯定形に変えることでわかりやすくなることもある。  
 （他の講師より）「会議が止まらない」は、「会議が盛り上がっている」という意味を示す。<話し合い/止める/無理>と否定語ではなく、<盛り上がっている（NM に注意して表現する）>、または、<話し合い/継続>と肯定語で表すとわかりやすい。

#### （５）年齢による使い分け

- ・主語となる人物の年齢によって、こども、青年期、壮年期、高齢期など、「怒り」の表現を使い分けられるようにしてほしい。

#### （６）動詞

- ・動詞は基本的に利き手中心で表す。
- ・数字の<7>が何を示すのかわからないため、<7>の前に、述語を表す必要がある。たとえば、<今/まで/行く/行く/7>、<今/まで/飛行機/飛行機/7>、<今/まで/数える/7>など。

##### ①敬語

- ・「４人入所」を<４人/お越しになる>と表しているが、中立な立場である人物について表すとき、<男>に左手の平を添える表現は不適切である。<４人/来る>が望ましい。場面に合わせた尊敬の表現を使う必要がある。  
 （他の講師より）目線は上からではなく、同じ高さで表現する。
- ・「褒める」は、対象者との関係に合わせて表す。「褒める」の対象者が年上の場合、<褒める>の左手の親指を右手でなでるような表現は違和感がある。少し見上げて<素晴らしい/拍手>という表現がよい。「褒める」を他の語彙に変えるとよい。手話通訳者が偉そうな態度であると受け取られてしまうことがないように気を付ける。

#### （７）名詞

##### ①固有名詞

##### ア 表し方

- ・固有名詞は、映像で文字として表示される場合が多いため、指さしをすることで映像を活用する。あえて手話で表す必要があるかどうか、検討する。特に、アルファベットの場合は、聞き間違いのリスクも高い。
- ・ろう者である自分としては、固有名詞は、具体的にどのような名称であるかが知りたい。指文字を表す場合、焦りすぎず、１つ１つはつきりと表す。テレビに字幕が表示される場合は、あえて<PT3（映像）>を使って表す方法もある。

- ・肩書・氏名などの固有名詞は必ず間違いがないように表す。話に繰り返し出てくる場合は、氏名を省略し、肩書（例：課長、係長）のみでよい。

（他の講師より）通訳者としては、忠実に表現していくというスタンスであったとしても、詳細がわからなくなってしまうときは、<〇〇部/中/担当/課>というように、すぐ言い換えられるように上位の言葉でまとめられるようにするとよい。

- ・固有名詞をすべて表すことが難しい場合は、無理にすべてを表す必要はない。<株式会社>は省略する方法などもある。また、後株の社名であっても、手話の語順を入れ替えて、<会社/〇〇>と表すこともある。
- ・なじみがない手話単語や普及していない手話単語については、同じテンポで表現せず、一度止めて指文字を添えて表すなど、工夫する。また、わかりにくい手話単語は表さない選択をとる方法もある。
- ・ニュース等は、話の速度が速いため、空書では遅れてしまう可能性が高いが、状況に応じて空書を使う方法もある。
- ・固有名詞の表現漏れが多いが、苦手分野ということでは済まされないため、克服できるよう努力する必要がある。

## イ 人名

- ・人名は、「姓」は一般的な手話を使用してよいが、「名」は指文字で表してほしい。
- ・「長谷川」は、<長/川>と表すと口型が見にくくなるため、「長川」と読み取れてしまう。たとえば、1回目は<長/谷/川>と正確に表し、2回目以降、<長/川>と省略する方法もある。

## ウ 地名

- ・「ペンシルベニア州」を<（指文字で）ペ/ン/（口話のみで）シルベニア/州>と表してもよい。ニュースは特に話す速度が速いため。

## エ 法律名

- ・法律の名称はきちんと表す必要がある。
- ・法律名は、スムーズに途切れないように表現する必要がある。
- ・「オーナー商法」の<オーナー>は手話学習辞典に掲載されている表現を使用してほしい。

## オ 繰り返し話題に出る固有名詞の省略方法

- ・固有名詞（団体名など）を繰り返し話すとき、指文字では間に合わない。指文字を速い速度で表しても、読み取ることができないため、<〇〇など>のように表現を工夫する必要がある。
- ・「ボジョレーヌーボー」が何度も話題に出るため、都度、指文字で表すと追いつかない場合、2回目以降は、<ワイン>や<PT3（映像）>を使って省略することができる。

## ②指文字

- ・カタカナ、ひらがな、数字、アルファベットは丁寧に大きめに表す。
- ・指文字表現がきれいではない。入浴中など1日2～3分でもいいので指文字の練習を。特に、数

字、人名、外来語には大切な情報が多いため、注意してゆっくりと表す。

#### ア 使用基準

- ・何を指文字で表すか自分なりの基準があるか。固有名詞、地名や個人名は必ず表すとよい。たとえば、会社紹介の話題で、「エアブラシアートを行う、『カーペイント〇〇〇（会社名）』」をすべて指文字で表す必要はない。「エアブラシアート」は<スプレーを吹きかける様子/ア/ー/ト>と表し、「カーペイント〇〇〇（会社名）」は<車/塗る/（指文字で）〇/〇/〇>と表すとよい。
- ・「マスコットキャラクター」を指文字で表現しているが、わからない。「キャラクター」は新しい手話の<キャラクター>で通じるかどうか、検討が必要である。

#### イ 表現の位置

- ・指文字は口型と一緒に見るため、口元の位置で表してほしい。
- ・指文字表現時は、口の横あたりでコンパクトに表す。濁点の左右の移動は、身体の前全体を使うのではなく、口の横の位置のまま動かす。

#### ウ 表現の向き

- ・指文字は、表現の角度に気をつける。特に、指文字<カ><ソ><ハ>は、正面に向けて表すと映像では見にくいいため、少し向きを変えて見やすくなるように心がけるとよい。
- ・指文字をきれいに見せようと、1文字ずつ区切って表す場合、かえってわかりにくい。自然な流れではっきりと表す。

#### エ 表現の速度

- ・指文字は表現の速度が速いと読み取ることができないため、丁寧に表す。特に、始めと終わりを丁寧に表す。アナウンサーが発声練習をするように、撮影前に、指を動かす準備体操をするとうい。撮影後の映像を見て、わかりやすく表しているかどうか確認も行うとよい。
- ・一文字一文字の表現秒数は均一になる方がよい。指文字で1つの単語を表すときは、指文字を出すリズムと表現時間を均一にすることに注意してほしい。特に言いたい（強調したい）内容を表すときは例外となる。

### ③数字

- ・数字はおよその数字でよいのか、大切な数字であるのか、判断する必要がある。
- ・さまざまな数量について話すとき、慌ててしまうと雑な表現になってしまう。数量は大切な情報であるため、丁寧に表す必要がある。
- ・西暦の年数が重要な場面では、1つ1つの数字をしっかりと表す。

#### ア 表現の向き

- ・相手に手のひらを向ける数字表現は、手話学習者が使用することが多い。手の甲を向ける表現は、ネイティブが使用するイメージがある。手の甲を相手に向ける表現の方が表しやすい。助

数詞を付けるときも表しやすい。手の甲を前に向ける表現の方がよい。

（他の講師より）ろう者の表現を見て、表しやすさ、見やすさを分析するとよい。正解はないが、基本的には手の甲を前に向けて表す。また、一般的に「8」は指をくっつけず、「9」は指をくっつけて表すことで見分けやすくなるため、意識するとよいと言われるが、映像通訳だからこそ特に気を付けた方がよい。

- ・映像での見やすさを考えて表す。たとえば、〈3日間〉は通常の通訳では斜めに表す形でもわかるが、映像通訳では、平面を意識し、手の甲を相手側に見せて「3」がわかるように表す。
- ・数字が横向きで見えにくいいため、正面に向けて表す。

#### イ 表現の速度

- ・「700 万」を表すとき、〈700 万〉を表す速度が速い。〈700〉で一度止めるとよい。
- ・速度が速すぎるため、「8 人」か「80 人」のどちらかがわかりにくい。〈80〉と〈人〉はきちんと分けて表すとわかりやすい。
- ・数字を速く表したい気持ちはわかるが、数字情報はとても大事であるため、特に、映像通訳の場合は数字を表した後に 1 拍置くとわかりやすい。
- ・「1 万 m」を〈1 万〉と表しかけ、慌てて途中で止めて次の単語を表していた。せめて、〈1 万〉の数字をきちんと表した後に次の単語を表してほしい。

#### ウ 1～2 桁の場合

- ・西暦などの 4 桁程度の場合は、少し横にずらして表すこともあるが、2 桁の年齢表現では、同じ位置で表す方がよい。

#### エ 複数桁の場合

- ・複数桁の数字を表すとき、映像通訳では、右から左に表すとわかりやすい。
- ・画面上のテロップを考慮する必要がない場合は、右利きの人は基本的に右から左へ表すとよい。
- ・「400 兆円」を、〈（4 を跳ね上げて）400〉と表すとわかりにくい。  
たとえば、〈（右手）4 / （左手）0 / （左手）0 / （両手）兆 / （右手）円〉と「400」を 1 桁ずつ表す。
- ・「2050 年」は、〈2000（「二」の手型で漢字の「千」を書く）/ 50〉と 1 桁ずつ表す〈2 / 0 / 5 / 0〉など、表し方のバリエーションを持っておく。
- ・字幕が表示されている場合は、手話の数字を出す方向も合わせる。

#### ④ アルファベット

##### ア 国際手話の指文字・日本式アルファベット指文字・空書

- ・国際手話の指文字と日本式アルファベット指文字と空書などの表現方法があるが、国際手話の指文字よりは、日本式アルファベット指文字の方が見やすいと考える。国際手話の指文字の場合、ひらがなの指文字と見間違えてしまう。たとえば、「SNS」を「さなさ」と見間違える。また、「SDGs」のように大文字と小文字が混在する場合も、日本式アルファベット指文字の場合は見やすく区別することができる。

- ・「2メートル」の<M>を国際手話の指文字で表していたが、日本では人差し指で<M>と空書する、または、日本式アルファベットで表す方がよい。「SNS」も日本式アルファベットで表す方がよい。
- ・「WHO」は、日本式アルファベット指文字で表すとわかりやすい。
- ・「SIB」など、空書を使う方法もあるが、日本式アルファベット指文字がよい。または、画面に出ているテロップを活用し、指し示す。

#### イ 読み方が難しい英語名の単語

- ・「ガーファ」を日本式アルファベット指文字のみで<GAFA>と表す場合、読み方がわからない。指文字<ガ/ー/フ/ア>と日本式アルファベット指文字の<GAFA>をあわせて表すとよい。

#### ⑤外来語

- ・「パルスオキシメーター」をすべて指文字で表す方法、映像の実物に合わせて指に挟む機械の仕草で表す方法、または、すべて表すのではなく映像を活用する方法のどの方法を使うか、検討してほしい。
- ・指文字をすべて読み取ることができる者は少ないため、すべての文字を指文字で表すのは最初の1回のみで構わない。たとえば、薬の名前がカタカナの場合、1回目はすべて表し、2回目以降は<（頭文字だけ指文字で表現）/薬>と、手話と指文字を組み合わせると、先に述べられていた単語と結びつき、理解しやすい。

#### ⑥単位

- ・「平方メートル」は、指文字を使用するか、「㎡」を空書するか、一貫した表現で表す。
- ・下記左画像のように「1人」を表すとき、右手のみで、人差し指を立て、手の甲を相手側に向けて<人>を書く表現は映像（テレビ）向きではない。下記右画像のように左手の人差し指で<1>を表し、右手で<人>と表す表現の方が映像で見やすい。両手を活用できるようにするとよい。



- ・「59人」と話しているとき、右手で<59>を表した後、<9>の手型のまま<人>を書く表現で表している。「9人」と見間違える可能性があるため、<（左手）59/（右手）人>表すとよい。

#### ⑦代名詞

- ・「〇〇さん、妻の〇〇さん、次男の〇〇君、長男の〇〇君の4人家族です。」を、言葉通りに表出している。日本語の特性として、修飾語、主語の順に話すことが多いが、手話の特性としては、主語や述語、修飾語の順で表す方がわかりやすい。今回の場合、事前に原稿をもらったとき、4

人家族であることがわかっているのであれば、日本語として「家族は4人である」と話していないときも、まず、<家族/4人>と表し、手指の活用をしてそれぞれの人物について説明する方がわかりやすい。

- ・（受講生より）3つの法律の名前を話すとき、混乱し、手が止まってしまう。  
（講師より）まず、代名詞としての手指の活用として、左手で3指を表し、落ち着いて法律名を表すとよい。

#### ⑧上位語と下位語の活用

- ・「これまでに作った作品」を<作る/品>と表しているが、上位語の「作品」を下位語の<彫刻><絵>など、具体的に表すとわかりやすい。

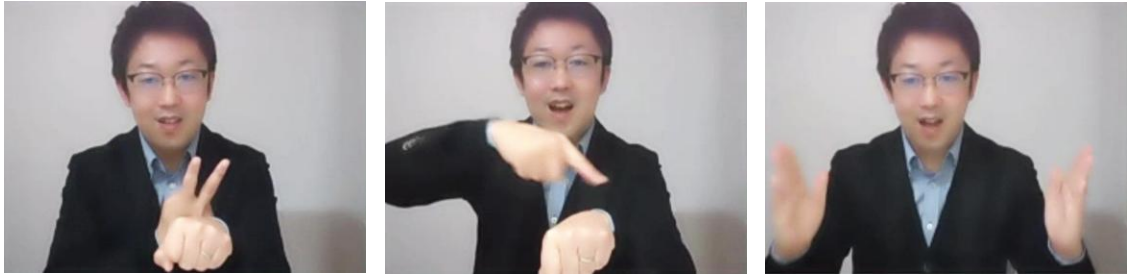
#### ア 固有名詞の前に上位語を表す手法

- ・固有名詞を表す際は、突然固有名詞を表すのではなく、その上位語を表した後、固有名詞を表すとわかりやすい。たとえば、<米/名前/ななつぼし>、<国/名前/スロバキア>、<会社/名前/〇〇>など。
- ・<銀座>と突然表現しても、東京以外の人にはわかりにくいいため、上位語である<東京>を表し、<東京/銀座>と表すとわかりやすい。
- ・「東京以外、埼玉、群馬、栃木」と話した後、「東海九州」と話すとき、日本の形（地図）を表して指さして対応するとよい。
- ・「日本の半数以上」は、<日本/半分/以上>と表すのではなく、日本の形に<都道府県>をいくつか表すなど、何を伝えたいのかを考えて表すとよい。

#### イ 数字の前に助数詞を表す手法

- ・数量を表す際、どのような事物の数量であるかを示す助数詞を数字の前に表すとよい。  
例）<作る/品/数/500><人/数/500>
- ・似ている手話単語があり、混同してしまう可能性がある場合は、<7回>を表すとき、<数/7>など、助数詞を表すことでわかりやすくなる。
- ・数字を先に表すのではなく、<ルール/5/ある>と語順を変えて表す。そのためには、2～3語聞き溜めをしてから表す必要がある。
- ・「世帯〇人」の「〇人」を単純に<〇/人>と表しているが、数の前に<いくつ>の手話を加えるとよい。
- ・「120字」を<120/字>と表してもわからないため、<文字/数/120>と表すとよい。

- ・「72 時間」を、下記左画像のように<72/時間（左手の手首の近くで<2>を回す）>と表すと、<70>という数字がすぐに消えて「2 時間」に見えてしまうため、下記中央画像のように<72/時間（左手の手首の近くで人差し指を回す）>または下記右画像のように<72/間>と表す方が映像として見やすい。



- ・「何名と話をする」と具体的な参加人数を実際には話していない場合であっても、事前にもらった原稿を見て合計人数がわかる場合は、<今日/2人/来る/指さし/〇〇さん/指さし/〇〇さん>と合計人数をはじめに表すとわかりやすい。

#### ウ 日付の前に時制を表す手法

- ・日付を表すとき、その日付が現在から見て、「大昔」、「少し前」、「少し先」、「遠い未来」のいずれにあたるかを考え、それに合わせ、日付を表す前に、<過去>、または、<未来>を表すとわかりやすい。たとえば、現在が 2024 年 12 月であり、「2025 年 1 月」と言われたとき、<未来（少し動かす）/2025 年 1 月>と表す。

#### （８）形容詞・副詞

- ・「ちょっと好き」を表すとき、「ちょっと」の意味が表されていないかった。<好き>の手話に NM を使って強弱をつけて表す方法がある。また、「3 年ほど前」を表すとき、はっきりと<3 年/前>と表すのではなく、眉を動かしながら迷いを入れた表現で「ほど」の意味を加えることができる。
- ・「本当にありがとうございました」「無事に帰国しました」の「本当に」や「無事に」などの修飾語があるとき、被修飾語の表現方法を検討する必要がある。NM を使って<ありがとう>を表すことで「本当に」の意味を加える。<帰国する/無事>と語順を変える。
- ・「すごく暑い」を表すとき、<暑い>の手話の強弱で程度を表す。
- ・<違う>を表すとき、手話の強弱で程度を表す方法を身につける。鏡で手話の強弱と表情の練習をする。
- ・「勧告」を<避難を勧める>と意味をつかんで表しているが、「勧告」の切迫性がわからないろう者が多いため、危機が迫っている緊迫感を強い表現で表す。

#### （９）手話の音韻

- ・映像の通訳では、音韻が特に目立つ。手の形や動きの微妙な違いが通常より目立つため、より注意して表す必要がある。
- ・手話の音韻が乱れてもわかるものと、見にくいものがある。たとえば、<名前>は多少角度が違ってても<名前>として認識される可能性が高い。しかし、<正月>が斜めになっている場合や、<選

挙>が斜めの方向から動いている場合、<言う>を短く止めず、おへその高さあたりまで長く表している場合など、少し見にくくなってしまう。

- ・映像での表現は、いつも以上にはっきり単語を表すことを意識するとよい。

## ①手の動き

- ・<会議>は、本来、肘を軸に動かす表現だが、手首を軸に動かしているため、<捕まる>に見えてしまう。手首、肘、腕など、身体の中のどの部分を動かす手話なのかを分析することで、手話としての発音を明瞭にすることができる。
- ・<病院>や<場所>を表すとき、日本語のリズムに合わせて2回動いている。日本語と手話のリズムは異なることを認識し、適切な表現を行う。映像では、表した手話について、ろう者が直接意見を言うことができない環境であることを踏まえながら、慎重に表す必要がある。
- ・スピードに遅れてしまい、追いつこうと思うと手話が切れてしまう。単語は省略せず、最後まで表してほしい。字幕が付いていない場合、内容がわからなくなってしまう場合もある。
- ・音韻をきちんと区切って表す。たとえば、<〇〇/市/内>を流れて表すのではなく、きちんと区切って表す。
- ・<遠慮>を表すとき、表現を繰り返しているため、<機関車>に見えた。また、正面向きで表すとわかりにくいため、前後の動きがある手話は、少し斜め向きで表す方がわかりやすい。映像は奥行きの感覚がわかりづらい。
- ・「(ナレーター) 昨夜、〇〇市内の勤務先で帰国報告した〇〇さん」の<報告>の起点が PT3、終点が PT1 になっている。報告を受ける人の反応があれば、PT1 を「報告を受ける人」とすればよいが、報告を受ける人のコメントがないのであれば、次の話の主体となる「〇〇さん (PT1)」を起点として、<報告>を表すとわかりやすい。
- ・「柱」は上から下におろす表現と、下から上にあげる表現があるが、意味が異なるため使い分けが必要がある。
- ・<視察>は、正面に向き右手の<メ>を回すだけではわかりにくい。さまざまな方向を見るようにすると、その場所が広いということもわかる。
- ・(両手人差し指の) <批判>を2回出している。批判する方向へまっすぐ1回動かす。
- ・<IT>を表すとき、左手を出してから右手が遅れて出ていたが、同時に出す。
- ・<デジタル>を表すとき、左手の<0>が固定され<1>のみが動いているが、両手を同時に動かす。
- ・<3年>を表すとき、手の動きが流れているため、わかりにくい。数字を表すときは、起点と終点を止める。
- ・<たばこ>は、外から口元ではなく、口元から外へ動く。
- ・<自由><活動><ボクシング>の表現について、手の動きは似ているが、何が異なるのかを意識して表す。

## ②手の位置

- ・<総合>や<判断>の左右の幅が大きいため、意味が変わってしまう。
- ・<する>や<毎日>を肩の高さで表しているが、どの高さが見やすいか意識して表すとよい。
- ・「55%」の表現を<(左手) 55/ (右手) %>と表すと、視聴者からは「%55」に見える。映像で



は画面上でどのように見えるか確認が必要である。西暦を表すときも、右から左へ表す方が見やすい。

- ・〈委託〉を自分の肩に乗せると、その後、表現しにくくなるため、前に出すと、その後空間の利用がしやすくなる。
- ・「2年前」と「15年前」の〈前〉が同じ表現になっているが、2年前より、15年前の〈前〉を後ろの方に出す。
- ・左右が同じ形の単語を表すとき、両手の高さが異なるため、同じ高さで表す。映像を見て確認する。筋力をつけ、映像を撮影して練習をする。例) 〈東京〉など。
- ・〈箱を動かす〉を CL で表しているが、〈箱〉の両手の位置がずれていると箱が壊れているように見えるため、左右の高さを揃えるよう練習するとよい。
- ・〈たばこ〉は、口ではなく頬で吸っているように見えるため、指の位置に注意する。
- ・2つの対象を並列するとき、水平の位置ではない場合、異なる意味で捉えられてしまう。歩き方から訓練するとよい。映像で自分の左右の傾きを確認するとよい。  
例) 〈与党/野党/集まる〉や〈巨人/阪神/試合〉のとき、左右どちらかの位置が高い場合、優劣が生じてしまう。
- ・パルスオキシメーターで計測する様子を表すとき、相手の指をつまむのではなく自分の指がつままれる表現になっていた。動詞の向きの精度を上げるとよい。
- ・〈加える/加える/加える〉を内側から外側に動かしていた。ろう者は外側（身体から離れた位置）から内側に動かすことが多い。
- ・〈褒める〉を表すとき、下向きに動かしている。上下関係がない対等な立場の対象者に対して褒める場合は、通常の高さで表す。対象の位置を下げると目下の者を褒めるという意味になってしまう。
- ・能動態と受動態のどちらかがわかりにくいため、動詞の向きに注意する。
- ・「招待される」の方向が異なっている。招かれている側と招いている側を区別する必要がある。
- ・「税金を払う」の〈払う〉は向きに注意する。
- ・〈ミサイル〉は方向に注意する。前に出すのか、左右に動かすのか、自分側へ出すのか。

### ③手の形

- ・表現が文の途中で終わっているため、文末まできちんと表し、次の単語を表現する。
- ・〈〇〇/中〉の〈中〉を、左手は人差し指と親指、右手は人差し指のみの表現では見にくいため、両手とも5指を使って表現する。
- ・それぞれの語彙が、手話の大きさによってどのような意味をなすのか、考えて表す。
- ・「日本」と「全国」の表現があいまいになっている。
- ・〈イラク〉と〈イラン〉の区別があいまいでわかりにくい。位置関係も明確に表す。
- ・「勧告」の表現が受講生によって異なる。〈勧告〉が〈注意報〉に見えるため、単語の確認をしてほしい。
- ・〈避難〉が前に向かって走っているようで、〈嬉しい〉に見えるため、正しく〈避難〉を表す。
- ・（受講生より）〈わからない〉〈できない〉の手話は、両手で表してもよいのか。  
→（講師より）映像では不適切であると考えられる。冗談半分で話す内容や、RS を活用している

ときの会話内容では表してもよいと思うが、基本的には片手で表す方がよい。

→（講師より）年代の違いもあると考えられる。年配の方の方が、両手を使った表現をよく見る。

また、地域性もあるのではないかな。対象者に応じて表現を変えるとよい。基本的には片手でよいと思う。

- ・＜気が緩む＞が＜不真面目＞に見えるため、はっきりと表す。
- ・＜アメリカ＞の指が閉じているため、指を開いて表す。
- ・＜対して＞＜対象に＞が、向かい合った人差し指が下になって寝ているため、対象者（物）が下位に見える。同じ高さで立てて表す。
- ・＜雨＞の手の形、位置、方向を正確に表す。両手指先を上から下に動かす。
- ・＜建物＞の上が広がったり、いびつだったりしているが、基本形はきちんときれいに表現する。さらに映像のイメージに合った表現をする。
- ・「防護マスク」を両手で口を覆う表現で表すと、「いないいないばあ」のように見えるため、片手で表すとよい。
- ・「感染」を＜影響＞と表していたため、単語の表現を確認してほしい。
- ・「雨で水が上がってきている」を表すとき、手型＜コ＞を上に出ると、＜高い＞になるため、「水」とは異なるものに見える。手を曲げずに伸ばしたまま上にあげるとよい。
- ・「公正」と「公平」の表現があいまいなため、区別をするとよい。
- ・「火」と「煙」の表現があいまいなため、区別をするとよい。
- ・「透明」が＜見抜く＞になっているため、区別をするとよい。
- ・「巨大」と「拡大」が同じ表現になっているため、区別をするとよい。
- ・＜政府＞と＜行政＞は手型に注意して表す。
- ・「採点」は＜チェック＞と表してよいが、指文字の＜チ＞を動かす表現になっていた。
- ・＜建物＞や＜紛争＞は、指を伸ばして表す表現が適切である。指を張るのか、緩ませるのか、音韻に注意する。
- ・＜情報＞など、単語の形があいまいになっているため、自分の映像を見て手の形や場所などを見直してほしい。
- ・指文字を表すとき、指が伸びていない。
- ・＜狼＞や＜狐＞のように、形が似ている手話は混同させないようにきちんと区別して表す。
- ・＜〇〇/（左手）男性（右手）PT3＞を表すとき、指差す対象の手話に指をくっつけない。また、日本語のリズムに合わせて指さしの手を2回振らず、一度指し示す形でしっかり止める。
- ・＜歩く＞が、ただ横に移動しているように見える。テレビ画面では人差し指と中指を交互にはっきりと動かす。
- ・「照合する」が＜条件＞になっていた。上から1つ1つ突き合わせていく様子を表す。

#### （10）無標手型・有標手型

- ・＜寺/行く＞を表すとき、両手で＜寺＞と表し、左手はホームポジションに戻した状態で、右手で＜行く＞と表しているが、＜寺＞と表した後、ホームポジションに戻さず、左手を＜寺＞の手型のまま残し、右手で＜行く＞と表すとよい。右手が＜行く＞のとき、＜寺＞の左手の手型は無標手型になるが、無標手型を残したまま反対の手で有標手型を表す表現方法も身につけるとよい。

※「無標」とは、「単純な形、基本の形（特別なルールが必要ない）」ことを表す。（松岡 2015）

(11) 具体的表現を意識した翻訳（写像性）

- ・ 名詞を表すとき、映像内の実物に合わせた表現をしてほしい。たとえば、特徴がある<テーブル>の場合、厚みや大きさなどを忠実に表す。「サイドテーブル」は、小さめの大きさに上に物をいくつか置ける様子を表すなど。
- ・ 手話表現1つをとっても、きこえる人は切る“道具”にこだわるが、ろう者は切る“動作”をどのように表すかについてこだわる傾向があると感じている。動作を優先して表現を考えるとわかりやすい。
- ・ 音声で「ルームキー」と聞いたとき、形が<鍵>と<カード>のどちらかわからないが、映像で見ると、<鍵>の手型と同じ、一般的な「シリンダー錠」のことを示していた。同時通訳の場合は難しいが、事前に映像を確認できるときは、映像を確認するとよい。
- ・ <車（運転する）>の表現は、車の大きさに合わせて表現の大きさも変えるとよい。「モビリティー」を表すときの<車>は、肩をすぼめて小さい車を運転するイメージで表すとよい。
- ・ <流木>が<バーベキュー>に見えた。写像性を表す難しさを感じる。「流木」は串のように細い木ではない。観察力が必要である。
- ・ 「たばこの煙」の表現が状況に合っていない。風で流れているのか、密室に充満しているのか、状況に合わせた表現をするとよい。
- ・ 手の動きがあいまいなため、「建物」を表すとき、形が丸くトンネルのようにみえる。建物の四角はきちんと表す。
- ・ 「ミサイル」が、人差し指を立てて上方向にあげる表現のみだが、映像に合わせると、<人差し指上方向にあげる/爆発/人差し指下向きに落とす>の表現を数回繰り返す必要がある。
- ・ 「契約書」の書類の形を丸く表していたが、丸い形の契約書なのかと誤解される可能性がある。映像の通訳では特に忠実に表す必要がある。
- ・ 「（木の作品が）かわいい」を<（左手を<女>として）かわいい>と表出している。対象物に合わせて、<かわいい>を表す必要がある。今回の場合は、<（右手のみ、作品のある空間に対して）かわいい>と表す方が適切である。
- ・ 「始めた頃は小さな作品ばかりでしたが、徐々にサイズは大きくなり」をこどもが成長しながら大きくなるような CL で表している。実際は、作品の大きさが大きくなっているため、1つの対象物が大きくなるのではなく、両手でその物を表し、複数の作品が、どんどん大きくなっていく表現で表す。
- ・ <施設>、<部屋>、<札が貼られたかご>の表現の位置と大きさが同じだが、空間を分けたり、かごを見るような視線を作ったりするなどの表現の工夫があるとよい。
- ・ <施設>の表現が大きい。「大きな施設」という意味を持った CL なのか、ただ、表現の癖で大きく表しているのか、確認するとよい。

(12) 映像通訳でより見やすさを検討する必要がある手話単語

- ・ 映像通訳でより見やすさを検討する必要がある手話単語は、リストアップしておくと、現場です

ぐに手を動かすことができる。

- ・映像で見やすくするために手話の角度や指の開き方を変えることは大事だが、限度もある。見やすい範囲があるため、調整する。対面の通訳で、ろう者本人に表現の見やすさを確認するように、映像の場合も、終わった後に「このように表してみましたが見やすさはどうですか」と確認するとよい。

- ・通常、前後の動きがわかりにくい表現は、身体を少し横に向けて表現する、左右の動きに変えるなど、工夫が必要である。身体の向きを変える場合、右に向くと左手が重なって見にくくなることもあるため、左側に向ける方がよい。

例) <努力><限界><満足><遠足><目的><アクセシビリティ><エネルギー><権利><困難(壁にぶつかる)><進む>など

- ・通常、時間軸は前後の奥行きを使うことが多いが、映像通訳では、左右軸を使う方が見やすい。

例) <前><延期>など

- ・<次>を少し下に出して表現する場合、テレビ画面では前に出してるように見えるので下げるときは、少し左右のどちらか側に下げる。
- ・<女>の手話表現は、<イ>に見間違えられる可能性が高いため、相手側に手の甲を向ける方がよい。
- ・撮影範囲から見切れてしまう場合は立ち位置をずらす、撮影範囲を広げてもらうなどお願いしてもよい。

(他の講師より) 立ち位置をあらかじめ確認しておくとうい。

- ・「残り一年間」の<間>の両手を前後に置くと、映像ではわかりにくいいため、左右に両手を置くとよい。
- ・<運転>は、ハンドルを水平に寝かせて表すと見にくいいため、垂直に立てて表す。
- ・移動する<台風>を表すとき、<(＜お金＞の手型) 丸>を水平に移動させると見にくいいため、垂直に立てて移動するとよい。
- ・<目の前>は、両手で正面に表すのではなく、片手で身体の向きを変えて表すと見やすい。
- ・<1/週間>を表すとき、しっかりと<1>を表してから、<週間>を表しているため、わかりやすい。映像通訳では、前に指さすようにした<1>の右手を右にスライドさせ、<間>を表す表現も見やすい。・対面通訳と異なり、画面を通して見ると、手話ワイプなどによって、小さく見にくくなってしまうため、手型の似た表現が紛らわしくなる。対面通訳より、はっきりと表す必要がある。

#### (13) 見間違いやすい手話単語

- ・「角山」を<角/山>と表しているが、「崎山」に見間違いやすい。似ている手話単語がある場合は、指文字で表す方がよい。
- ・<米>と<金>は見間違える可能性が高いため、表し分けるとよい。

#### (14) 読み方がわかりにくい日本語単語

- ・漢字の読み方がわかりにくい言葉や固有名詞は、手話だけでなく指文字もはっきりと表してほしい。

例) 「高階(たかしな)」「力士(りきし)」など

## 9. 文の表現

### (1) 翻訳の考え方

- ・事前に原稿を提供される際、単語を当てはめていくのではなく、全体としての文意は何かを考え、表す手話を選択していく必要がある。特に、映像では、視聴者は手話通訳者に直接どういう意味か尋ねることができない。視聴者であろう者が話の意味を取り違えたり、解釈に迷ったりしてしまうことを意識して手話を選択していく必要がある。たとえば、「早産」。本来の意味は、正期産より前の出産のことを示すが、<早い/出産>と表すと、出産にかかる時間が短かったという意味にも捉えられ、迷いを与えてしまう。本来の意味を伝えるために語彙の選択を検討することが、翻訳力に繋がる。（<予定/日/前/出産>や、口型[a]と眉をひそめる NM とともに<予定/日/前/出産>を表すなど）

例) 「～経験で学ぶことができました」

→<学ぶ(右手で先生から学ぶ)>や<学校>は学校で学ぶイメージがある。

「帰国して報告しました」

→<日本/帰る>と<日本>を表さなくても、自分側に<帰る>を表すことで、「帰国する」の意味となる。

- ・知事の「今日は久しぶりに〇〇温泉に来ました」というコメントを<今日/久しぶり/来た>と単調に表しているが、知事としては、地元の温泉に来てほしいという意図を含んでいる。表現の仕方として、何を言いたいのか、番組としてどう作りたいのかを意識しながら表すとよい。

### (2) 語順の入れ替え

#### ①手話に適した語順

- ・主語と述語の間に長い修飾語が入っているが、日本語の語順通りに表している。事前に原稿をもらっているのであれば、日本語音声としてまだ発していなくても、主語と述語を表してから、修飾語を表すという語順で翻訳すると見やすい。
- ・「相談を持ち掛けた」は<相談/持っていく>ではなく、<持っていく/相談>と表さないと意味が異なる。聞き溜めをして、翻訳する訓練が必要となる。
- ・「海外と比べるとまだまだあまい法律になっている」は、<海外/日本/比べる/PT3(日本)/甘い>と語順を変えるとよい。
- ・「防災」や「減災」は日本語の語順通りに<防ぐ/災害>、<減らす/災害>と表すのではなく、置き換えて<災害/防ぐ>、<災害/減らす>と表すとわかりやすい。日本語を聞いて、わかりやすい語順に置き換えるトレーニングも行ってもらいたい。
- ・名詞と動詞の順番を入れ替えるとよい。動詞を出した後に名詞があると、ろう者はわかりやすい。  
例) 「雪が残る」を<雪/残る>と表すのではなく、<白/あたり/雪/PT3>とする。
- ・「〇〇さん、一緒に派遣されていた助産師の□□さんとともに取材に応じてくれました」を<〇〇/□□/インタビュー/終わり>と表していた。2人がインタビューの主語に見えるため、<〇〇/□□/2人(人)/インタビュー/終わり>と表す方がよい。
- ・「無症状」を<無い/症状>と表していたが、<症状/無い>の方が手話として理解しやすい。「感染しているが症状が無い」という意味か、「感染していない」という意味なのか混同してしまう。手話に適した語順に単語を並べ替えるために、聞き溜めが必要。

- ・「職員は入所するフロアのエレベーターホールまで同行」を<患者/一緒/歩く/エレベーター/ドアが開く/閉じる>と表している。<時間/短い/説明/OK/ドア開く/手を振る/どうぞ>というように日本語の語順ではなく、語順を入れ替え、状況に応じた CL の表現ができるとよい。
- ・「入退院について判断」は<入院/退院/判断>と表すのではなく、<入院/必要/退院/できる/判断>と表すと意味がわかりやすい。
- ・「ここから病院に搬送された患者がひと月で 20 人を超えたこともあり」を<病院/搬送/患者/一か月間/20 人/超えた>と表している。<救急/搬送/20 人>と表し、<20 人>を強調する。「普通状況ではない、患者が多い」という状況説明が表現できるとよい。言いたいことは何かを考える。
- ・「あ、楽しかったですね。すごい体動かすの久しぶりだったんでいい運動になりました」を日本語通りに訳している。時間の経過を考え、語順を変えて表してほしい。たとえば、<来た/楽しい/運動/楽しい/体/久しぶり/動く/体/よい>と表す。
- ・「とても大変なことが…」は、<大変>を強調して表し、<とても>を文末に表す。

## ②複文から単文へ

- ・「一緒に派遣されていた助産師の〇〇さんとともに取材に応じてくれました」という日本語文の複文の表し方について、複文をそのまま言葉通りに表すとわかりにくいため、単文に分けてから表すとよい。たとえば、「〇〇さんは〇〇さんとともに〇〇（地名）に派遣された。その 2 人が取材を受けた」と分けて単文を表す。
- ・「雪が残る〇〇市にやってきました」は複文となっているが、主語、述語が一番伝えたい内容であるため、単文に切り分けて表すとわかりやすい。  
例) <〇〇市/来た/（うなずき）/雪/残っている>

## 10. 文法

### (1) 「間（ま）」の挿入

- ・手話の区切りについて、「間（ま）」がないと、ろう者はずっと見ていて瞬きする間もない。句読点などの区切りで「間」を入れるようにするとよい。
- ・<思考/力/表現/力>を切れ目なく表すと、何の「力（ちから）」かわからない。<思考/力>と<表現/力>のあいだに「間」が欲しい。
- ・「オオカミ女は特にお気に入り」を<オ/オ/力/ミ/女/好き/男/（間）/PT3>と単語と指さしの間に、「間」を入れて表している。主語の手話単語と指さしの間には「間」を入れない。「間」の取り方によって、意味が異なってしまう。  
例) <怒る/（間）/PT3>は、「PT1 が怒っている」という意味になる。単語と指さしの間に、「間」を入れずに表す<怒る/PT3>は、「PT3 が怒っている」ことを意味する。
- ・「スムーズに繋がたい」を<スムーズ/つなぐ/繋ぐ/希望>と表したとき、日本語のリズムになっている。単語が途切れないように手話のリズムで表すと、ろう者も見えていて疲れない。  
（他の講師より）単語より文がブツブツと切れていると感じた。下向きに深いうなずきや、ホームポジションに手を戻すことで、文に句点がつき、区切りが入っているように見える。
- ・単語でブツブツと切れすぎているため、文章として理解しにくい。<安心/療養/できる/施設>を単語ごとに表すとブツブツと切れたように見える。意味の塊で続けて表すと見やすくなる。

## (2) うなずきの挿入

- ・基本的に、文頭、文末、接続詞、並列表現の間にうなずきを入れる。1 単語ごとにうなずきが入ると多すぎる。

### ①文頭・文末

- ・話者の変わり目がわかりにくいため、文頭にはうなずきを入れるとよい。
- ・文のはじめと終わりにうなずきを入れる。
- ・読点、句点のタイミングでうなずきを入れるよう意識するとよい。

### ②接続詞

- ・うなずきのタイミングが大事。発言の後、うなずきでシフトチェンジして話者を表示する。
- ・手話表現に句読点がないため、うなずきを入れる必要がある。
- ・「医療関係の皆さまのおかげでありまして、心から感謝を申し上げます」という文で、口型をつけたまま<医療/関係/みんな/おかげ/心から/感謝/言う>と表しているが、<医療/関係/みんな/おかげ/意味/うなずき/感謝/言う>とうなずきを挿入して区切る方が手話としては見やすい。その際、ほとんどの単語に口型がついているとやりにくくなってしまうため、必要以上に口型はつける必要はなく、意味を伝えることを意識する。

### ③並列表現

- ・「学習やスポーツ、文化活動など」と単語が並列している文中でのうなずきがないため、区切れがわかりにくい。単語を並列するときは、単語と単語の間にうなずきを入れるとわかりやすい。
- ・名詞が並ぶときは、単語の切れ目にうなずきがあるとわかりやすい。
- ・名詞が続くときに、うなずきを挟んでいてわかりやすいが、身体が前傾姿勢にならないように気をつけるとよい。

## (3) 文末処理

- ・（受講生より）番組編集の都合で、「手話ワイプを消したいが、手が動いているため、編集でカットしにくい」と担当者からの指摘があった。  
（講師より）手話は編集でカットすることが難しいため、文末はホームポジションに手を戻すよう意識する。
- ・通訳は番組の時間内に終わらなければならないことを意識する。

## (4) 首振りの挿入（否定）

- ・「否定」の意味を伝えるときは、首振りを挿入するとニュアンスが伝わりやすい。  
例）<コロナ/感染拡大/理由/特定/（首振り）/無理>や<問題/（首振り）/ない>。
- ・首振りの振り方が小さいと手話ワイプではわかりにくいのでしっかりと振る必要がある。
- ・首振りのタイミングに気をつける必要がある。<コロナ/感染/（首振り）/人>と表しているが、「感染していない人」という訳になるため、その後続く<無症状>と合わせて「感染していない人の中で症状が無い人」とはどういう意味なのかと混乱してしまった。首振りのタイミングを入れ

替え、<感染者/～の中で/症状/(首振り)/人>と表す。

- ・首振りによる否定を効果的に活用している受講生が少なかった。

例)「お手洗いを我慢してはいけない」は、<お手洗い(トイレ)/我慢/(首振り)>と表し、首振りを活用する。

## (5) 繰り返し表現

### ①同じ語彙の繰り返し

- ・辞書に載っている単語をそのまま表しても間違いではないが、緩急をつけたり、(同じ語彙を)繰り返し表現をしたりすることで、意味を伝えることができるとよい。

例) <調整>を2、3回繰り返し表現することで「調整」の難しさの程度を表す。

- ・<支援してもらおう>など、手話の動詞の表す回数によってその動詞の「程度」や「量」を表すときは、表す数を程度や量と一致させる必要がある。
- ・「明日やるということが通用しない」を<明日/延長/延長/延長/首振り>と表していた。語彙の選択は良かったが、「明日」は1回のみであるため、<延長>は1回でよい。<明日/延長/首振り/今/必要>と表すとなおよい。
- ・人数の多さを表現する工夫について。「(タブレット端末を使用してオンラインで)25人の問診を行う」は、下記画像のように、両手左から右へ<次/次/次>と表すと、「(何かを)さっさと行う」という意味になってしまう。そのため、<次/たずねる/次/たずねる>と一人ひとりに対応している様子から、「25人」という人数の多さを表現できるとよい。



- ・「80人が死んだ」を、<死ぬ>のみでは意味が伝わらない。<80/人/死ぬ/死ぬ/死ぬ>と繰り返し表現する必要がある。
- ・「心残りがあると言う」の<言う>について、本人が「心残りがある」と言うときは<言う>、第三者が言うときは<言う/言う>と2回表す。または、<言う/PT3>と表す。

### ②別の語彙の追加

- ・1つの手話単語での表現がわかりにくい場合、別の手話単語で補足する方法もある。たとえば、<協議/交渉>など。この際、主語がわかりにくくなる可能性があるため、必要なタイミングで指さしを入れることで、主語を明確にする。



- ・「自動車」について、下記左画像のように<自動車A>だけでは、口型がついていてもわかりづらく、視聴者に迷いを与えてしまうため、下記右画像のように<自動車A/自動車B>と、同じ意味を示す別の語彙を2種類表すと解釈のブレが軽減できる。



## （６）空間活用

- ・（受講生より）空間活用の方法について教えてほしい。
  - （講師より）
    - 1）映像に図や位置が表示されている場合は、映像に合わせた位置を作る。
    - 2）複数の場所の位置関係を示す場合、地面に水平に並べるのではなく、地面に垂直にそれを並べる。例）「司法」、「立法」、「行政」など。
    - 3）立場の異なる登場人物を示す場合、上下関係や近しさを踏まえて位置を作る。上の立場は上のほうに作り、それ以外の人は別の空間に作るなど。
 上記のように空間を活用することで、その後、その空間を活用して表現につなげていくことができる。
    - （講師より）決まったルールはなく、上下関係と近しさを意識した上で表現する。たとえば、5つの企業を羅列する場合は横並び、<他の国名①><他の国名②><自分の地域>を表すときは、<他の国名①>と<他の国名②>が上、<自分の地域>が下の方になる。<自分の組織の行政機関>と<民間団体>であれば、少し距離が生じる。その場で配置を決めていくことになる。次に何が出てくるかわからない場合は、横並びまたは左右を順番に使っていく。その後、「〇〇団体は…」と取り上げられたら、また新たに位置を作る、という方法で臨機応変に表す。
- ・空間に主語の位置を作る場合は、その主語について表すときは一貫してその位置を活用する。
- ・話者が「県民のみなさん」と言うとき、視聴者が「県民のみなさん」にあたる場合は、正面に<県民/みんな>と表現することになるが、その後、「県民のみなさん」が主語にあたる内容で、「資料を活用し」と言うとき、<資料>を正面に表した後、<活用>をあえて正面から外して左右いずれかの空間を使うことで、その後の表現で、空間を活用することができる。このように、正面に限らず、さまざまな空間を利用して表すとわかりやすい。
- ・空間活用の際、右の空間ばかり使用しているため、手話ワイプからはみ出している表現があるが、利き手の空間だけでなく、非利き手の空間も使うことで工夫することができる。
- ・「宿泊療養施設」と「病院」の表現位置が入れ替わっていた。空間を利用し、2つの施設を分けて表した後は、位置が入れ替わらないよう、注意する必要がある。
- ・空間を活用し、映像の中にいる気持ちで遠近感が伝わるよう、通訳してほしい。
- ・胸の前の正面のみの表現になっているが、左右や上下などさまざまな空間を利用して表現するこ

とを意識するとよい。

- ・空間活用し、話者の位置を決めた場合、次回以降はその位置を指さすことで、上下関係や話者を明確にすることができ、見てわかりやすくなり、通訳も行いやすくなる。
- ・「（条例は）もっとこの法律よりも厳しい…」の<もっと>と<よりも>を同じ表現で表すと、意味が伝わらない。<法律/指さし/条例/指さし/厳しい>と位置を変えて、具体的に表す。

#### ①身体からの距離

- ・身体に近付けた位置で表すと、重要度が高い意味合いを持つ。ただし、すべてを身体から近い位置で表してしまうと、「すべての重要度が高い」という意味で捉えられてしまうため、身体からの距離感は、意味に応じて調整する。
- ・「実在しないもの」は、「目の前にないもの」とは異なる。「この世の中にないもの」という意味を示すため、<ない>を表す位置を身体から近付けたり、離したりすることによって、“どこ”にないのかを示すことができる。「この世の中にない」ことを示すためには、<ない>を身体から離して表すとよい。
- ・自分と対象物や、自分と人物との関係性によって、自分からの距離感を変えて表すとよい。たとえば、<夫>、<国民>、<世界>の順に自分からの距離が離れていくイメージ。また、<国際/PT（国際）>と指さしを使うなど。

#### ②位置関係の表し方

- ・政党の「与党」と「野党」は位置を左右に分けて決めて表すとわかりやすい。
- ・「鳥取島根と、徳島高知」は、日本語文としては2つに分かれているが、同じ位置で表すことで4つの単語がまとまっているように見えるため、<鳥取/島根>と<徳島/高知>は、きっちりと位置を離して表す。
- ・<戦争跡地>と<観光地>を分けて表していたが、同じ場所のことを話しているため、同じ場所で表す。空間活用は分けるだけではなく、同じ位置を活用することも必要である。
- ・誰がどの立場で話しているのかわからないため、レポーターとして話す場合は<PT1>に向けて<言われている>と表すなど、位置と動詞の方向をきちんと表す。
- ・「〇〇（地名）の出生率は日本の5倍」の位置関係の作り方について、「日本」と「〇〇（地名）」を比較する内容であるため、放送している自分側 PT1 を日本とし、〇〇（地名）は PT3 とするとよい。たとえば、<日本/PT1/比べる（右手は PT3 側、左手は PT1 側）/5倍>とする。
- ・「〇〇（地名）」の位置を示すとき、<PT（右上の空間）>としているが、右上を指すときは、目上の方や偉い立場の方を示すときに使うため、ここでは右下を指し示す方がよい。

#### ③左右空間の有効活用

- ・基本的に、動詞は利き手で表す。非利き手を使用するときは、自分がいる場所ではなく、離れたところに帰ってくる場合などで使用する。
- ・<参議院議員><衆議院議員>は、左右に分けて表現するとよい。
- ・「2か月後の去年の6月」は、「2か月後」と「去年の6月」を身体の正面で表すと誤解を招く可能性があるため、身体の正面で表現せず、右肩のあたりで表現するなど、空間を活用する。

#### ④地図の表現

- ・複数の国について話すとき、自分側から見る地図と相手側から見る地図のどちらの向きで表すのか、決めて表現する。身体の正面の空間ですべてを表してしまうとわかりにくいいため、空間を活用する。

#### (7) 主語の明確化

- ・手話の同時性を活用する。〈答える〉の手話を表すとき、その様子を表情や手話の強弱で同時に表すことができる。この手法を複数人の会話でもできるように、RSの表現方法を磨いていくとよい。また、複数の会話を表現するときのレパートリーが多いとよい。一人二役で表す方法、RS、動詞の方向で表す方法など。

例) 自分は第三者の立場になり、患者の位置から医師の方向に向かって〈答える〉と表す。

- ・主語、話者の明確化は「目力」を使用して表すこともできる。
- ・「国が緊急事態宣言を発令した」は、正面を向いている状態の「自分」から〈発令〉を表さない。主語の明確化が必要となる。動詞の主語が第三者の場合、主語の明確化に気をつける。たとえば、3つの方法がある。「国が緊急事態宣言を発令した」の場合、1つ目は、〈発令/国/PT3〉と指さしをする。2つ目は、〈国〉を作った右上の空間から〈発令〉を表す。3つ目は、自分に向けて〈発令〉を表す。このような方法などから、どのような表現がよいか、考えて選択するとよい。

#### ①指さしの活用

- ・日本語の特徴として、主語を省いてしまうことが多い。日本語では、主語が省略されている場合もなんとなく通じるが、手話では基本的に主語を明確にする必要がある。事前に、原稿や映像を確認できる場合は、指さしをどのように加えるのか、考えるとよい。単語の表し方だけではなく、指さしをどこでどのように入れるのかを考え、補っていく。
- ・〈PT1〉の位置について  
〈PT1〉を表すとき、下記左画像のように、鼻のあたりを指さす方法はラフな印象、下記右画像のように胸あたりを指さす方法は公的な印象を与える。ろう者に意見を聞いてみたい。



(他の講師より) 映像の中の人物を指さすときは、手のひらで映像を指し示す形でよいと思う。やむを得ない場合は、胸のあたりを指さす形がよいと思う。

(他の講師より) 自己紹介の際も、鼻のあたりを指す方法を使っている。公的な通訳でも鼻のあたりを指さす方法でも問題ないと思う。

（他の講師より）鼻のあたりを指さす方法は、「違和感がある」とろう者に指摘されたことがある。その場に実在する人物を手のひらで指す形でよいと助言をもらった。

- ・「日本の5倍の出生率」を<日本/5倍>と表現しているが、「日本が5倍」、「日本の5倍」のどちらかがわからないため、指さしが必要。
- ・「与党」と「野党」の話のときに、指さしの向きが上の方を向いていると、その党の立場が上位であるように見えるため、注意する。
- ・<PT3（人）>の指さしを2回表しているため、「指摘」しているように見える。主語を指し示す指さしの表現は1回のみとし、指に力を入れない。
- ・「最新の情報」は、突然<最新/情報>と表しても、何の情報かわからないため、指さしを活用し、何の情報であるか、伝えてほしい。
- ・「〇〇省によりますと、離婚が増加…」は、<〇〇省/離婚/増える>と表してもわからないため、<〇〇省/指さし>、または<〇〇省/発表>と表すとよい。
- ・「すっごく本当にモチベーションが高くって、会議でもなんか止めようがないぐらい」を<気持ち/高い/会議/盛り上がる/待つ/状況>と表しているが、<待つ>を表す場合、主語を入れる必要がある。主語が入っていない場合、誰が待っているのかわからない。
- ・「モチベーションが上がる」を<積極的（モチベーションが上がる）>と表しているが、主語がないため、<モチベーション/みんな>と、主語を表す。
- ・「新しい生活様式に合わせた感染症対策にご尽力をいただきまして誠にありがとうございます」は指さしが少ないため、主語がわからない。誰がお礼を言っているのか、指さしを一度入れることで主語が明確化される。たとえば、<市民/みんな/マスク/手洗い/努力/終わり/うなずき/PT1/ありがとう>。
- ・「心配されるのは、感染者やそのご家族、関係事業者に対する不当な差別や、偏見です」は、誰が誰に対して行うことを誰がお願いしているのかわかりにくい。身体の向きや指さしを活用して、登場人物を明確化するとわかりやすい。たとえば、<（右向き）感染/（左向き）指さし/いじめる/差別/（正面）しない>。
- ・「便利だと彼が言った」は、<彼/便利/言う>と語順を入れ替える。また、指さしで誰の発言かわかるように主語を明確にする。
- ・「その内容には批判の声も、少なくありません」は、誰が批判しているのか。
- ・<喜ぶ>と表現しているが、主語が明確にされておらず、誰が喜んでいるのかわからない。誰の感情なのかわかるように表現を。
- ・「自分の身長よりも高い」は、主語が明確にされておらず、誰の身長なのかわからない。
- ・<取る>と表しているが、主語がわからない。<取る>の後に主語を指さしする。
- ・テレビ放送の特徴として、人物紹介の最後に氏名を紹介されることが多い。手話では主語がわかりにくいいため、事前に原稿を渡されている場合は、先に主語を表すとわかりやすい。

## ②縮小型の手話の活用

- ・身体の向きを変える RS を表すことができない場合は、縮小型の手話で主語を表し、指さししてから話の内容を表す方法もある。



## ③RS（身体の向きを変える方法）

- ・RS を活用するときは、しっかりと向きを変え、顔も同じ方向を向き、正面に戻る。手話をしかけている状態で向きを変えるのではなく、手話がきちんと終わってから向きを変える。
- ・RS で身体を左右に振っているが、顔が全く動いていないため不自然に見える。顔も左右にしっかりと向ける。
- ・「お友達のお母さんとかにいいねーって言って評判になったので」をすべて正面に向いたままで表しているが、「友達に好評だったこと」を強調する場合は、「自分」の向きである正面に向いたまま、友達からの台詞を<よい/言われた>と表すのではなく、RS を活用するとわかりやすい。たとえば、<見られる/よい/言われる>ではなく、<友達/PT（友達）/よい/PT3/言われる>と、「友達」のコメントである<よい/PT3>の部分、RS を活用して表す。
- ・（受講生より）本編映像に合わせて RS の位置を作ったとしても、映像が進む中で立ち位置が変わった場合、同じ位置で継続してよいのか、変える方がよいのか。  
→（講師より）ろう者が本編映像も視野に入るような大きさのモニターで見ているかどうか、環境にもよるとは思うが、できるだけ本編映像と同じ方向に合わせて、RS を行うとよい。
- ・2人の会話の掛け合いの場面で、1人だけで話しているように見えるため、RS で向きを変えて表すとよい。ただし、身体を振りすぎないように。
- ・「戦争の悲惨さを伝え関心を持ってもらう」は、主語と目的語がわからないため、RS を活用する。
- ・2人の人物が話しているとき、正面に向いている位置を自分の位置とし、<言われた>を左右それぞれの方向から自分に向けて表しているが、話者の気持ちを伝えるためには、身体の向きを変える RS を活用する方がよい。
- ・他者の会話を第三者的な表現で表しているが、話者の気持ちを伝えるためには、身体の向きを変える RS を活用するとよい。
- ・会話中の話者が2人から3人になるとき、左右の RS の間に真中の向きを加えてわかるようにする。
- ・「一度だけ図書館に行って登録をすれば、簡単にスマホやタブレットで本を借りることができる」の日本語文において、RS を活用し、「図書館」と「利用者」の向きを作って表す。この際、<借りる>の動詞の向きに注意する。
- ・RS を活用するとき、「通訳者は無駄な動きが多い。目線だけでわかる」と言われることもあるが、映像の場合ははっきりと身体の向きを変える方がよい。

- ・複数の人物の声が重なるとき、どの声が誰の声にあたるかわからない場合も、身体の向きを変えて、別の人の発言であることを区別する。
- ・2人の人物の会話をRSで表すとき、括弧内の台詞を交互にぎこちなく表している印象を受ける。台詞をきっちりと表すよりも、リアクションを付け加えることで自然な会話の形になる。日本語での会話を手話らしい会話にしていく。どの程度の角度をつけるかを考えるだけでなく、反応やコメントが必要となる。
- ・2人の会話をRSで表しているが、映像の2人の位置関係とRSで表している2人の位置関係が左右逆のため、話者がわかりにくい。返しモニターがある場合は、モニターに映っている話者の方を向くと、映像と同じ向きで表すことができる。
- ・身体の向きを変えるRSを活用しているときの主語を表す指さしは、<PT1>でよい。RSではなく、正面に向いて第三者を表すときに<PT3>を使用する。
- ・RSを活用しているとき、身体が動きすぎるのもよくないが、視線の使い方にも気を付ける。視線の使い方によっては、「知らないの？」という別の意味が付加されてしまう可能性もある。どのような意味で、どの程度の角度を動かすことで見やすいRSになるか、心がける必要がある。
- ・身体の向きを変えるRSを活用するとき、カメラを意識せずしっかりと目線を外す。
- ・身体の向きを変えるRSを行う前に、まず、RSの主語を縮小版として表し、RSを始める必要がある。
- ・話者が頭の中で思っていることも、正面に向かって表す方法だけでなく、向きを変えてRSで表すことができる。

#### ④RS（視線・目線を使う方法）

- ・（受講生より）（医者が）患者の様子をタブレットで見るとき、上から見下ろす表現になっている。  
→（講師より）目線によって、立場（上下関係・対等）を表すことになる。  
→（講師より）タブレットを注視した後、カメラ目線に戻るという目線の切り替えを行う。
- ・会話の場面では、左右の振り分けをする。ナレーションやキャスターが話すときは、正面を見る。インタビューやゲストが話すときは、カメラを見ず、左右に目線を向ける。目線の使い方を工夫する。
- ・大きく動き過ぎないように、「小さく前へならえ」をしたときの指先を見る程度の左右への視線の向け方でよい。

#### ⑤RS（動詞の主語になりきる方法）

- ・「〇〇県内に文化財がいくつあるか知ってますか？」を<〇〇県/内/文化/財産/ある/いくつ/知ってる？>と表しても間違いではないが、わくわく感やろう者の視点を取り入れるのであれば、左手を指折り数えながら、右手で指さす表現を使うと、好奇心を掻き立てられる。



- ・A「知ってる？」B「知らない」A「僕も知しらない」という短い会話は、A・B両者のRSではなく、自分がAになったまま、Bのセリフも含め、<知ってる？/知らない？/同じ/知らない>とAが2役を発言する方法もある。身体を動かす時間を省くことができる。
- ・「弁当を配る人」「薬をもらう人」など、その人物になりきるRSを活用できると、簡単に、わかりやすく表すことができる。

#### ⑥RS（その他）

- ・（受講生より）RSの方法として、身体の左右の向きに変化をつける方法以外（上下の目線、瞬間的なまばたき、手話のリズムの変化）でも伝わるのか。  
→（講師より）まばたきなどで話者の明確化を行うことはできるが、映像内の手話の大きさによっては、まばたきでは見にくい。どの程度わかるのか、放送する映像の画面を見てろう者の反応を確認するとよい。
- ・「こどもが小さいときは水分補給をするよう注意している」は、主語がわかりにくいいため、RSで表すとよい。
- ・インタビューの場面では、RSを活用して、話者をはっきりと区別する。
- ・本編映像では人物が映っておらず、音声で判断し、2人の人物の会話内容であることがわかる場合、RSを活用し、話者を明確にする。
- ・話者を明確にしないまま気持ちを込めた表現をすると誤解が生じるため、ナレーションは冷静に表す。特に、政治の話は中立を意識する。RSを活用し、話者を明確にする。
- ・文の最後に主語を指さして表現する人が多いが、<飛行機/行く/首相>は、わかりにくい。最初に、主語を表すとよい。「到着後、首相は会議に出席した」も、<首相/到着/後/会議/出席>。

#### （8）話者の明確化

- ・映像通訳では、主語の明確化のみならず、「話者」が誰かを伝える必要がある。
- ・きこえる人は声をきいて、今、誰が話しているかがわかるため、話の内容だけ必死に手を動かすことが多いが、ろう者は誰が話しているのかがわからない。「話者の明確化」をしっかりと行ってほしい。たとえば、下記の方法がある。



- 1) 視線
  - 2) RS (ロールシフト)
  - 3) 表情 (ナレーションはニュートラル、ナレーター以外の話者が話すときは表情を変える)
  - 4) うなずき
  - 5) 表現の速度
  - 6) <PT3 (映像)>・映像を手の平で指し示す
  - 7) 話の内容に入る前に、話者の名前を表す
  - 8) <質問する><回答する>などの動詞の活用
- ・映像に出演する、ナレーターと別の話者については、ニュートラルな表情とにこやかな表情など、表情の使い分けで話者を明確にすることもできる。

#### ①RS の活用

- ・アナウンサーが VTR を見た後コメントに移るとき、通訳も同じような動きで、VTR を見終わる動作をして、アナウンサーへシフトチェンジするとよい。
- ・2人が会話する場面で、話者を1人ずつ映して切り替えるときのRSは、正面向きで、質問や答えの動詞の方向で表現することもできる。

#### ②うなずきの活用

- ・うなずきや、<私/思う/何>と表してから話者の発言を表す方法などで、話者が変わったことがわかる工夫があるとよい。
- ・通訳の後半、うなずきが減ったため、話者が誰かわからなくなっている。

#### ③映像を手のひらで指し示す方法の活用

- ・映像に話者が映っているときは、手の平で指し示すのもよい。
- ・話者を明確に表していない場合、ナレーターと映像に映っている人のどちらが話しているかわからない。映像に話者のみ映っているのであれば、<(手のひらで)映像を指す/〜〜〜>と話者の明確化を行うことが大事である。
- ・映像は切り替わっていないが、話者の音声切り替わったとき、話者の転換がわかりにくいいため、視線や身体の向きを変えたり、<女/映像を指す>など表してから話を通訳し始めたりすることで、話者の明確化を行うとわかりやすい。

#### ④質疑応答の場面

- ・質疑応答の場面では、<質問><回答>と表してから内容を伝えたと主語がわかりやすくなる。
- ・カメラ目線のままで、<質問><回答>を表しても、誰が言っているのかわからないため、質問の際、目線をあげて質問し、回答の際、目線を下げて回答することで知事と記者の関係を作ることができる。
- ・記者会見では、知事が上の立場であり、記者は下の立場であるため、対等な高さではなく、差をつける。記者から質問する際、<質問>を対象の先を上に向ける、または、目線を上に向ける。また、RSを活用するとわかりやすい。



- ・質疑応答の場面で、<質問>と<回答>を毎回表しているが、あまりにも速いやり取りの場合は、<質問>を省略し、<回答>のみ表す方法もある。
- ・<質問される/〜〜〜/答える/〜〜〜>と表すことで、質問者と回答者の明確化ができる。下記左画像のように<質問>と、まっすぐに表すと見にくいいため、下記右画像のように回答者に向けて動かすなど、見やすい工夫をする。



#### (9) 言い換え

- ・抽象的な日本語は、手話表現の際、言葉通りではなく具体的な表現を選択するとわかりやすい。たとえば、「医療機関」は<病院/など>と表す。「(学校現場での)リモート」は、先生が映像で生徒に伝える様子を表す。「新学期」は<9月/から/授業/始まる>と表す。
- ・音声言語と手話は、同じ量の情報提供をすることが大切。手話通訳者が自分なりの判断基準を持ってベースを固めてほしい。責任者などに対して、事前に内容を確認できるときは確認するとよい。
- ・具体的な手話表現を入れないと内容がわからないことが多いが、あまりに具体的な表現が多い場合は、誤訳や間違った情報が入ってしまう可能性もある。聞き溜めをして、考える訓練も必要である。
- ・「無症状」や「軽症」の話題で、「無症状」の手話による具体的な表現が多いが、「軽症」は補足がないため、1文の中で補足量が異なるとアンバランスに感じる。1つの言葉に対して、情報が盛り込まれすぎるのもよくない。わかりやすくなるよう工夫していると思うが、あまりに情報を入れすぎると逆効果になる。
- ・「NICUの技術の向上に協力」  
日本語を聞いたまま表すと、<NICU/技術/向上/協力>となるが、日本語では伝えていない前提を手話で表す。たとえば、この文の前提としては、「NICUは技術が高い方がよい」ということ。つまり、<技術/低い/まだ/PT3/高い/よい/協力/終わり>と表すとわかりやすい。テレビの通訳では時間制限があるため限界はあるが、このようなろう者の表現の傾向を理解しておくことが大切である。  
(他の講師より)何の技術を向上しているのか、抽象的な表現を細分化するとよい。具体的にどのようにどうやって技術を向上しているのか、行動を時の経過順に表現すると手話としてわかりやすい。連続する具体的な場面による知識を「スクリプト」といい、日頃からイメージするとよい。
- ・「アウトドアスポーツ」  
<家/出る/スポーツ>と表しているがわかりづらい。言葉自体をわかりやすく伝えるためには、指文字+手話で表す。または、<建物/中/スポーツ/違う(手を振る)/外/スポーツ>とA not B構

文を使用するとわかりやすい。

- ・「一日およそ 30 人の子どもたちが過ごしています」

<一日/30 人/子ども/過ごす>と表している。放課後子ども教室の説明だが、24 時間、お風呂も食事もある時も一緒に過ごしているように見える。たとえば、<子ども/一緒/楽しい/活動/遊ぶ>という表現だとわかりやすい。ろう者がどのように表しているか、研究し、翻訳技術を磨いてほしい。

- ・「薪ストーブがある生活に憧れ、1 年半前〇〇に引っ越してきました」

「憧れ」を、<憧れる>のみで表している。移住するほど薪ストーブに憧れていたという意味が伝わらないため、「通常は、薪ストーブはないがここにはあってとても惹かれた」ということ、「憧れだけではない魅力がある」ということ、「よいと思った」ということ、「憧れた」ということ、など、3 つ程度の「憧れ」と類似する表現を表し、<移住/決める>とした方が、「憧れ」の度合いがわかりやすい。

- ・「抗ウイルス剤は絶対にスピードが命です」

言葉通り、<スピード/命>と表している。スピードが命というのは、つまり、薬を飲めば助かるということ。言葉通り表さず、<薬/飲む/助かる>と表す。

- ・「ルールを決めて、守ってほしい」

「守ってほしい」を<まもる/希望>と表しているが、守るとは何か。たとえば、<頭に入れる/行動/希望>と表す。

- ・「スタッフが子どもたちを見守っています」

日本語通りに訳しているが、<子ども/遊ぶ/指さし/見る>など具体的表現にする。

- ・「今までにない新しい取り組み」

日本語通りに表している。<今/まで/ない/新しい/取り組み>でもよいが、<今/まで/初めて/取り組み>の方が伝わりやすい。

- ・「市のビジネスに繋がらない」

<市/ビジネス/繋がる/ない>と表しているが、<市/ビジネス/アクセス/なかなか>の方が伝わりやすい。

- ・「受け入れる」

<受ける>と表している。無症状や軽症の人を「受け入れる」ということから、ほとんどが歩いて来ることができる人であると想定される。日本語で「受け入れる」と聞こえるため、<受ける>と表してしまうことが多いが、ろう者にとっては<来る/来る/場/宿泊療養施設>などの別の表現の方がわかりやすいのかもしれない。

- ・「集団接種会場に空きがあります」

つまり、「予約が少ないため行ってよい」ということを伝えたいため、<会場/空いている>は「会場がスカスカ」というニュアンスではなく、<予約/いっぱい/ない>など、「予約がないため予約してよい」ということを伝える翻訳とする方がよい。

- ・「当初コロナ禍は災害ともいえる状況だったと思います」

日本語通りに訳している。「災害ともいえる状況」を<災害/言う/できる/状況>と表しているが、<言う/できる>が日本語とは意味が異なる。今までとは異なる状態であることを示しているため、たとえば、<普通/ちがう/災害/並み>と表すなど、文脈の意味を考えて表すとよい。

- ・「不当な差別偏見」  
 <コロナ/感染する/しない/あっちいけ>など具体的に表すとわかりやすい。
- ・「緊急事態宣言をどうするのか」  
 抽象的な日本語を具体化するために、常に対義語を意識することが大事である。たとえば、「緊急事態宣言をどうするのか」は日本語通りに表現せず、<緊急事態宣言/継続/うなずき（かしげる）/今まで/終わる/うなずき（かしげる）>と表すことができる。
- ・「最低ランク」  
 <最低（ビリ）>と表現しているが、「最低」という意味ではない。<最高>から右手を順々におろしていき、下の方で「このあたり」と指さすとよい。
- ・「来月」「先月」  
 聞こえたまま表しているが、<12月>など具体的に表すとよい。
- ・「マークシート」  
 <4択><2択>の表現もあるが、<黒><○/書く>の表現がわかりやすい。
- ・「債権者」  
 <株券/買った/人>と表しているが、意味が異なる。「債権者」は「お金を請求できる人」という意味。<お金/取られる/返す/ほしい/人>と表すと少し長いが、このように表現を考えてほしい。
- ・「マナーの問題ではなく健康被害を受ける人」  
 <マナー/問題/違う/体/傷>と表しているが、わかりにくい。<マナー/おいておく（<さて>）/（<人>は省略してもよい）/体/壊れる>と表すとよい。
- ・「戦争のリアルな描写は控えています」  
 「控える」を<遠慮>と表しているが、<映像/出す/ない/省く>と表すとよい。
- ・「懐かしいのは懐かしい」  
 ただの「懐かしい」とは意味が異なるため、表情も含め表現の工夫をするとよい。
- ・「法律の改正を手放しで喜べない」  
 「改正に反対」するように見間違えてしまう。「改正はよいが問題は残る」と翻訳し、手話で表すとよい。
- ・「ほとんどが禁煙だけど、例外もある」  
 2回同じ文章が出てくるが、いずれも同じ表現だった。2回目は意味をつかみ、「例外もある」を<煙草/吸う/できる/場所/ある>と表すとよい。
- ・「（避難所で）もう、横になって寝ている人もいます」  
 「寝たきり」に見間違えてしまう。
- ・「こどもたちに抵抗感を与えるような戦争のリアルな表現は抑えている」  
 「戦争のリアル」を<荒れる混乱>と表しているが、工夫が必要である。こどもが戦争は止めようと思えるような表現を考えてほしい。
- ・「災害の怖さを初めて目の当たりにしました」  
 <見る/見る/災害/怖い>と表すとよい。
- ・「見るときくのでは違うとわかった」  
 見ることときくことの「機能」が異なるという意味ではない。補足の表現が必要となる。たとえば、<現状/見る/話し/きく/違う>など。

- ・「入院が相次ぎました」  
 <入院/入院/入院/終わり>など、話者のスピードに追いつくためにはコンパクトな表現が望ましい。「日本の半分以上が猛暑日だった」を<日本/指さし/指さし/指さし/暑い>と表すなど。
- ・「衆議院での審議が行われることを期待する」  
 <期待>のみで終わるのではなく、<期待/願う>と補足するとよい。
- ・「世界で日本が遅れている」  
 <遅れている>を左手の5指を「日本以外」と見立て、右手人差し指を「日本」に見立てて後ろに下げているが、左手の5指を前に出して表す方がよい。日本が後退しているのではなく、世界が進んでいるという意味を伝える。
- ・「警察によりますと」  
 警察を指さす表現のみではわからない。<話す>や<情報/もらう>などを表し、補足するとよい。
- ・「今日は休みだからいいけど」  
 <今日/休み/かまわない>と表すと、意味が異なる。「休みだから事故が起こっても構わない」と読み取れてしまう。<かまわない>は意図に合わないため、<今日/休み/こどもたち/いない/無事/ホッとする>など、補足をするといよい。
- ・「若者に身近な」  
 <若い人/身体/近い>という表現でよいのか。<若い人/みんな/持っている>という表現もよい。
- ・「こうした中」  
 <これ>と指さしのみで表しているが、<これ(この)/状況/ある>と表すとよい。
- ・「次は急拡大のニュースです」  
 日本語通り表すとわからないため、聞き溜めをし、何が急拡大かを表してほしい。
- ・「個人情報の範囲」  
 日本語通りの表現では意味が異なるため、「範囲外」と「範囲内」のどちらかについても、補足して表すとよい。
- ・「今までのやり方と違い…」  
 <今まで/方法/違う>と表しているが、「今までのやり方が間違っていた」という意図で捉えられてしまうため、<今まで/方法/今/方法/違う>と意図が伝わるように手話を補うといよい。
- ・「(採点する側が)マークシート方式は楽。記述式は大変」  
 <黒/塗りつぶす/機械/任せる/楽/書く/調べる/必要/大変>と表すとわかりやすい。
- ・「共通試験で人生が決まる人も多い」  
 <人生/決まる/大事/意味>と表現することで意味がわかりやすくなる。
- ・「相談をもちかけた」  
 <相談/した>だけでなく、その前に<方法/何>や<悩み/PT1>を入れて表すとよい。「相談」のみでは抽象的であるため、話者の脳内について補足するとわかりやすくなる。
- ・「～ありますよね」  
 文末で<～/同じ>と表すと、特に、カメラが近い場合は強く同調を求められているように感じるため、<～/ある/うなずき>や<～/ある/同じ(片手)>と表すことで、和らげることができる。
- ・<～/同じ>  
 既知の内容を「～ですよ」と話す印象があるため、<～/反応(へえ～)>という表現の方が二

ュアンスを伝えられると思われる。

- ・「保健所の指導のもと、検査を実施している」

そのまま日本語通りに訳すと本来の意図が伝えられないため、保健所が指導をしていることも表すとよい。

- ・「医療崩壊しました、ということを一般府民の皆さんに伝えるっていうことはあってはならない」  
<医療/崩壊/PT3/府民/みんな/伝える/PT3/防ぐ/認めない>と表していた。<認めない>は相応しくない。「絶対に許さない」という強い表現に見える。<府民/みんな/支援する/みんな/要望を受ける/きちんと/答える/必要>と表す方がわかりやすい。

- ・「あまり音楽に詳しくない」

「詳しくない」とは、つまりどういうことか。<知識/ない>、<興味/ない>など、別の語彙に置き換える方がわかりやすい。

- ・「心が掛けている」

<注意>と表している。「心が掛けている」というのは注意ではなく、気遣っている印象がある。気持ちのこもった表現が合っている。そのためにも語彙の幅を広げるとよい。

- ・「これは何かと言うと」

<これ/何>と表している。「これは何かと言うと」は<これ/理由/何>と意図をとらえて表す。

- ・「コロナの対応に追われました」

日本語通りに訳しているが、<対応/終わり>のみでは、その大変さが伝わらないため、具体化するとよい。どこまで具体化するか、検討は必要であるが、たとえば、「電話がかかってきて救急車が来て、たくさん入院していて、救急車で患者がどんどん搬送されてきて…」という具体的表現をする。時間的に難しいのであれば、その中で何を選択すれば伝えられるのかを考え、翻訳の中でできると、「コロナのとき大変だった」ということがわかる。

- ・「患者の療養を支える」

<支える>という動詞の表し方に工夫が必要である。「支える」といえば<助ける><世話する><対応する>など、日本語の1つの単語に対して、手話の語彙は1つではない。その時の様子に合わせて具体的に表す。

- ・「タブレット端末で面接」

<タブレット/面接>と表すと、実際に対面しているように見えてしまうため、語順を入れ替え、伝えたいことを後ろにする。<本当/会う/違う/タブレット/見る/話す/だけ>と表すとよい。

- ・「〇〇省は…通知を全国の自治体に出しました」

「通知」は、<郵便>、<メール>、<(口頭の)アナウンス>など、具体的な方法を表す。

- ・「どのようにして身を守ればよいのか」

日本語通りに表しているが、ろう者に伝わる表現として、<津波/逃げる/方法>や<手/困る/ない>(手遅れがないように)など、具体的な表現をするとよい。

- ・「埋葬」

宗教によって埋葬方法は異なるため、文脈に合わせて、その国での埋葬方法を調べて具体的に表現するとよい。

- ・「行政と医療の連携で」を<行政/医療/連携>

<連携>と<関係>は見間違いやすいため、<行政/医療/考え方/一致/進める>と表す方法もある。

- ・「連携する」  
 <集まる>や<助け合う>と表し、「連携」とはつまりどういうことかを具体的に表現する。
- ・「ワクチンの接種場所については、現在調整中です」  
 1箇所の時間を調整しているのではなく、「複数の場所がある中で、どの場所にするかを調整している」という意味であるため、<場所/どれ（視線を動かす）/調整/中>と表す方が文脈に沿って伝えることができる。
- ・「医療現場」  
 <医療/現場>と表しているが、<病院/など>や<医師/看護師/など>と表す方がわかりやすい。
- ・「家具を2点出す」を具体的な手話で表出する必要があるのか。  
 手話の言語の特性から考えると、具体的表現をしていくことが必要だが、双方向のコミュニケーションでは別の意味で捉えられたときに訂正したり、ろう者の反応を見ながら例示を出したりすることができるが、映像ではそのコミュニケーションをとることができないため、誤解されないように加減をしなければならない。今回の場合は、具体的な家具を表してしまうと、例示として出されなかった家電は出せないのかなど、別の意味に捉えられかねないため、<家/ある/不要/出す/出す/2つ>といった表現をせざるを得ないを考える。制限をかけながら表していくことも必要であるとする。
- ・「〇〇県の職員」  
 <〇〇県/職員>と表している。事務職員が防護服を着て感染者に対応している状況を考える必要がある。〇〇県に採用された看護師や保健師などの専門職の職員ではなく、事務職員が対応していることがわかる表現として、<普通/仕事/員>と表すと、「一般の事務職員が頑張っている」ということが伝わる。
- ・「固くご遠慮願います」  
 （受講生より）「固く」と話す場合、<遠慮/お願い>ではなく、強い表現として、<やめる/お願い>と表してよいのか。  
 →（講師より）「宴会はご遠慮願います」は、<宴会/遠慮/お願い>と表す。  
 「宴会は固くご遠慮願います」は、<宴会/首振り/遠慮/お願い>と首振りを入れることで、否定の意味を強調することができる。  
 →（講師より）<遠慮>は<謙虚>とも捉えられ、誤解を招きやすい手話単語のため、<遠慮>は使用せず、<グループに入って動く（下記画像）/しない/グループから抜ける/お願い>と文脈に沿って具体的な表現にする方がわかりやすい。



日本語に等しい手話をどう当てはめていくか。<遠慮>という手話単語が強弱をつけられる単語ではないため、たとえば、<家/出る/首振り/遠慮/お願い>など、首振りを使用して表す。

- ・「国や県のパイプ役」  
「パイプ」とは「管」だけなのか。＜連絡/取りあう＞や＜交渉/交渉＞など具体的表現で表してほしい。
- ・「再生可能エネルギーシンポジウム」  
日本語通りに表したとき、ろう者に伝わるのか。事前に原稿をいただいたとき、何を省いて何を足すのか、どこで間を作るかを考える。「再生可能エネルギー」の意味は何か、そのままの言葉で伝えてよいのか考えてほしい。
- ・「最初のうちはやはり」  
＜始まる/突然＞と表している。言葉通りではなく、具体的に、＜2年前/コロナ/広がる/時＞と表す方がわかりやすい。
- ・「支給額」  
「市から給付されるお金」という意味であるため、＜市/から/支払う/お金＞と表すとわかりやすくなる。細かく1つ1つの言葉を表す必要はない。
- ・「1施設50万円（を支給する）」  
＜1/施設/50万＞ではなく、＜施設/PT3（施設）/50万＞と表すとよい。
- ・「世界が恐れていた」  
＜世界/怖い＞と表すのではなく、「国同士の混乱を見て、怖い」という意味をつかんで表す。
- ・「沢山の職種、固定でないスタッフが携わる」  
＜仕事/いろいろ/集まる＞と表している。映像より、「医師・看護師・保健師・ケアマネ」などさまざまな職種の集団であることがわかるため、＜専門職/いろいろ＞や＜スタッフ/交代/交代/集まる＞という表現があると、いろいろな方面から支援があることがわかる。
- ・「都道府県」「市町村」を繰り返し発言されるとき  
＜都道府県＞＜市町村＞を表さず、＜全国＞と表した後、北から南まで指さしながら転々と動かしていく表現もある。
- ・「インターネットの広告などを鵜呑みにせず、複数の事業者から見積を取って比較検討しましょう」  
言葉通りではなく、具体的に表すとわかりやすい。たとえば、＜いくつか/会社/見積/もらう/並べる/見る/金額比較/調べる/きちんと/必要＞など。
- ・「命の危険がある」  
日本語通り、＜命/危ない＞と表しているが、具体的に、＜死ぬ/危ない/（うなずき）/助ける/無事/必要＞と表すとよい。
- ・「こどもが小さいので気を付ける」  
日本語通りに表すと、誰のこどもかわからないため、一般的な「こども」なのか、「自分のこども」なのかを区別できるように手話を補う必要がある。
- ・（議員定数の話題で）「定数6にする」  
＜定員/6＞と表すのみでは意味がわからないため、＜定員/数/プラス/6＞と補足説明をする必要がある。
- ・「対象かどうかわからない」  
＜対象/どちらか/わからない＞ではなく、＜PT1/もらう/できる？/無理？＞と反対の表現を加えると

よい。

- ・「意思確認」

<意思/確認>ではなく、<PT1/希望？不要？>と表すことで具現化される。

- ・「急変」

日本語に引きずられないように、言葉を足すよりも表現の工夫をするとよい。<(患者)/対応/慌てる/搬送する>というように、急変した患者が運ばれていくような具体的な表現に変えるとわかりやすい。きこえる人は音声を聞けばわかるが、ろう者は手話を見て知る必要があることを頭に入れて検討し、工夫してほしい。

- ・入所している 25 人の問診に行く場面で、<問診/始める>のみではイメージができない。一人ひとりの部屋に訪問するイメージができると、その様子を手話で表すことができる。

- ・場面に応じてさまざまな意味として使い分ける必要のある「すみません」など、複数の意味をもつ日本語の翻訳の仕方について、テキストとコンテキストで考える必要がある。「すみません」のテキストは「すみません」そのものを指す。謝罪の意味合いが強いため、テキストのみを訳す場合は、<すみません>となる。しかし、コンテキストとしては場面や立場、状況に応じて、翻訳をする必要がある。たとえば、お菓子をたくさんもらったときの「すみません」は、<ありがとう>と表す。会場の机が壊れてしまっていてスタッフを呼びたいときの「すみません」は、<手を振って呼ぶ>と表す。このように、「すみません」の意味を伝えることが大事であり、それを考えるためには、誰がどのような状況でそれを言っているのかを考える必要がある。また、たとえば、お手洗いに「いつもきれいに使っていただきありがとうございます」と表示があるが、「そろそろ清掃員を辞めさせた方がよいと思っているくらい綺麗でありがとうございます」と言っているわけではない。「この綺麗さを保つために皆さん引き続き綺麗に使ってください」と伝えたい。テキストだけで考えると、<いつも/きれい/使う/ありがとう>だが、コンテキストを考えると、<汚い/使う/迷惑/きれい/使う/必要>と表す。

- ・「元々中学校で美術を教えていた」を<元々/中学校/美術/先生>と表しているが、<前/仕事/中学校/美術/先生>と表す方が見やすい。

#### (10) 具体的表現を意識した翻訳

##### ①時の経過に合わせた具体的表現

- ・結果に至るまでの経過を表すとわかりやすい。たとえば、「議会の皆さんに議決をお認めいただきました」を<議会/みんな/議案/提案する/採決/認める>など。

- ・「看護の手順を一緒に確認しました」

単純に、<確認/終わる>ではなく、抽象的な表現を細分化するとよい。具体的にどのようにどうやって確認したのかなど、行動を時の経過順に表現すると手話としてわかりやすい。お茶をする・ファミレスに行くなどの時間軸にそった具体的な場面による知識構造があり、表出できるとよい。このような連続する具体的な場面による知識を「スクリプト」という。

- ・「丈夫な踏み台にもなる」

<台/立つ>と表している。踏み台に立って何をするのか。時の経過とともに何のために使うのか、必要な部分を表すことで、そのものの使用目的や言いたいことがわかると考えられる。たとえば、<踏み台を出してくる/踏み台に乗る/立って上にあるものを取り出す>と表す。



- ・「忘年会やクリスマスなど何かと交流機会が増える季節ですが、これ以上の急激な感染拡大を防ぐためにも…」  
時の経過を考えて表す。〈忘年会/呼びかける/よい/よい/集まる/会話する/感染する/うつす〉など。
- ・「県のホームページからも確認できる」  
〈県/ホームページ/確認/できる〉ではなく、〈県/ホームページ/見る/わかる〉という表現にすると、時の経過を踏まえて、手話単語が追加されることで、わかりやすくなる。
- ・「飲食を伴う会合等をされる場合」  
〈食べる/飲む/集まる〉と、飲食が先に始まるのではなく、まず、人がお店に集まって飲食が始まるため、〈集まる/飲む/食べる/〜〜〉と時の経過に伴って表すとよい。
- ・「大統領がその基地を視察しました」  
〈基地/視察/大統領/行く〉は時の流れに合わないため、〈大統領/行く/視察/した〉と表すとよい。
- ・「利用の申し込みなどは、専用のアプリでスマートフォンから行うことができます」  
〈申込/スマホ/アプリ/できる〉だけでなく、動作も表出する。動作は具体的な動詞を表す方がわかりやすい。たとえば、「利用の申し込みなどは、専用のアプリでスマートフォンから行うことができます」は〈申込/スマホ/アプリ/できる〉ではなく、〈利用/申込/スマホ/スマホを操作する/申込/できる〉と表す。「ホームページでチェックしてください」は〈ホームページ/チェック/お願い〉ではなく、〈ホームページ/画面/キーボードを打つ/チェック/お願い〉と表すなど。

## ②写像性（文レベル）

- ・「報告をした」  
〈報告〉だけでなく、〈写す（プロジェクターで）/報告〉など、報告の手段を表すとわかりやすい。
- ・タブレットを通して患者との診察を行う様子を表すとき、肩で息をするような、辛そうな患者の様子を具体的に表現する。
- ・薬の箱を持ち上げるときの〈取る〉を表すとき、片手では実際に取ることはできないため、両手で〈取る〉と表現する。動詞の表現を工夫するとよい。
- ・「自動車の板金塗装や修理…」  
〈（左手）車（右手）塗装する〉と両手で表しているが、〈車〉の大きさに対して右手の〈塗装する〉が大きすぎる。ろう者は大きさや形に敏感であるため、実物に合わせて忠実に表す。たとえば、〈（左手）車/（両手）車の窓（CL）/（左手）窓（右手）塗装する〉と表す。
- ・「家に水が上がってくる」  
〈家/たまる〉と表すと、家全体が浸水しているように見えるため、〈家/2階〉と表し、2階の2指の下まで水が上がるように、具体的に表現する。
- ・「数か所ある入口から水が少しずつ入ってきた」  
じわじわと水が入ってくる写像的な表現を心がける。写像的な表現は、ろう者の表現から学んでほしい。
- ・「灰皿の交換がいらない」  
〈灰皿/交換/不要〉と表しているが、わかりにくい。CLを使い、灰皿がいっぱいになって交換になる様子を表すとわかりやすい。

- ・「海岸を散歩中に見かけた流木がヘビのように見えたことがきっかけで、流木でのアート作品作りを思いつきます」

CL を使い、川から流れてきた流木を手にとって見つめる様子を表すだけで、意図が伝わる。映像もあるため、手話表現はシンプルでよい。

### ③指示語の場合

- ・「これが仕事にできたらいいな」

指示語を指さしのみで表出している。「これ」が何を指すのか、明確に、具体的な手話表現で表す。

### ④問いかけの場合

- ・「こどもの頃のちょっとワクワクする気持ちを思い出したりしませんか」

末尾で<質問>と表しているが、思い出は何かと聞かれている印象を与える。問いかけの「～しませんか」は、<～～/よい>や<～～/指さし>と表出するとわかりやすい。たとえば、<こども/こと/思い出す/よい>、<こども/こと/思い出す/指さし>など。

- ・「〇〇できているのか」

「か」のときに、右手を前に出すと<質問>のように見えるため、首を傾げて疑問の顔で<大丈夫>と表すとよい。

### ⑤翻訳に注意する日本語リスト

- ・日本語に手話単語を当てはめるだけでは意味が異なってしまう言い回しがあるため、日本語につられないようにきちんと翻訳する必要がある。

- ・「～しかない」「～しか～ない」

<～だけ/ない>と表すと、別の意味に捉えられてしまうため、注意する必要がある。<～する/必要><他/方法/無い>と2文に分けて表す方法も有効である。

例)「45 分しか時間が与えられない」

- ・「できるだけ」

<できる/のみ>と表すと、本来の意味である上限の最高値を目指すという意味ではなく、「できる範囲の中」といった意味合いになってしまう。

- ・「1 日も早く」

<1 日/早い>と表すと、「1 日早い」という意味になってしまう。

### (11) A/よい/B 構文

- ・A/よい/B 構文を活用するとよい。本来あるべきものを前提として出し、「それがよいとするが、別の方法で行う」という表現方法。このように、ろう者の表現の流れとして、前提→行動→評価の流れで表現する傾向がある。ろう者はどのように手話として出しているかを研究するとよい。

- ・「今気を付けるってことは、やはり気が緩むんですね」

A/よい/B 構文が活用できる。<緊張/よい/気が緩む>と日本語の裏にある部分を A、本来伝えたいことは B で表すとよい。

- ・「いろんな関係ないところに尻尾つけたり」  
 <尻尾/体の後ろにつける/よい/いろんなところにつける>と表すなど、A/よい/B構文が活用できる。ろう者にとってわかりやすい。

#### (12) A not B構文

- ・A not B構文を活用することで、本来言いたいことを明確化することができる。すべての文章で活用するとわかりにくくなってしまうため、部分的に要素を盛り込んでいくと、わかりやすい表現になる。
- ・「入社してからスムーズに仕事ができます」  
 →<会社/入る/息詰まる/ない/スムーズ/仕事/できる>
- ・「説明を短くする」  
 →<長い/説明/(首振り)/短い/短い/短い>
- ・「褒める人が僕しかいない」  
 →<褒める/人/他/いない/PT1/だけ>
- ・「雪が残る〇〇市」  
 →<〇〇/市/雪が降る/溶ける/ちがう/積もっている>
- ・「実在する動物じゃない」  
 →<本当/いる/ちがう/いない/動物>
- ・「多分褒める人が僕しかいなかったんだと思います」  
 →<よい/よい/言う/言う/ない/PT1/だけ>
- ・「作品は高さ2m近いものも」  
 →<作品/小さい/だけ/ちがう/大きい/ある>
- ・「疲れさせないようになるべく説明なども短時間を心がけていると言う」  
 →<疲れる/(首振り)/説明/短く>と、首振りを入れると意味が伝わりやすくなる。
- ・「退席しました」  
 →<出席/しない/出る>
- ・「雨雲が動かない」  
 →<雨雲/流れる/ちがう/じっとしている>
- ・「活字離れ」  
 →<読む/減る>、<読む/足りない>や、<本/読む/(首を傾げる)/いやいや/昔/本/読む/多い/今/少ない>と構文を活用できる。

#### (13) サンドイッチ構文

- ・<理由><危ない><目標><きっかけ>など、文の冒頭と末尾で同じ手話を2回表すことで強調するろう者特有の表現方法として、サンドイッチ構文がある。
- ・「ここまで流木アートにのめり込んでいったのは、□□を運営する〇〇さんと出会ったから」  
 →<集中/理由/(うなずき)/□□/運営/名前/〇〇/男/会う/理由>  
 <危ない/何/(うなずき)/マスクとる/集団に入る/一緒に行動(右手で<人>、左手で<グループ>)/感染する/危ない>

<目標/何/うなずき/野球/大谷/以上/上手/目標>など

- ・「娘が強く反対して会見が延びた」

→<会見/延びる/理由/娘/反対/PT3（反対）/理由>

#### (14) Wh 分裂文

※「Wh 分裂文」とは、疑問詞（Wh）が文の途中に現れる手話構文のこと。（松岡 2015）

- ・「〇〇さんは話します」というナレーションに続けて、「たぶん褒める人が僕しかなかったんだと思います」というインタビューが入るシーンでは、間に<話す/何?>という表現を入れると、何か繋がっているということがわかる。「今の話」を具体的に話すということがわかる。
- ・専門職の集団の中で保健師がコーディネーターをするという話の流れから、<コーディネート/担当/誰/保健師>という表現を挟むと、保健師の話題に変わっていくことがわかる。多用するとしつこくなってしまうが、番組全体の中で誰がメインになるのかを考えながら強調させる表現ができるとうい。
- ・「担当は保健師」を<担当/誰/保健師>と表し、<誰>を入れる表現はよいが、表情に変化がないため、<誰>と同時に目を見開くとよい。
- ・（受講生より）Wh 分裂文として<何>を使用する場面はどんなときか。  
→（講師より）どうしても伝えなければいけない重要な部分だけ Wh 分裂文を使う形で整理していくとよい。

#### (15) モダリティ・ニュアンス

- ・話者が何を言いたいかわからないような抽象的な話し方であっても、その話者の発言の言い回しや言いよどみも含め、話しぶりを通訳することも必要である。しかし、意図も通訳しなければならない。その塩梅を調整することが、通訳の難しい部分である。
- ・「…けれども、まあ、今回は…」という日本語を要約してしまっているが、モダリティはきちんと表現する。
- ・話者の表情や声が変わっているが、表現が変わらないため、声の強弱に合わせて手話表現にも強弱をつける。
- ・会話の場面で、「会話の雰囲気を知りたい」と思うろう者が多い。真面目な会話なのか、楽しい雑談なのかという雰囲気を伝えてほしい。笑っている表情をするだけでもよい。雰囲気を伝えるために、下記画像のように<笑う>の手話を付加する方法もよい。



- ・「十分気を付けてください」と女性が優しく話しているが、<気を付ける/必要>と強く表しているため、異なった雰囲気が伝わってしまう。話者の様子に合うように表す。

- ・特に、（災害時、）避難を促すような内容では、危機感を伝える表現の工夫が必要である。
- ・「早産で生まれる赤ちゃん」  
思いがけず予定日前に産まれたことを表す。手話の強弱、口の開閉、目の開き方、眉の動かし方、身体全体を使い、意外性を表す。
- ・「NICUの技術の向上に協力」  
＜協力＞の手話1つをとっても、第三者が別の第三者に協力している場合のため客観的に＜協力＞と表す方法もあれば、手話と身体を一致させ表す方法もある。また、＜協力＞へのニュアンスの付け方として、表情で表すことができる。主観・客観、ニュアンスによって、手話の表現方法を意図的に選べるようにすることが大事である。
- ・「無料で学べるんですか」「それは素晴らしい」と感嘆の意を示すとき、目を見開き身体を前のめりにしながら、＜無料＞または＜お金/不要＞を表す。また、＜首振り/素晴らしい＞と表す。

#### (16) 文末コメントの活用

- ・ニュアンスについては、文末コメントを取り入れるとよい。たとえば、「これまでに作った作品は500から600にもなる」は＜比べる/5倍/多い/すごい＞と表す。  
（他の講師より）日本語の表面上の形と伝えたい中身は異なる。たとえば、「5倍もの出生率です」は、「多い」と言っていないが、「もの」に「多い」の意味を含むため、＜5倍/出生率/多い＞と表してもよい。「赤ちゃんがすごく多い。5倍もの出生率です」は、「すごく多い」と言っているため、文末コメントを表してよいが、＜羨ましい＞や＜残念＞と表すと意味が異なるため、意味を正確に捉える必要がある。日本語が「出生率は5倍」のとき、つまりそれは何を示すのかを通訳者として捉える必要がある。手話には、言葉の裏にある意図を包み隠さず表すという特徴があるため、つまり「多い」のか、「少ない」のか、迷わず表すことができるか。その言葉の意図を捉えられるときは、＜多い＞や＜少ない＞という文末コメントを表す場合があるという手話の特徴を認識しておくことが大事である。「話者の置かれた状況や立場によって、選択する言葉が異なること」を「レジスター」という。たとえば、何かをお願いするとき、選挙運動では「投票をよろしくお願いします」と言うが、こどもに対して何かを取りに行ってもらいたいときは「ちょっとってきて」と言うように、伝え方が異なる。また、同じ言葉でも意味が異なる場合がある。たとえば、「今、何時？」の1文をとっても、「単純に時間をききたいとき」と「こどもが必要な時間に準備をしておらず、『今、何時?』と怒りながらお母さんが伝えるとき」は、その言葉の意味がまったく異なる。言いたいことは何かを捉えることが大事である。
- ・「高校生や先生の声聴いて国は進めた方がよい」  
→＜声/聴く/集める/進める＞ではなく、＜高校生/声/先生/声/集める/集める/国側の反応（へえ～）/進める＞のように、文末コメントを加えるなどの工夫をする。
- ・＜風/スピード/数字/m＞だけでは、この風速が速いのか遅いのかわからないため、表現に工夫が必要となる。
- ・（受講生より）「持ち家率が父子家庭は…%、母子家庭では29.8%にとどまっています。」は、「とどまっている」に対して＜少ない（親指をあごの下につける）＞の手話を付けるべきか否か。  
→（講師より）省庁から発表された数字であるため、手話の補足はしない方がよい。  
→（講師より）「とどまる」にはアナウンサーや制作側の思いが入っているため、＜少ない＞を付

ける方がよい。

- ・「これまでに作った作品は 500 から 600 にもなる」  
→ニュアンスを含める方法の 1 つとして、文末コメントを使用する。たとえば、<今まで/作った/数/500/600/多い>と<多い>を表す。または、<すごい>。
- ・「時間がとても長く感じる番組でした」「コラボレーションの部分はすごく短く感じた」  
→つまり何が言いたいか、具体的な感情を文末コメントとして入れるとわかりやすい。たとえば、「時間がとても長く感じる番組でした」は「すごく退屈になる」「つまらない」「見ていて苦しい」。「コラボレーションの部分はすごく短く感じた」は、「これだけ?」「大事なんじゃないの?」など。番組制作側の意図や視聴者のコメントの意図を確認しないとわからない部分もあると思うが、「時間が短く感じた」「長く感じた」だけではなく、つまりどういうことかわかる文末コメントがあるとよい。
- ・(受講生より) 文末コメントは主観的な表現にならないか。  
→(講師より) 政治的な内容で<おかしい>と表すと過度な表現となるため、首振りにとどめておくなど、慎重に選択する必要がある。

#### (17) フィラーの翻訳方法

- ・「えー」「えっと」などのフィラーが多いが、手話としては表現されていない。フィラーも「間」などを使って、表すとよい。
- ・「えー次に 1 つ考えられるのが」と話者が話している部分で、すべてホームポジションに戻っているため、手話の表現がなかった。話者が話している間に手話の表現がないと、ろう者が不安に思うため、話者が何か考えている間も何か言葉を発しているのであれば、手話を表してほしい。  
(他の講師より) ろう者の<えっと>など考えているときの表現を研究し、下記画像のようにまねるとよい。



#### (18) 日本語の方言の翻訳方法

- ・話者があえて方言を使って話す場合、どのように表現するかという難しさもある。あえて使用しているという意図が捉えきれず、表現しにくいいため、<〇〇弁/話す/～～>と伝えてもよい。ろう者がそれを見てどのように思うか意見を聞き、次につなげていくとよい。

#### (19) 話者が外国語で話すとき

- ・英語の音声があるときは、字幕で英語が表示されていても、<英語/会話/映像を指す>と英語で話していることを表すとわかりやすい。
- ・話者が外国語で話すときに、吹き替え音声はついておらず、日本語字幕のみ表示されている場合、

字幕を見て手話通訳を行う必要があるかどうかについては、ろう者も意見が分かれる。ローカル放送の場合は必ず地域で意見交換をするとよい。ろう者の中でも、さまざまな意見があることを番組制作者等に理解してもらう必要がある。

## (20) スリム化

- ・映像・字幕・手話通訳があるということは、情報が非常に多い。手話通訳が頑張りすぎると映像を見る暇がない状況になる。手話数を減らし、映像を見てもらう時間を増やすと、きこえない人にとってわかりやすい。
- ・（受講生より）手話のスリム化のためのトレーニング方法を教えてほしい。

（講師より）手話のスリム化のために省略できる手話単語

### 1) <する><やる>

たとえば、<活動/する><説明/する>などは省略できる。

### 2) <的>

たとえば、<積極/的><具体/的>など。

### 3) <終わり>

文脈に合わせて検討する必要があるが、「～した」と完了の意味を示す<～/終わり>は省略できることもある。

手話をスリム化する際、うなずきを加えることが大切。たとえば、「もしもあなたが行くなれば私も行きます。あなたが欠席するなら私も欠席します」は、<もし/PT2/行く/たとえば/PT1/行く//もし/PT2/欠席/たとえば/PT1/欠席>と<たとえば>を使わず、うなずきを入れることで<PT2/行く/（うなずき）/PT1/行く//PT2/欠席/（うなずき）/PT1/欠席>と表すことができる。

## ①翻訳のコツ

- ・どれだけ手話単語を減らすことができるかについて意識を向けるとよい。手話単語を表情に代える、不要な手話表現は省略し、うなずきを入れる、動詞と方向を表す指さしを表す場合、その方向に合わせた動詞を使って表すことで指さしを減らすなど、いくつかポイントがある。

例）「新型コロナウイルスの流行を受けて」を<新型/コロナ/流行/受ける>と表すのではなく、<流行/ある>、または、<流行/（うなずき）>など。

## ②うなずきの代用

- ・「18 歳以上が対象で…」を<歳/18/以上/対象>と表しているが、<対象>は省略し、うなずきに代えることができる。
- ・<少し>と<終わり>は省略できる。表情をつけて、<戸惑う/うなずき>と表現できる。また、「感動を覚えました」も表情をつけて<感動>のみの表現でよい。

## ③<時>の省略・うなずきの代用

- ・「中学校の時」を<中学/時>と表すことが多いが、<中学/うなずき>など、<時>を省略する表現を考えるとよい。
- ・ろう者に比べ、きこえる人は必要以上に<場合・時>を使っている。たとえば、<手話/まだまだ/

とき>、<昨日/昼/ご飯/食べる/時>など。うなずきや指さしで代わるものは、代替案を検討するとよい。

#### ④接続詞の省略／うなずき・首振りの代用

- ・接続詞はうなずきに代えて、手話を省略することができる。たとえば、<だから>は省略し、うなずきで表すことができる。
- ・複数の事柄を列挙する場合、左手で指を代名詞的に使用する方法を使用することが多いが、説明的で丁寧な印象を与えるため、列挙するごとに軽いうなずきを入れることで、複数の事柄を示すこともできる。
- ・接続詞の手話は省略し、うなずきや首振りで代用できる。<けれども>は首振り、<～ので>はうなずきなど。

#### ⑤指さしの代用

- ・「信用できるもんだなって思ってしまった」  
→<信用/できる/意味/PT1>と、ろう的表現をうまく使ってほしい。
- ・<与党><野党>を何度も表さず、空間で位置を決めた後は、指さしや RS で示すとよい。

#### ⑥手話の強弱・表情の代用

- ・手話の強弱で<好き>の程度を表すことで、<特に>は省略できる。
- ・うなずきが多い場合、視聴者も疲れてしまうため、表情なども駆使する必要がある。
- ・スリム化するときは、手話単語を省略するだけでなく、表情を加えるとわかりやすい。たとえば、口型[mu]と険しい表情で<手厚い支援をする>。<大変>を表情も加えて表す、など。
- ・表情・手話の強弱・スピードなども工夫することで、意味がしっかりと伝わる。  
例) <難しい/思う>は、表情を加えて表すことで、<思う>を省略する、など。  
(他の講師より) 表情を加えた<難しい>という表現ではわからないろう者もいる。正しい表現が1つとは言い切れない。

#### ⑦映像の活用

- ・<避難>を何度も表しているが、映像に表示される場合は、省略できる部分を省略する。
- ・時間的に間に合わないとき、テロップで表示されている場合は、それを指し示すとよい。
- ・早口のアナウンスで「〇〇（肩書）の△△氏」の肩書と名前の指文字の表現が追いついていない。  
映像には肩書と名前が表示されているため、<〇〇（国名）/人>と表すだけで、見てわかる。
- ・長い名称が映像に表示されているときは、名称の頭のみを表し、以降は映像を指し示す。
- ・「フロアごとに設置された棚には部屋番号の書かれた籠が並ぶ」という一文をすべて手話で表すのではなく、映像を指し示した後、<2階/3階/4階/ある>のみ表す。手話の数を減らすことで映像を見る時間を作ることができる。映像を使用し、手話をコンパクトにすることで、無駄をなくすとよい。



#### ⑧両手の活用

- ・左手をホームポジションに戻すのではなく、両手を活用する。「〇〇（地名）の近くのお店」を<〇〇（地名）/（左手）場所>の<（左手）場所>を残し、右手で<辺り>と表すとよい。「…の4か所」と話すときの<場所>は左手も活用して表すとよい。
- ・「ながらスマホをする」は、<スマホ/一緒/歩く>と表すのではなく、<（左手）スマホ>を残したまま<（右手）歩く>と表すなど、両手を活用する。

#### ⑨ノイズの省略

- ・「50 万人以上」を<50/うなずき/万/うなずき/人/うなずき/以上/うなずき>と表している。うなずきは多用しない方がよい。
- ・<予定>は右手人差し指を2回動かすのではなく、1回のみ動かす。
- ・<PT3（彼）>を表すとき、音声に合わせたリズムで2回指さししているが、指さしを使うときに動かすのは1回のみでよい。

#### ⑩繰り返されるとき省略

- ・同じ言葉が繰り返されるとき、最初は具体的に表し、2回目以降は簡単にまとめて表現する方法もある。

#### ⑪省略できる手話単語

- ・「前に少しタバコ吸っていた」の<少し>は省いてもよい。<以前/タバコ/吸う/ある>と表すとよい。  
（他の講師より）<少し>は表す必要がある。
- ・文末に<ある>の表現が多いが、<ある>は省略できる。
- ・インタビューの場面で、「建物の中からお伝えしています」の「から」を<～から>と表している。  
<から>は省略しても通じる。
- ・<一緒/調べる/状況>と表しているが、<状況>は省略できる。<一緒/調べる/手のひらで映像を指し示す>など。
- ・「思っています」と話しているとき、<思う/です>や<思う/いる>の<です><いる>は省略できる。
- ・「大きな混乱をもたらすことになりました」を<混乱/多く/なる/した>と表す必要はない。<なる>や<した>は省略できる。<混乱/多い>と表す。
- ・速いスピードで「〇〇県、△△県、□□県…」と話すと、<県>は省略できる。
- ・「雪が残る」を<雪/残る（積もっている）/ある>と表出しているが、下記画像のように<残る（積もっている）>のみでよい。<ある>の表現は省略できる。



- ・「～させていただく」や「～していただく」と話すとき、<いただく>の手話は省略することができる。たとえば、「資料を読んでいただきたいと思います」は、<資料/読む/お願い>など。
- ・「〇〇名となっています」と話すとき、<〇〇/人/いる>と表すことが多いが、<いる>は省略することができる。
- ・文脈から過去の話と理解できるとき、毎回、文末に<終わる（過去形）>を表す必要はない。
- ・「お話します」を<話す/する>、「よろしいでしょうか」を<構わない/質問>と表しているが、<する>や<質問>は省略することができる。
- ・<なる><する><しながら>は省略することができる。
- ・「いただいたご意見は今後の番組制作に活かしてまいります」を<活かす/もらう>と表しているが、<もらう>は文末で使ってしまうことが多いが、<もらう>の表現ではなく、<意見/頭にしまう>、<意見/わかる>というように、置き換える方がよい。
- ・<～と思います>は、基本的に省略する方が望ましいが、遠まわしな言い方で多用している場合やなかなか断言しにくい場合は、<お願い/したい>や手話の強弱など、<思う>という表現ではない形で曖昧さを伝える工夫が必要である。
- ・「計画を進めたいと思います」は<計画/進める/希望>と表し、<思う>を省略することができる。
- ・「お時間をいただいて私から説明します」と話すとき、「お時間をいただいて」は当たり前のことであるため、省略することができる。「私から説明します」は<から>を省略し、<私/説明>と表現できる。
- ・きこえる人は<状況>の表現を使うことが多い。たとえば、「活動している」を<活動/PT3>でよいが、<活動/状況/PT3>と表すことがある。ろう者にとっては、<状況>がなくてもわかるため、省略してよい。

#### ⑫省略できない手話単語

- ・「内定したが辞めた」を、<内定/辞めた>と表しているが、意味がわからない。逆接の「が」は<でも>の表現が必要となる。
- ・「むちゃくちゃ」を省略しているが、このような表現を省く通訳者が多い。表情の強弱も必要だが、ろう者が意味をつかむことができると言葉の理解が増える。きこえない人に正しい情報を提供するために言葉の意味をどのように伝えていくのかが大切である。

#### ⑬要約する場合の取捨選択方法

- ・「トルコ石などの宝石」を早口で話しているため、<宝石>の表現があいまいになっている。「トルコ石」を省いたとしても、<宝石>をはっきりと表す。

#### ⑭その他

- ・「だいが営業しやすかったですね」は言葉通りに長々と表さず、<営業/スムーズ>のみでよい。
- ・遠まわしな表現や、手話として表現しなくても伝わる日本語は、翻訳の時点で省略できることがある。たとえば、「9月17日月曜日から昨日までの1週間で、新規患者が合計107名発生しました」の文章で、「9月17日月曜日から昨日までの1週間」は、<9月17日/から/昨日/まで>や<9月17日/から/1週間>と<月曜日>や<昨日/まで>または<1週間>を省略することができる。ま

た、「新規患者」は、＜患者＞のみで通じる。＜合計＞や＜発生＞も省略することができる。話者の言い回しをつかみ、省略できる部分を省略していくと、よりはっきりとした表現になる。

## 11. 文法 (NM)

### (1) 表情

- ・表情は、「喜怒哀楽」と「文法」の2種類の意味がある。どちらの何が足りないのか、分析する必要がある。
- ・きこえる人は声色で感情がわかるように、ろう者は表情を見て感情がわかるため、表現に表情を加える。
- ・同じ手話単語であっても、表情によって意味の違いや話者の変化がわかるため、演技力も必要となる。
- ・「衝突被害軽減ブレーキ」は、両手で＜車＞を表し、衝突しそうになり、止まって元の速さに戻るという状況を、表情も含めて表すとよい。



- ・「〇〇（地名）の中はすごい赤ちゃんが多くって、あの一、出生率がもう日本の5倍くらいということで」の「5倍」について、どの程度の数字なのかわかるように表す。今回は、「多い」という意味を含むため、表情をつけてその多さを表す。また、文末に＜多い＞の手話を付加すると、なおよい。
- ・「蒸し暑い」は、＜べたべた＞を両手で上から下におろしながら繰り返す表現と[不快]の表情で表す。
- ・「兵隊が寝るための穴を掘り、こどもなら 200 人寝られる」を無表情で表している。目だけでも[驚く][大変]の表情があると伝わりやすい。
- ・「暑い」を表すとき、＜温時計＞の左手人差し指を思い切り高く上げて表しているが、[不快]の表情でその暑さを表現する方がよい。



- ・避難所に台風が近付いている情報を見る様子をニュートラルな表情で表しているが、気持ちが伝わらないため、気持ちに合わせた表情を表してほしい。

- ・「…壊れてますよ」「…あえて壊したんです」の違いを表情で区別させることができる。
  - ・眉は動かさず、目のみが動いているため、表情筋を動かす練習をするとよい。
  - ・[楽しい]などの場面ではないときに、表情が笑っている。内容に合わせた表情にしてほしい。
  - ・<おいしい>を表すとき、手話単語だけでは表現として弱いため、表情をつける必要がある。
  - ・「学生が憤っている」を表すときの表情が優しく、内容に合っていない。
  - ・<守る>は口を結んで力強い表情を付けることで「厳重に守る」という意味になる。
  - ・表情がないため、質問か説明しているのか、状況がわからない。
  - ・「日本酒って、香りが大事」は、CL を使い、<お猪口>をそのまま残し、お猪口から香るように表情を加えるとわかりやすい。
  - ・<怒る>を表すとき、口型[pa]となっているが、目は笑っていた。顔の上下で表情がリンクしていないと感情がつかみにくい。しかし、<怒る>にも程度があるため、ろう者の表現から学んでほしい。
  - ・詐欺の内容で、金額の重みを表情や語彙の選択を検討し、表す必要がある。「～請求された」の文脈に含まれる意味を表情等で補足する必要がある。
- (他の講師より)「騙されないで」という本来の意図を伝えるときに、優しくきれいに表してしまくと、言葉としての表層的な部分しか伝わらず、伝えたい内容がわからず、他人事になってしまい、「騙されないぞ」という思いに至らない。たとえば、「消費者トラブルが急増しています」は単にニュートラルな表情で表すのではなく、「それって困るよね」という意味を含んだ表情で表す必要がある。また、見積書を比較検討する部分についても、「騙されないようにいろいろなところにきく」など、具体的な行動を表すとわかりやすい。

## (2) 口型

- ・口型がはっきりしていない。口型がない、多い、手話表現と一致していないことがあった。口型と手話を同時に見ている人がいることも踏まえて、口型をきちんと表してほしい。
- ・口型は、映像通訳では見にくいいため、口型に頼らずあくまで手話を主として表現するとよい。

### ①日本語通りに表すとき

- ・「年末年始」の「ねんまつ」までは口型がついているが、「ねんし」は口型がついていなかった。口型をつける場合、言葉の最後まで口型をつけてほしい。固有名詞には基本的に口型をつける。
- ・ろう者と話す際に、名詞には日本語通りの口型をつけるが、動詞には日本語の口型をつけないということを意識する。通訳のときだけではなく、普段から意識しておく。
- ・口型が小さいが、固有名詞は特にはっきりと口型を表す。

### ②音声に合わせてとき

- ・「医者」に対し、[おいしゃさま]と口型をつけているが、ナレーションが「お医者様」と言っていないのであれば、意味を持たせる口型はつけずに[いしゃ]とする。
- ・「訓練」の口型が[れんしゅう]、「重要」の口型が[たいせつ]になっているが、聞こえた通り正しく口型を表す。

### ③手話として適した口型

- ・口が一文字になって力が入っていることがある。口に力が入っていると意味を持たせてしまうため、普通に力を入れず口をつぐんだ状態にするとよい。
- ・3回同じ動きをする手話を表すとき、口型[パンパンパン]と出してしまう。通訳者は、意味のない場面で[パンパンパン]という口型を表すことが多いが、ろう者の表現を見ると、口型[mu]で表していることが多い。相応しい口型か、ろう者の表現を見て分析するとよい。
- ・「すっごく本当にモチベーションが高くって、会議でもなんか止めようがないくらい」を口型[もちべーしょんたかい]で<積極的/的/高い>と表出している。議論が盛り上がっている様子を伝えるため、口型[mu]で<積極的/議論>の方が望ましい。
- ・「取材に応じてくれました」を<取材/応じる/<くれた>と表出しているが、日本語通りのままの口型が付いている。口型と手話表現が合わないと、「取材に応じてくれました」という日本語を伝えたいのか、「取材に応じてくれた」「取材で話をした」という意味を伝えたいのかわからず、どのような日本語を話しているのか、ろう者は気になってしまう。意味のない口型は付けない方がよい。
- ・口型が多い。動詞・形容詞の場合は口を閉じててもよい。名詞の場合は口型を付ける。口型をどこに付けて、どこを省くのか工夫しながら表す練習をしてもらいたい。  
(他の講師より) 日本語だけではなく手話の口型も正しく付けてほしい。  
(他の講師より) <支援>や<引継ぎ>には口型を付けない方が適している。
- ・語尾の口型について、日本語としては丁寧で、終始、「ございます」と言っているが、通訳の際、口型が[ございます]や口型[mu]など、混ざっている。意図的にそのようにしたのか、自然に出てしまったのか、映像を振り返って分析をし、どのように表せばよいか検証するとよい。日本語につられた口型になり、うるさくならないように、ある程度必要な口型以外は省略したり、動詞はできるだけ手話にあわせた口型にしたりするなど、意識すると見やすくなる。
- ・日本語の助詞の口型を付けているが、意図的なものがないのであれば、「～が」「～には」などの助詞に口型を付けない方がよい。

### ④5W1H・助数詞

- ・「69歳」を口型[69さい]として、<歳/69>と表している。<日付><場所><歳>などの5W1Hを表し、具体的な固有名詞、数字を表す際は、口型も手話に応じて表す。  
例) [とし/ろくじゅうきゅう]

### ⑤訓読み

- ・「昨夜」を<昨日/夜>と表出する際の口型が[さくや]になっている。ろう者は一般的に口型[きのう/よる]と表すことが多い。漢語の場合、口型を日本語通りに表すのではなく、1漢字ごとに訓読みで表すことが望ましい場合も多い。一方、「積極的」を日本語としての「積極的」という単語を伝えたいのではなく、意味を伝えたい場合、口型[せっきょくてき]ではなく、口型[mu]の方が好ましい。どのような口型を選択するとわかりやすいかを考えるとよい。
- ・同じ手話でも、日本語通りの口型ではなく、日常的にろう者が使っている口型に合わせる。たとえば、「国内初」を<日本/初>と表し、[にほんはじめて]と口型を表す。

#### ⑥日本語単語の例

- ・「プロセス」「過程」「経過」は、手話は同じだが口型をきちんと付けることで、言葉の違いがわかりやすくなる。
- ・「～ではないか」は、口型[pe]としているが、ニュースでは口型[mu]がよい。
- ・「しかしながら」と話すとき、手話表現は<でも>と表してよいが、口型は[でも][しかし]で止める。
- ・「一方」と話すとき、口型がついていると気になるため、つける必要はない。
- ・「赤ちゃん」と話すとき、口型は[にゅうじ]と表している。専門的な場では[にゅうじ]と表すこともあるが、一般的な「赤ちゃん」を示す場では、[あかちゃん]の口型の方がろう者には受け入れやすい印象を与える。

#### ⑦手話単語の例

- ・「職場の人が集まる」を口型[pa]で<集まる>と表しているが、口型[mu]で<集まる>と表す方が望ましい。
- ・<減る>を表すとき、口型は[pa/pa/pa]と表している。たとえば、急に減少したときや、雑談や冗談で話すときは[pa/pa/pa]という口型を使うこともあるが、映像通訳（テレビ放送など）では口を閉じる方が望ましい。
- ・「医療支援」の<支援>の表出時に、[pa/pa]という口型になっている。口型[pa]は<終わり><失敗した>を表すときに使用するが、<支援>で使用するのは好ましくない。口型[mu]の方が意味に即している。
- ・「紛争地」を口型[pa]で<戦争/場所>と表出している。「噂」と読み間違えた。非常に大変な様子を表すときは、口型[mu]の方が好ましい。
- ・<担当>のとき、口型は[になった]より、[たんとう]の方が手話の口型として相応しい。適切な口型を考える。
- ・「雪が残る」を表すとき、<雪/あたり>と表しながら口型が[のこる]となっていた。「雪が残っていること」を伝えたいのであればよいが、「雪があること」のみを伝える場合は、口型は不要である。ろう者としては口を見てしまうため注意する必要がある。
- ・拍手するとき、[パンパンパン]と口型がついていた。神社でお参りをしているような印象を与える。意味がないときは口を閉じる方がよい。
- ・「早産で生まれる」を口型[po]で<生まれる>と表していた。異なる意味になってしまうため、意味を考えて口型を選択する。

#### (3) 目線・視線

- ・目線は、ナレーターや話者などのカメラ目線とRSの目線など、その立場によって切り替える目の向きのこと。視線は、手話単語に付加する意味を示す目の向きのこと。
- ・視線の活用の仕方は、日本語文を見て翻訳方法を検討したり、ろう者の映像を見て、どのような目の動きをしているか発見をしたりしていくことが大事である。
- ・ナレーションは、カメラ目線。他の話者は、カメラ目線から外すというように、使い分けるとよい。カメラ目線の際は、レンズの奥を見るように心がける。

### ①カメラ目線

- ・カメラ目線ではなく、どこか違う部分を見ているように感じられる。カメラ目線でないと、ろう者に対して、自分に伝えようと思ってくれているという印象を与える。通訳中にスタッフなどから質問をされるときや、会見時、どのカメラが収録用のカメラかわからず目線がずれてしまうこともあるが、基本的にはカメラ目線で表すことが大事。
- ・カメラに向かって<できる/か?>と表していた。カメラ目線で強く問いかけると、話者の台詞というより、テレビの前の視聴者に問われているように見えるため注意が必要である。
- ・ナレーターなどが話すときも、終始カメラ目線ではなく、必要なときは目線を外す方がわかりやすい。たとえば、「県民、観光系の企業、飲食店からご支援いただきました」は、<県民/観光/企業/飲食店/支援/支援/支援>と3回の<支援>でそれぞれ3方向に向いて表す。

### ②距離感・大きさを示すとき

- ・手話の縮小版を使用する場合、実物に目線を向けなくても、縮小版の対象に目線を向けることで、その意味が伝わることもある。また、逆に手話の向こう側に対象があると仮定し、そこに向けて視線を向けることもある。たとえば、<会う>。

下記画像の<会うA>は、手話と自分の状態を一致させ、会う対象の手話を見ている。

<会うA>



下記左画像の<会うB>は、下記右画像の<会うC>のように手の位置を上げずに、目線の先に対象がいるということがわかる。

<会うB>



<会うC>



- ・視線の角度によって、その場所の広さを伝えることができる。
- ・高さは、視線で表すことができる。たとえば、スカイツリーなどどこまでも高い建造物と天井まで2mの部屋では、視線の使い方でその高さを表すことができる。
- ・カメラの方向を見て手話だけを表すのではなく、<2m>のときは見上げ、<1m>のときは小さいものを近くで見ているように視線を落とすなど表現を工夫する。

### ③対象物を見るとき

- ・実物を見て、その感想を伝える場面では、実際にそのものを見る動作の後に、感想を述べるとよい。たとえば、「字が細かい資料を渡された」は、<資料/もらう（目で見ると）/字/小さい>と表すとよい。
- ・「ちょっとしたテーマパークみたいになってますけども、かわいい」とたくさん並んでいる作品を見ながら「かわいい」と話しているとき、<（左手を<男>と表し）かわいい>と単数で表出した。たくさん並んでいる作品がかわいいという意味であるため、並んでるようすを目で眺めながら<かわいい>と左から右へ動かして複数の表現をするとよい。目の効果的な使い方ができるとよい。
- ・有名な文化財を紹介する、興味を持たせるような内容では、丁寧な手話表現が求められる。<有名/文化/財産/何/〇〇>と表すと興味を持って見ることができる。その際、カメラを凝視するのではなく、目線や表情も加えて文化財を表現する。
- ・基本はカメラ目線だが、文法として必要なときは目線を外す必要がある。たとえば、「町内を見渡す」は、終始カメラ目線のまま表すのではなく、目線を外して見渡す必要がある。ついカメラがあると視線を外すことが怖くなってしまうが、外さないと伝わりにくいということを意識することが大事である。
- ・必要な視線の動きが少なかった。たとえば、「施設におけるクラスターに関連し、施設や職員に対する誹謗・中傷等はあってはなりません」を<施設/クラスター/PT（施設）/対象/批判/しない>と表し<施設>の場所を作った場合、それに対して<批判>まで視線を向けてから正面に戻る必要がある。常にカメラ目線ではなく、手話の文法として必要な視線の動きがある場合は、気を付ける。  
(他の講師より)話者の話の中でも、たとえば「高齢者施設における検査の徹底を図る」をそのまま表すのではなく、<検査>を表すときに検査をする自分にシフトし、カメラ目線に戻るという表現もできる。
- ・「日本酒がたくさんそろっており」と話すとき、<ビン>を何本も並べる表現をしているが、<ビン>を2回ほど表し、その先に目線を向けることで数の多さを表現することもできる。

### ④話者の明確化を行うとき

- ・ナレーターの話はカメラ目線、それ以外の話者はカメラ目線を外すことで話者を明確化する。
- ・少しカメラ目線を外す工夫があるとよい。医師との会話では、医師の方を見る RS を入れる、など。

### ⑤考える姿を示すとき

- ・「〇〇県でいったら…」と話すとき、上や下を見て考える様子を加えると視聴者と一緒に考えるような印象を出すことができる。番組の雰囲気によっては、常にカメラ目線ではなく、目線を外した表現を入れてもよい。

### ⑥その他

- ・複数の国についての話題で、「〇〇（特定の国）」に対する視線が上になっている。対等な立場を示す内容であるため、同じ高さで表す。



- ・意味のない視線の動きが多い。斜め上を見るときは何か考えている、斜め下を見るとき時は落ち込んでいる、話者の方を見る場合「話者の意図がわからない。聞き取れない」など、意味を含んでしまうため、不要な視線の動きは省略し、正面を見る。

#### (4) 眉

- ・眉を上げる必要のない場面で眉が上がっているが、眉上げには意味があるため、注意する。
- ・「苦手意識というのがあったのですか」と質問するとき、表情がないため、苦手意識があったことを断定しているように見える。質問をするときは眉上げをする。

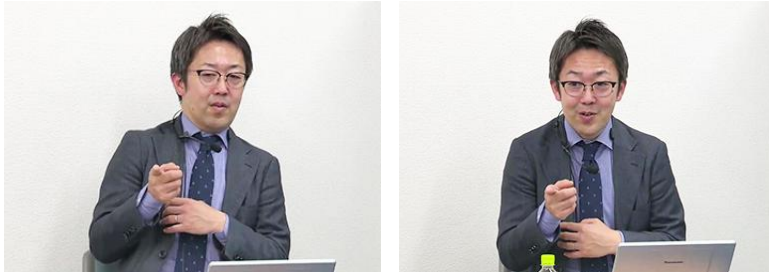
#### (5) 目

- ・目を瞑るときは、「考え中」であることや、「時の経過」を示す。目を見開くときは、「発見する」などの意味合いを持つため、意味合いを持たせないのであれば、目の開き方を意識する必要がある。
- ・名詞を強調するときには目を開く、逆に細めるなどの工夫が必要である。
- ・目を見開いたり、細めたりするとよい。前から知っていたのではなく、「初めて発見した」状況や、「手に取って見ていたらたまたま発見した」という状況を目の見開きで表現するとわかりやすい。
- ・「海岸を散歩中に見かけた流木がヘビのように見えたことがきっかけで、流木でのアート作品作りを思いつきます」を表すとき、CLで表す前に、まず流れてきた流木を見て「発見」の意味の目を見開く NMがあると伝わりやすい。
- ・「夜遅く」と話すとき、ギュッと目を閉じているが、〈深夜〉という意味になってしまうため、通常の〈夜遅く〉を表したいときは、必要以上に目を閉じない。
- ・緊張や癖もあると思うが、目の動きは意味が生じてしまうため、必要のないまばたきや目を瞑る表現はない方がよい。
- ・目を見開いてから手話を表すと、「大事なことを話すために注目してほしい」という意味が込められるが、不要な場面でも多用するとうろろ者は疲れてしまうため、自分の目の開き方について分析するとよい。ろう者はどのような時に目を開くかに着目して自分の中に取り込むとよい。

#### (6) 身体の傾き

- ・表現に合わせて前後の動きにも気を付ける。後ろへ引く、前傾するなど。
- ・「障害者の介護」の話題では、表情のみならず、身体を傾けるなどの工夫も必要である。

- ・同じ手話単語であっても、表情や身体の傾きによってニュアンスが異なる。特に映像ではその違いが明白になる。たとえば、下記画像はいずれも「きっとこちらですよ」という日本語文を、対象物を指し示す表現で表しているが、表情と身体の傾きが異なるため、「きっとこちらですよ」に含まれるニュアンスが異なる。



## 12. トレーニング

### (1) イントラリンガル

- ・聞いた日本語をどのように表すかを考えるだけでなく、文脈で区切り、文の塊ごとにどのように表すかを検討する、イントラリンガルトレーニングを行うとよい。トレーニングを行うことで、日本語としての幅も広がり、手話に置き換える前の再構成のヒントとなる。  
自分の手話を撮影し、見て振り返ることで他に相応しい表現がないか検討することができる。
- ・単語レベルの言い換え、文章レベルの言い換え（パラフレーズ）のトレーニングがある。
- ・名詞を文章で噛み砕いて説明するトレーニング  
たとえば、「受験勉強」を噛み砕いて説明すると、「学校に入る前の試験で合格するための勉強」。
- ・文章を名詞に言い換えるトレーニング
- ・対義語の言い換えトレーニング  
肯定語を使用することもできる。たとえば、「古い」→「古くない」「新しい」など。
- ・上位語と下位語の使い分け  
たとえば、「植物」を表すとき、<草/木/花>か、<植物>とするか、使い分けることができる。
- ・書き言葉と話し言葉の言い換え  
たとえば、法律のような堅い文章をこどもがわかるように説明するなど。

### (2) サマリー

- ・サマリー技術の向上のトレーニング方法  
新聞記事や、何らかの音声を聞き終えてから、サマリーする。映画の内容を日本語や手話で伝える。このようなトレーニングを行うことによって、話者の話す速度が速く、通訳が追いつかない場合、何を省略できるかを検証することができるようになる。  
また、具体的な数字は表現できない場合も、上向きか、下向きか、横ばいかなど、結果としてどのような意味を持っている数字であるか、表現できるようになる。
- ・新聞を読むだけでなく、ラジオを使う方法もある。大切な単語・固有名詞を判断する練習、どのように単語を置き換えれば手話でわかりやすく伝えられるかを意識しながらきく練習などもある。話題に対する知識があると、正しく理解し、スムーズに表現することができる。

### (3) 体幹

- ・姿勢がS字になってしまっている。頭のブレが減ると、自然と直立できるようになる。直立できるようにするためのトレーニングとして、鏡の前に立ち、2分間、まっすぐな姿勢で立ち、ぶれないことを意識して、通訳練習をするとよい。
- ・体幹トレーニングを行うことで、左右のバランスを調整する。

### (4) 表情

- ・鏡を見て、喜怒哀楽の表情をトレーニングする。手話と表情が合っているか、自分でチェックする習慣作りをするとよい。

### (5) 手のストレッチ

- ・1) ゴルフボール、テニスボール、バレーボールなど、大きさの違うボールを用意し、毎朝10秒片手でつかむトレーニング。利き手、非利き手ともに行う。
- ・2) ボールペンを両手で持ち、小指から離し、また順番に握るトレーニング。  
非利き手も行ふことで、非利き手でも指文字を表せるようになり、自然と表現にも活かせるようになる。



### (6) その他

- ・（受講生より）事前に原稿が提供されない同時通訳の際の翻訳のトレーニング方法について教えてほしい。  
→（講師より）1つは、シャドーイング後にサマリーするトレーニング方法がある。シャドーイングのみの場合、「きく」ことに集中するが、その後にサマリーをすることで、「正確にきくこと」と「記憶すること」の2つの力を保ちながら、要約する力を身につけることができる。日本語でまず聞いてから、記憶し、それを要約してもう一度言語化するという作業の中で、聞き溜めの力が身につく。  
もう1つは、リプロダクション。「てにをは」など、助詞も含め、日本語を再現する方法。きく部分に集中することで、聞き溜めの力を身につけることができる。  
これらの訓練を行うことによって、「きくこと」のウェイトをできるだけ下げ、表現に意識を集中させていくことができる。
- ・手話の表現の癖は、映像で見ると分析しやすいため、繰り返し見て修正していくとよい。

## 13. その他

### (1) お辞儀

- ・話者がお辞儀をするときは、通訳者も一緒にお辞儀をする方が自然に見える。
- ・「よろしくお願いします」と同時に礼をしない方がよい。〈よろしく/お願い〉と同時に礼をする  
と、対面通訳では違和感がないが、映像通訳で見ると少し違和感があるため、〈よろしく/お願い〉と表した後に礼をするとよい。

### (2) 話者の話し声以外の音声情報

- ・ナレーターや話者の声とは別に、明瞭ではない小さな声で「〇〇放送局の□□です」と挨拶している部分などは、通訳すべきか。  
曖昧で手話が途中で切れてしまうとよくないため、映像を手のひらで指し、視線の誘導を増やすとよい。映像を見てわかることは、無理に通訳する必要はない。見てわからないことは通訳してほしい。その場の状況に合わせて判断してほしい。
- ・知事会見中に、カメラの撮影範囲外で会話を交わしているとき、すべての通訳は難しいと思うが、〈今/話しあい/中〉〈今/確認/中〉などと表すことも大切である。  
(他の講師より) どこまで情報を伝えるかの判断は難しいと思うが、きこえる人は音声で全部さいているため、同程度の情報を表すことができるように努めてほしい。  
(他の講師より) 映像には映っていないが、知事会見などで、同席の県職員や記者同士が話し始めることはよくある。誰なのかわかれば、〈県/職員/説明/中〉〈記者/お互い/話す/中〉など、話の内容がわからなくても伝える方がよいのではないか。また、記者の発言が聞き取りにくいときに記者の方向を凝視してしまうが、きこえない人にはわからない状況であるため、基本的には、視線はカメラの方向に向ける。
- ・話者が別の方と内部的な話をしているとき、通訳する方がよいか。  
話の内容がわからない場合は〈担当者/確認/中〉、話の内容がわかるときは〈担当者/〇〇について/確認/中〉など、状況がわかるように表すとよい。
- ・映像や字幕では見えないが、こどもたちが「怖い」と言っているところも伝えてほしい。
- ・本編映像の観客の拍手を通訳するかどうか。  
特に話題に触れていない場合は、通訳する必要はないと考えられるが、その後、ナレーターが「会場が盛り上がっていましたね」など、盛り上がっている様子について触れている場合は、拍手や盛り上がりの声などを通訳しておくことも必要。  
(他の講師より) 完成する映像の中で、本編映像と手話通訳画面が近く、視線の移動が少ない場合は映像を見て拍手している様子も見て確認することもできると思うが、本編映像と手話通訳画面が遠い位置にある場合、手話通訳を集中して見ているため、拍手していることがわからない。そのため、余裕がある場合は、できれば拍手の音についても通訳してもらいたい。ただ、拍手を入れることで内容が追いつかない場合は、省いてよい。
- ・笑い声の通訳は必要か。  
「ははは」「ふふふ」といった笑い声を表すのか省くのか考えてみてほしい。字幕にあれば手話通訳はしない、字幕がないときは手話通訳をするなど、自分なりの基準を作ってはどうか。

### (3) 話者の声量の情報

- ・声の大きさを手話で表出する必要があるかどうか。話者がとても大きな声で「頑張ります」と話するとき、声の大きさは、<声/はっきり>や<声/大きい>と手話で表してよいのか、分析が必要。

### (4) 聞き溜め

- ・「もともと暑い中、体が慣れてくるのに…」のを日本語通りの語順で表すとき、<もともと>が何なのか。理解する前にすぐ単語を表現すると、何が「もともと」かわからないため、聞き溜めしてから表す。
- ・単語レベルとは異なり、文レベルの翻訳は聞き溜めし、意味をつかんで語順を変えて表現するため、訓練が必要である。
- ・聞き溜めをするために、一定の「間」が生じてしまうが、映像通訳の場合は特に、通訳が止まっていると思われる怖さ、表現していない間が生じる怖さがある。しかし、その怖さからの脱却が必要となる。聞いた内容をすぐ手話で表すのではなく、日本語音声聞いたときに、手話の表現として相応しい日本語の語順に組み立てていき、平易化していくことが必要である。そのように意識していくことで、思考が変わってくる。たとえば、「～～という状況であります」は<状況/ある>を省略するなど。

### (5) 音声からの脱却

- ・日本語につられてしまう状況は、おそらく3つあると考えられる。1つ目は、話が速いとき。2つ目は、自分が発言の内容を理解できないとき。3つ目は、手話学習者や手話通訳者に見られているとき。この3つの場合には、比較的、「その日本語をきちんと手話化したい」という状況になるため、意味が理解できないうちにすぐ表現することで、なんとなく日本語と同じ語彙量を表現したくなってしまうと考える。そのような状況から脱却すること重要である。その「単語・語彙」ではなく、その場での「意味」を表すことが大事と考える必要がある。
- 例) 「3密の環境を作らないなど」を<3/窮屈(鼻を触る)/環境/作る/しない>と表しているが<3まとめる/首振り>と表し、スリム化することができる。
- 「私からは以上です」を<私/から/以上/です>と表しているが、意味としては<私/説明/終わり>などが望ましい。

### (6) 意識と誤訳との境界線

- ・「無症状」という言葉をきいて、<熱/無い>と表すのは、医師など専門家が判断するものを通訳者が勝手に判断していることにならないか。<症状/無い>など言葉のまま表す方がよい。通訳者の勝手な翻訳になっていないか。
- (他の講師より)「無症状」「軽症」の対義語は「重症」であるため、<感染/重症/違う>と表してよいのか、難しいところである。

### (7) 場面に合った表現

#### ①エンタメ

- ・手話通訳者の基本的なスタイルとして、「控えめに、出すぎない」というスタンスがあるが、漫

才のような面白い内容で、そのスタンスを守り続けているとまったく面白さが伝わらない。ガンガン前に出ていくような通訳をしたらよいのか、最初から拍手をしながら出てきたらよいのか、ろうの芸人のように、相手を読んでから会話を始めるような表現にするのがよいのか。ろうの芸人など参考にしながら、エンタメ系の通訳の在り方を検討していく必要がある。

## ②知事会見

- ・行政に合った通訳の仕方が必要だが、どこまで表情を変えたらよいのか、どこまでが行政の通訳表現として相応しく、何が相応しくないのか。その表情は顔、手の動き、状態、何を指すのか、ろう者も含めて議論が必要だと思う。

## (8) 心構え

- ・原稿をいただくことができない同時通訳の場合、表現に迷ったり、詰まったりしてしまっても、話者の話は進行していくため、「捨てる覚悟、先へ進む勇氣」を持ってほしい。

## 14. Q & A

- ・（受講生より）話者が言葉を言いかけた後に、次の言葉が続かず「間」があるときは、その状況をどのように表出したらよいのか。
  - （講師より）正面を見たまま動きを止める方法がある。また、言葉が続かない状況を表したい場合は話者を見る方法もある。手話映像は、本編映像とは別撮りする場合、思い切り本編映像の方を見ると効果的である。また、あえてカメラ目線を外す「独り言手話」を使う方法もある。
- ・（受講生より）対面通訳、舞台通訳、映像通訳で意識する部分の違いは何か。
  - （講師より）対面通訳は双方のコミュニケーションがとりやすい。舞台通訳は双方のコミュニケーションがとれるときもある。映像通訳は一切コミュニケーションをとることができない。対面の場合は、その場で反応を見ながら表現について確認したり、ろう者にフォローしてもらったりすることもできる。ただ、同じ日にそのまま舞台通訳を担当すると、手話が小さかったと言われるときもあった。いろいろな場面を経験する中で、それぞれの場面の通訳技術が高まっていくと思う。さまざまな場面での試行錯誤を繰り返しながら、見やすさのバリエーションを増やすことができる。それぞれの場面が相互に繋がり、応用が利くと思っている。
- ・（受講生より）あいまいな話の通訳の仕方はどのようにすればよいのか。
  - （講師より）そのあいまいさについても、曖昧な回答をしているということがわかるように通訳をする必要がある。ただ、日本語をそのまま手話単語に置き換えるとわからないが、手話の特徴であるダイレクトな表現にすると、直接的すぎる場合もある。その匙加減の中であいまいさを伝えつつもダイレクトに表現しないという選択をしていくように心掛けている。
- ・（受講生より）聞き溜めしているときや、翻訳を考えているとき、まばたきをしてしまうが、どうしたらよいのか。
  - （講師より）同時通訳で聞き取りづらいときや、聞き溜めしているとき、まばたきをしてしまうのは仕方ないが、手話通訳が後日収録の場合は、まばたきをするのはあまり好ましくないのではないかと。普通の表情で聞き溜めてわかったところでうなずきをして始める方がよいかもしれない。

れない。

→（講師より）個人的には気にならなかった。逆に意識しすぎるとまばたきが増えてしまうのではないかな。自然なことなので問題ないと思う。

- ・（受講生より）主語を表す<男><女>などの手語を表すとき、ジェンダーアイデンティティがわからない人を示すときはどのように表すとよいかな。

→（講師より）ジェンダーアイデンティティがわかるかどうかにかかわらず、<有名/手のひらで映像を指す>と映像を示す形で表す。

→（講師より）「身体が大きい」「よく話す」「よくテレビに出ている」といった一般的な特徴を捉えておくことが大事。どこまで表すかは場面によって選択する必要はある。

- ・（受講生より）スリム化と語彙の追加のどちらを優先したらよいかな。

→（講師より）話すスピードが遅かったり、自分としてもよくわかる話で余裕があったりする場合は、手話の語彙を追加してわかりやすい翻訳を目指すということが必要。ただ、話すスピードが速くてわからない場合はスリム化を目指す必要がある。どちらも目指したいが、最善でわかりやすい方法を検討していくことが大切。

- ・（受講生より）会見などで「きれいな手話」が求められるのか。

→（講師より）「きれいな手話」をしても、結局ろう者が見てわからないものでは意味がない。伝わる手話を意識する。

- ・（受講生より）人名の表現が1回目と2回目で異なるときの対応方法について

→（講師より）同一人物ではないと思ってしまうため注意して欲しい。もし名前を間違えてしまったときに修正できないため、1回目と2回目で違う名前の表現をしてしまったときの対応を考えてほしい。

- ・（受講生より）話者の話すスピードがとても速いため、手話の大きさの調整が難しいが、どのようにしたらよいかな。

→（講師より）手話映像の大きさによって、映像の枠が小さい場合は大き目に、枠が大きい場合は小さくするなど、見やすさによっての調整が必要。しかし、あまり動きが大きすぎると一つの動作に時間がかかってしまい、小さすぎると動きが速くなり見にくくなることもあるため、実際に映像を見ながらちょうどよい大きさを調整する。

また、1つの日本語に対して、手話の語彙のパターンがいくつかある場合、それぞれの表現の速さを認識し、使い分けられるとよい。たとえば、<泳ぐ>。下記左画像よりも右画像の方が速く表現できる。



逆に、話すスピードが遅いときは、表現する手話数を増やし、尺を埋め合わせる。「勉強」と言われたときに、<勉強/書く>など、話すスピードに合わせて選択することができるとよい。

## 参考文献

- 一般財団法人全日本ろうあ連盟（2015）『わたしたちの手話 学習辞典Ⅰ』  
社会福祉法人全国手話研修センター（2023）『手話奉仕員養成テキスト「手話を学ぼう 手話で話そう」』  
松岡和美（2015）『日本手話で学ぶ 手話言語学の基礎』くろしお出版  
松岡和美・内堀朝子（2023）『手話言語学のトピックー基礎から最前線へー』くろしお出版



テレビジョン放送における手話通訳実践に役立つ参考例集

発行日：令和7（2025）年3月31日

編集・発行：「テレビジョン放送における手話通訳実践に役立つ参考例集」作成委員会

発行所：株式会社アステム

〒530-0044 大阪府大阪市北区東天満 2-7-12 スターポート

メール：jimukyoku@astem-co.co.jp